

相知芳谷	豊岡	宮尾	中津原	赤池	三井田川	方城	峰地
佐賀	同	同	同	同	同	同	福岡
電気メー ル捲機	切羽運搬機	同	電気捲揚機	電気捲揚機	電気捲揚機	同	切羽運搬機
単胴式	複胴式	同	單胴式	逆轉式	單胴式	下網式	可搬單胴式
三三〇	三七	一八六	二三八	一五	七四六	二三四	七四六
一	二	一	一	一	一	一	一
新設	三三・七五ハ増設 一八・七五ハ新設	蒸氣捲ヲ電氣捲ニ變更	新設、從來ノ二九・八「キロワット」ヲ取替	同	新設、從來ノ二九・八「キロワット」ヲ取替	新設、片磐運搬機	同

住友吉野浦	中里	住友大瀬	池野	鹿町	住友吉井	高島	崎戸	松島	白嶽	杵島	岩屋
同	同	同	同	同	同	同	同	同	長崎	同	同
同	同	同	同	同	電気捲揚機	蒸氣捲揚機	電気メー ルロープ捲機	同	電気捲揚機	切羽運搬機	電気捲揚機
同	同	單胴式	復胴式	同	單胴式	復胴式	復胴式	單胴式	逆轉式	單胴式	單胴式
二三八	五三(三七二)	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
一	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	新設	増設				新設、從來ノ蒸氣捲ヲ廢止ス					同

(ハ) 其他ノ非金屬山

鑛山名	府縣名	種類	樣式	キロワット數	臺數計	備	考
高針	愛知	蒸氣捲揚機	單胴式	三七	四	増設	
上野間	同	同	同	三七	一	新設	
池之内	同	同	同	三七	一	増設	
高藏寺	同	同	同	三七	一	新設	
高藏	同	同	同	三七	一	増設	
尾北	同	同	同	三七	一	新設	
報國	同	同	同	三七	一	同	

●坑外運搬設備 採鑛採炭方法ノ改善、坑内運搬設備ノ充實ニ伴ヒ自然坑外運搬力ノ増加ヲ必要トスルニ至リソノ改善ニ努メタルモノ多シ、本年度ニ於テ新設又ハ増設ヲナシタルモノ次ノ如シ

(イ) 金屬山

鑛山名	府縣名	種類	樣式	キロワット	臺數	軌量條	軌距	延長	備	考
轟	後志	架空索道	自動式	二二	一			二八	増設	
花岡	秋田	同	單線玉村式	二二	一			二九	新設	
永松	山形	ガンソリン機關車	フオードA型	三四	二				同	

(ロ) 石炭山

神岡	岐阜	傾斜捲揚機	電氣單胴式	三七	一			九六	新設	
明延	兵庫	架空索道	復線自動交走式		一			六〇	増設	
生野	同	同	玉村單線式		一			六〇	同	
見立	宮崎	電氣捲揚機	復胴式		一	七六	六	三八	新設	
三井串木野	鹿兒島	貨物自動車	フオード式		一				増設、一應半	

鑛山名	府縣名	種類	樣式	キロワット	臺數	軌量條	軌距	延長	備	考
夕張	石狩	電氣捲揚機	單胴式	四四	一	八〇	五〇	三〇	改新設	
新夕張	同	同	同	四八	一	二二	六〇	一八	新設	
空知	同	同	同	三七	一	二〇	六〇	二七	同	
幌内	同	電氣循環機	圓錐型	三七	一	九〇	四五七	二五	同	
三井砂川	同	軌道	電氣單軌式	二四	一	二四	六〇	二八	増設	
三井美唄	同	電氣循環機	下網式	一九	一	八〇	六〇	二九	新設	
奔別	同	同	同	二六	一	七二	六〇		同	
歌志内	同	電氣捲揚機	單胴式	三三	一	二二	六〇		同	
同	同	同	同	二九	一	二四			新設	

大石	東見	沖之	有木	大嶺	早良	三池	粕屋	昭龜	大和	敷島	高田	大辻
田山	初山	山同	木同	嶺同	良福	池同	屋同	山同	和同	島同	田同	辻同
形	口	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
ウオーシントン	タービンポンプ	移動式ポンプ	タービンポンプ	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一四九・三(八九五)	二・三(三七三)	二・三(三七三)	一四九・二(九三三)	三三・三(二八六)	二・四	三三・三	一四九・四(七四六)	二・五	七四六・二(三四一)	三三・三	二・三(三四五)	七四六・二(三四一)
二新設	五新設	五増設	一四九・二(一)及三七・三(一)新設	九三・三(一)及一八・六五(一)増設	一	三新設	一増設	二新設	一増設	一増設	一増設	一増設
新設、但シ三七・三(一)ハ從來ノ七四・六キロワット、唧筒ヲ取替												

深坂	高尾	中鶴	明治	木屋	新入	大浦	上田	大田	大豆田	大和	大隈	忠王	玄田	山田	嘉穂	芳雄
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
掘進ポンプ	タービンポンプ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一四九・二(一四九)	二九四・二(四九三)	五九七・三(七三三)	一四九・四(一一三)	三七	二二	七四六・三(一六四)	二六・一(三三)	二・四(一四九)	一八・六五	二九八	一一(一五・五)	三三・七	四二・〇	七四六・二(五九七)	二九四・二(三四一)	七四六
二増設	一新設	二同	三同	二同	二同	一増設	一三同	一同	一増設	一	二	二	二	二新設	三増設	二新設

豊州	大峰三坑	方井田	三井田	中津原	相知芳谷	相芳谷	柁島	松島	高島	住吉井	鹿野町	池野	神田	矢岳
福岡	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
タービンポンプ	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
五七七	五七五(三九五)	二・四(二四九)	八九五(四八三)八六五(三)	七四六	三・七	五・五(一五二)	三三八(二八二)三・五(五五四)	四八(二四九)	七四六	二八・五(二五二)	五・三(三四八)三・九(八)	一四・九(一一・二)	七四六(七四三)五(二五四)	四九(三九九)
二	三	二	七	一	一	二	二	四	六	二	一	一	一	一
増設	増設	新設	八九・五(一)増設 四四・八(三)及一八・六五(三)新設	新設	同	同	同	増設	五二・二(三)新設 四四・八(三)及二九・八(一)増設	一四・九(一)新設 一一・二(一)増設	新設	汽笛徑三〇五耗		

●通氣設備 金屬山ニアリテハ局部通氣ヲ良好ナラシムルタメニ鑛山ニ於テ小型扇風機ヲ設置シタル外特記スベキ事項無キモ、石炭山ニアリテハ坑内ノ發展ニ伴ヒ通風量ノ不足ヲ感ズルニ至リシノミナラズ保安衛生上ヨリ見ルモ亦ソノ増量ハ極メテ必要ナルヲ以テ扇風機ヲ新設又ハ増設スルモノ尠カラズ、尙福島縣沼尻鑛山ニテハ新ニ尼澤風坑ヲ開設シタリ、本年度ニ於ケル設備ノ改善ヲナシタルモノヲ記スレバ左ノ如シ

(イ) 金屬山

鑛山名	府縣名 又ハ國名	様式	キロワット (原動機)	一分間ノ排氣量 (立方尺)	臺數	備考
高田高徳	栃木	小型扇風機	三・七三		一	新設(原動機ハ捲揚ト共通)
河津	静岡	泉式	三・七三		一	新設

(ロ) 石炭山

鑛山名	府縣名 又ハ國名	様式	キロワット (原動機)	一分間ノ排氣量 (立方尺)	臺數	備考
萬字	石狩	チャンピオン	七五	四八	一	改設
空知	同	同	七五	四八	一	新設
三井砂川	同	シロツコ シロツコ シロツコ (兩吸込) シロツコ (片側吸込) パノISM 二五〇	三七三 一五〇〇 七四 三〇〇 〇六	一・一〇〇 四〇〇〇 五五〇 八五〇 六二	一 一 一 一 三	新設 増設 改設 増設 増設

池野同	崎戸長崎	杵島同	相知芳谷佐賀同	豊國福岡
シロツコ	シロツコ	日立ディスク	同	シロツコ
二九八	二六六 二三八	三七	二二四	二九八
五二〇	七〇八〇	一四五	四五	一四一六
一	一	五	二	一
増設	増設	同	同	増設

●選鑛 金屬山ニ於テハ精鑛品位ノ上昇、貧鑛ノ處理、遺利回收、生産費低減等不況ノ對策トシテ選鑛設備ノ新設、改善、又ハ操業系統ノ變更ヲ計リタルモノ尠カラズソノ主ナルモノヲ舉グレバ次ノ如シ

鑛山名 府縣名 又ハ國名

記

事

昭和四年秋ヨリ浮游選鑛ノ研究ニ着手シ種々研究ノ結果良好ナル實績ヲ舉ゲ得タルヲ以テ本年春ヨリ選鑛場ヲ新設シテ十一月末ヨリ大規模ノ試験ヲ爲シツ、アリ其ノ設備左ノ如シ

機械名	機式	臺數	大サ又ハ能力	使用目的
クラツシヤ	ブレイキ式	一	三八〇×三〇八	碎鑛用
セーキングスクリーン	ロール式	一	三八〇×三〇八	篩別用

パケツトエレベーター	ベルト	一	毎時 三軒	鑛石運上ケ
コニカルボールミル	ハージング式	一	一八二九×四〇六	鑛石粉砕用
チユーブミル	同	一	一六八×一八八	同
クラシフアイヤー	ドラッグ式	一	九一四×五一一	分級用
フローテーター	KK式	二	三〇四八	油選用
シツクナー	ドアー式	一	三〇四八×二四三八	濃聚
テーブル	フイルム式	二	三六五七×一五〇四	濃聚
フイルター	オリバー式	一	二二九×二二九	濾過
パツキアムポンプ	同	一	四一	フイルター用
エアコーンプレツサー	同	一	〇五五	同
渦巻ポンプ	同	一	一〇	同

尾去澤 秋田 操業ノ全般ニ亘リ一大改善ヲ行ヒ「テーブル」ヲ全廢シテ優先浮游選鑛ニ依ルコト、ナシ爲ニ精鑛含銅品位從來五乃至六%ナリシヲ二三乃至%ニ上昇セシムルコトヲ得タリ

花岡 同 神山鑛床産出ノ亞鉛、鉛、銅ノ混合鑛石處理ノ爲選鑛場ヲ新設シ十二月ヨリ優先浮游選鑛ヲ開始スルニ至レリ

鷺合森 岩手 産鑛増加ヲ目的トシテ「デツガー」二臺、「スクリーン」一臺、「ドラッグベルト」二臺ヲ増設シ同時ニ原動機ヲ一四・九「キロワット」電動機ニ改メタリ

細倉 宮城 濃泥中ニ含有スル鑛物回收ノ目的ヲ以テMS式浮游選鑛機壹臺ヲ新設シ採收能率ヲ高メ

タリ

吉乃 秋田 自家製獨特ノ「ウオツシユトロンメル」二臺ヲ増設セリ
 土深井 同 「ウイルフレーターブル」一臺及「サイジングトロンメル」二臺ヲ増設セリ
 綱取 岩手 「デツカー」及「ウイルフレーターブル」各一臺ヲ増設セリ
 足尾 栃木 一部變更工事中ナリシ通洞第二選鑛場ニ於テハ「ハーレンワルドサブエー」式浮游選鑛機（十四區）、「ハーデンチボールミル」、「ドアークラシフアイヤー」各一臺、「ウヰルフレーサンドポンプ」二臺ヲ完成セリ
 葡萄 新潟 坑内ノ發展ニ伴ヒ生産能力ノ増進ヲ計ル爲「ウヰルフレーターブル」、「ハルツヂツガ」
 「ドラッグクラシフアイヤー」、「バケツトエレベーター」、浮游選鑛機各二臺、廻轉手運臺一臺ヲ増設セリ
 久根 静岡 「ドラッグクラシフアイヤー」、「クロームロール」、「トロンメル」、「ヴァイブレーターイン
 グスクリーン」、「ケーケー」復式浮游選鑛機各一臺、「エレベーター」二臺ヲ浮游選鑛場ニ増設又ハ新設シ精鑛量ノ増産ヲ見ルニ至レリ
 明延 兵庫 一ヶ月取扱鑛量九、三〇〇噸ノ錫選鑛場ヲ新設シ「グリズリー」一、「ロールファイダー」一、「ブレイキクラツシャヤー」一、「ベルトコンベヤー」二、「トロンメル」二、手運帶二「サ
 ンドポンプ」一ヲ設置セリ
 生野 同 前年來大改造中ノ本部選鑛場ハ年初完成シ、一月ヨリ運轉開始セリ、神子畑選鑛場ニ

柵原 岡山

出石 愛媛

龜ヶ森 同

別子 同

於テ處理鑛量ノ増加ヲ計リ且銅錫ノ實收率ノ向上ヲ目的トシ「トロンメル」一、「フエラ
 ススクリーン」二、MK「フロテーター」一、「テーブル」三、「カローコーン」一、「ウイ
 ルフレーパー」ヲ増設セリ
 選鑛場ヲ新設シ大通洞坑外吉ヶ原ニ移轉スベク六月工事ニ着手セリ、ソノ設備ノ主ナル
 モノハ二七〇噸貯鑛庫七、「グリズリー」七、「ベルトコンベヤー」一九、「トロンメル」一
 四、「ジャイレートリークラツシャヤー」四、「クロームロール」二、「バケツトエレベーター」
 一四、
 取扱鑛量増加ノタメ既設二番坑並三番坑選鑛場ヲ擴張シ、主トシテ「トロンメル」淘汰
 機手運帶等ヲ増設セリ
 一ヶ月産出精鑛量二八〇噸ノ選鑛場ヲ新設シ「トロンメル」、「ビツキングベルト」、「ハル
 ツ」式「ジツガー」ヲ設置セリ
 新居濱選鑛場ニ於テ銅實收率ノ向上、並尾鑛中ノ硫化鐵鑛回收ノ目的ヲ以テ細粉設備ヲ
 改善シ、MS式浮游選鑛機ヲSW式空氣吹込浮游選鑛機ニ變更シ鐵片吸引磁石一、同上
 胴車一、「サイモンズコーン」、「クラツシャヤー」二、「スクリーンシユブリーム」一、「ボ
 イドメーター」三、「ドアクラツシフアイヤー」一、浮游選鑛機五、混和槽一、「ターボ
 ブローワー」四、「ウイルフレーパー」四、真空「ポンプ」一、空氣庄控機一、
 「ドアートラクシヨシツクナー」一、「ドルコファイルター」一、「ドルコダイアフラムボ

尾 平 大分
「シブ」一、深井戸「ポンプ」二、「ベルトコンベヤー」四、電動機三、硫酸「タンク」一、
粒粉鑛溜一、精鑛庫一、
精鑛中ニアル鐵分ヲ除去スル目的ヲ以テ「ボールノルトン」類似型帶式磁力選鑛機（能
力一時間四分ノ一吨）一臺ヲ設置セリ、粗鑛搗鑛機（二〇四疋五本立「スタムプ」）一臺
ヲ増設シ又三八〇耗×二三〇耗「ブレイキ」式噴鑛機一臺ヲ設置セリ

●選炭 炭界ノ不況ハ市場ニ於ケル品質ノ向上ヲ必要トスルニ至リ遂年選炭設備ノ新設、増設又ハ擴張ヲ行フモノ多シ、
本年度ニ於ケル主ナルモノヲ示セバ次ノ如シ

鑛山名 府縣名
又ハ國名

記

事

三井砂川 石狩
出炭量ノ増加ニ因リ能力毎時四〇吨ノ「ヂツガー」式水洗機三臺、大塊手選用鐵製「エ
ブロン」式手選帶（能力毎時四五吨）一臺ヲ増設シ、尙附屬設備トシテ「チツブラー」、
「フ井ダー」、篩各一臺、「ベルトコンベヤー」九臺ヲ増設シ且ツ貨車積込機（手動蝶番式）
粉炭用四四臺、塊炭用一〇臺ヲ増設セリ

三井美唄 同
出炭ノ増加ニ伴ヒ「ジツガー」式水洗機能力毎時一五吨一臺、同一〇吨二臺、手選帶（鐵
型）二臺（大サ幅〇・九四一米長一二・一九二米及幅一・五二四米長一二・一九二米）及懸
垂動搖式篩二臺（大サ幅一・二一九米長二・四三八米及幅一・五二四米長二・四三八米）ヲ
増設セリ

大夕張新坑 同
坑内ノ發展ニ伴ヒ既設選炭場ヲ擴張シ能力毎時七五吨ノ「ジンマー」式選炭機一臺、能

茂 尻 同
力毎時八〇吨ノ共益社式水洗機二臺ヲ増設シ又「ポケット」ヲ増築シテ容量一、五〇〇吨
トセリ
中小塊及粉炭水洗ノ爲メ「ジツガー」式洗炭機二臺（能力毎時一五吨及一〇吨）手選帶
一臺（ゴムベルト能力毎時一五吨）懸垂動搖型篩一臺（能力毎時四〇吨）及「チツブラ
ー」一臺（能力毎時七〇車）ヲ増設セリ

奔 別 同
出炭ノ増加ニ伴ヒ從來ノ選炭設備ニテハ能力不足ヲ來タセルヲ以テ選炭場ノ新設ヲ行ヒ
「バウム」式水洗機一〇〇吨一臺、五〇吨一臺ヲ備ヘ又手選用トシテ鐵板式「コンベヤー」
三臺（幅一五二・四種長サ一六七六・三種）ヲ設置シ尙之ニ附屬設備トシテ「チツブラ
ー」三臺、「テーブル」型給炭機三臺「エブロン」式給炭機二臺、「ジンマー」式篩六臺、
「バケツト」型「エレベーター」七臺、「スクレーパー」式「コンベヤー」一臺、「ベルトコ
ンベヤー」九臺、電動「ターボ」式「ブロー」五九・七「キロワット」二臺、電動機八九・
五「キロワット」一臺、五九・七「キロワット」一臺、五六「キロワット」一臺、二九・八「キ
ロワット」二臺、一四・九「キロワット」一臺ヲ設置シ尙容量四〇〇吨ノ積込場ヲ増設セ
リ

歌 志 内 同
「バウム」式四〇吨水洗機一臺、「ジツガー」式一五吨水洗機三臺及手選帶（鐵板式能力每
時四〇吨）一臺ヲ新設竝ニ増設セリ

彌 生 同
出炭増加ニ伴ヒ水洗機ノ能力ニ不足ヲ生ズルニ至リタルヲ以テ既設ノ水洗機（一〇吨一

茅沼 後志
 臺一五瓩一臺)ヲ廢止シ共益社式五〇瓩水洗機一臺ヲ設置シ尙給水用トシテ「タービン」
 唧筒一臺(二・一立方米)ヲ増設セリ
 手選帶一臺(幅一五二・四糧長サ一、四六二・九糧)回轉式篩一臺(直徑九一・四糧長サ五
 四八・六糧)「ジンマー」式篩一臺(幅一二一・九糧長サ三六五・七糧)及「エレベーター」四
 箇ヲ新設セリ

内郷 福島

「共益社式ジツカー」(毎時能力三〇瓩、一四・九「キロワット」)一臺及「バケツトエレベ
 ター」(毎時能力五〇瓩、五六「キロワット」)一臺ヲ高坂坑ニ、「小野式ジツカー」(毎時能
 力一〇瓩、二・二「キロワット」)二臺ヲ緩坑ニ新設セリ

好間 同

「ブレイキクラツシャー」(七・五「キロワット」)一臺ヲ増設セリ

勿來 同

「ドラツククラシファイヤー」(毎時二瓩處理)一臺ヲ新設セリ

木友 山形

「トラフウオツシャー」(毎月三〇瓩處理)一臺ヲ新設セリ

粕屋 福岡

豎流式萬斛幅一・五二米長サ四・五五米一個ヲ志免坑選炭場ニ設置セリ

高田 同

四月微粉炭洗滌「ジンマー」(毎時〇・五瓩處理)二臺ヲ新設シ九月ニハ二號炭中ヨリ商
 品炭回收ノ目的ヲ以テ「ウイルフレーター」(毎時一瓩處理)二臺ヲ新設セリ

古河目尾 同

第二目尾坑ニ五尺炭水洗用「ジツガー」式水洗機(毎時三〇瓩處理)一臺、右水洗粉炭
 貯炭用「コールビン」(四五瓩)一基、鹽頭坑ニ共益社式水洗機(毎時三〇瓩及一五瓩處
 理)二臺ヲ設置セリ

忠限 同

微粉炭精選用「ジンマースタクリン」(幅一・五米長サ二・七三米)二臺、水洗汚水揚用二九・
 八「キロワット」「セントリヒューガルポンプ」一臺、空函下用單鎖式「クラーパー」一
 臺、素硬運搬用「ジンマーコンベヤー」(幅〇・六米長サ一五米)一臺、「バウム」式水洗
 機(毎時五〇瓩處理)一臺、第七坑運炭用「ベルトコンベヤー」(幅〇・七五米長サ二一・
 八米)一臺ヲ設置セリ

二瀬 同

中央礦潤野坑小正坑ニ「バウム」式水洗機(毎時五〇瓩處理)一臺及錠板式選炭機(毎
 時五〇瓩處理)一臺ヲ新設セリ

下山田 同

「ジンマー」式錠板選炭機(各毎時六七瓩處理)二臺及「バウム」式水洗機(各毎時五〇
 瓩處理、使用水量一臺ニ付二立方米)二臺ヲ設置セリ

芳雄 同

上三緒坑ニ於テ「レオラポール」水洗機(毎時一〇瓩處理)一臺ヲ設置シ含炭硬及水洗
 二號炭ヲ洗炭スルコト、セリ

方城 同

「ローラースタクリン」式選炭機(毎時四〇瓩處理)二臺、「バウム」式水洗機(毎時三五
 瓩處理)二臺、同再洗機(毎時二〇瓩處理)一臺ヲ設置セリ

赤池 同

「バウム」式水洗機(毎時五〇瓩處理)一臺増設、十番型「ウイルフレーター」淘汰盤四臺新
 設、「ターボグロウ」(風量毎分二一〇立方米風壓毎平方糎〇・一六二斤、九四「キロワツ
 ト」)一臺ヲ増設セリ

宮尾 同

八尺炭選炭ノ目的ヲ以テ第二坑ニ選炭場ヲ新設シ「ジンマー」篩手選式選炭機(毎時五

豊國 福岡

○地處理)一臺ヲ設置セリ

炭泥リノ硬ヲ洗炭スル爲「バウム」式水洗機(毎時一五吨處理)一臺ヲ新設シ九月ヨリ使用ヲ開始セリ

向山 佐賀

從來ハ簡易ナル樋流水洗方法ニヨリ操業セシモ粉、小中塊炭選別ノ爲メ「ブラケット」式水洗機(毎時一〇吨處理)一臺ヲ新設セリ

鹿町 長崎

本坑ニ水洗機用給水唧筒一四・九「キロワット」一臺ヲ設置、加勢第一坑ニ貯炭槽(三二二〇吨)一基、「フンボルト」式水洗機一臺ヲ設置セリ

池野 同

第六坑々外ニ粉炭選炭用共益社式水洗機(毎時二五吨處理)一臺設置セリ

住友大瀬 同

選硬ヲ完全ナラシムル爲メ五尺坑々外ニ「ジンマー」式選炭機(毎時六〇吨處理)一臺及「バウム」式水洗機(主洗機毎時四〇吨處理、再洗機毎時一五吨處理)二臺ヲ増設セリ

住友芳野浦 同

「バウム」式水洗機(毎時三〇吨及一五吨處理)二臺ヲ新設セリ

●製鍊 經費節減、能率増進等ヲ計ルタメ製鍊設備ノ新設、増設又ハ改變ヲ行ヒタルモノ左ノ如シ

鑛山名 府縣名 又ハ國名

記

事

鴻之舞 北見

從來使用ノ直徑五・二五米原液槽ハ容量不足ヲ生ズルニヨリ直徑九・一米ノモノヲ新設シテ之ニ替ヘ且ツ青化加里液揚程用トシテゐのくち式「タービン」唧筒一臺(毎分一・〇立方米弱)ヲ増設セリ、其ノ外「ドワーボウル」式分級機一臺(巾一・八三米長サ六・〇〇米)、「バルトコンベアー」一臺ヲ設置セリ

尾去澤 秋田

選鍊設備改善ノ結果精鑛品位上昇シ從テ製鍊取扱鑛量ハ四分ノ一ニ減少シタルヲ以テ此ノ爲ニ小型燒結爐二臺ハ全ク不用トナリ使用ヲ廢止シ又小又川發電所工事愈々完成シタルヲ以テ眞吹床ヲ廢止シ轉爐ノ使用ヲ開始シ大ニ製鍊能率ヲ増進セシメタリ

釜石 岩手

銃鐵鑄造用トシテ鑄鐵機一基ヲ新設シ十一月ヨリ操業ヲ開始シ、滿俺銃及硅素銃製造ノ爲メニール式無蓋型電氣爐一基、第七號三〇吨中爐一基ヲ各新設セリ又第九號鑄爐送風用トシテ二、一〇三・七「キロワット」瓦斯機關直結送風機二基ヲ新設セルガ之ガ燃料ハ高爐瓦斯ヲ除塵シテ使用スルモノニシテ除塵用トシテ「コットレル」式電氣收塵裝置ヲ新設セリ此ノ外釜石式一〇吨散炭爐二〇基ヲ新設シテ既設「コツバース」式七吨散炭爐六〇基ノ内三〇臺ヲ廢止スル等專ラ操業ノ合理化ニ努メタリ

足尾 栃木

第一號熔鑛炉ノ爐中及爐高ヲ多少増大シ且ツ微粉炭吹込裝置ヲ施セリ、亞砒酸工場内廻燒爐ヲ「マグドールガル」式一五吨爐ニ改造シ尙「コットレル」式電氣收塵機中川下六號機ヲ試驗的ニ從來ノ多管式ヲ平板式ニ改修セリ

宮山田 同

取扱元鑛量一ヶ月三七五吨ノ搗鑛製鍊場ヲ新設シ且ツ溶解槽一三個ヲ有スル青化製鍊場ノ設置工事ニ着手セリ

佐渡 新潟

能力毎時二吨ノ溶解濾過機一臺ヲ設置セリ

神岡 岐阜

燒鑛壺一二個ノ中七個ヲ廢止シ之ニ代フルニ容量一吨ノ燒鑛皿四個ヲ新設シ且ツ運搬能率増進ノ爲三・七三「キロワット」電氣垂直捲揚機一臺ヲ設置セリ

尾小屋 石川 粉鑛及泥精鑛ノ處理ヲ目的トシ煉鑛機、團鑛機ヲ設置シ製團作業ヲ開始セリ

別子 愛媛 前年來増設工事中ナリシ「グリーナワルト」式燒結爐一基完成シ燒結爐點火用重油貯藏地下槽及輸送管ヲ設置セリ

熔鑛爐羽口微粉炭吹込用トシテ「ロータリーコムプレッサ」一臺新設セリ、轉爐排瓦斯處理ノ目的ヲ以テ「ベタルセン」硫酸工場第二工場ヲ増設シ五月ヨリ操業ヲ開始セリ
尙同工場ニ於テハ小型脫硝塔及吸收塔各二基増設ニ着手セリ、既設轉爐排煙用電氣收塵室ヲ改修シ單ナル煙塵室トセリ

轉爐操業中ノ停風時又ハ休爐ノ際ニ外氣ノ侵入シ、硫酸工場ニ支障ヲ生ズルヲ防止スルタメ轉爐鐵製「フリュニー」ニ鐘形傘ヲ備付タリ

佐賀關 大分

前年ヨリ工事中ノ轉爐完成セルニ付從來使用ノ真吹爐ヲ廢止セリ、右轉爐ハ「ビヤス、スミス」型徑二・六米長サ五米能力一ヶ月一基ニ付鉢二、五〇〇瓩、生産粗銅一、〇〇〇瓩「スタンド」二個爐二座ニシテ尙ホ粗銅鑄造用トシテ「リザーバー」一基ヲ設備セリ
鐵筋「コンクリート」製直徑四・三米高サ四・六米貯水量六六立方米ノ熔鑛爐給水槽ヲ設置セリ

横峰 宮崎

從來ノ手搖鉢ニ代ヘ米國製「モルガン」式採金機一臺ヲ製鍊所内ニ据付ケタリ

赤石 鹿兒島

製鍊爐三基ヲ増設シ七月ヨリ操業ヲ開始シ増産ヲ計リタリ

●製油 本年度ニ於テ製油設備ノ増設又ハ改造ヲナシタル主ナルモノ左ノ如シ

鑛山名

府縣名

記

事

曹川鑛山附屬
秋田製油所

秋田

擴張シタル主ナルモノハ吸着洗滌法設備ノ新設ニシテ「ガスセパレーター」二臺、「バイブスチール」一臺並「ポンプ」一臺、「フキルタープレス」及「シャワータラー」ノ新設ヲ行ヒ「ポンプ」動力トシテ三・七及五・六「キロワット」三相交流誘導電動機各二臺宛増設セリ

高町 新潟

揮發油增收ノ目的ヲ以テ既設二八、三一五立方米高壓汽笛ヲ全部同量ノ低壓汽笛ニ變更セリ

刈羽 同

處理瓦斯量二八、三一五立方米ノ天然揮發油採收場ヲ増設セリ

●鑛害除去設備 鑛煙、鑛水、鑛泥、水洗炭汚濁水其ノ他ノ廢棄物處理爲諸般ノ設備ヲ爲シテ鑛害除去ニ努メ居レルカ
本年度ニ於テ其ノ設備ヲナシタルモノ左ノ如シ

(イ) 金山 屬山

鑛山名

府縣名
又ハ國名

記

事

從來ノ沈澱池ノミニテハ狭小トナリタルヨリソノ内部ニ土盛提防(高サ二・四米)一個ヲ増設シタリ

靜狩 膽振

土盛提防ノ沈澱池(一五〇「エーカー」)一個ヲ増設セリ

尾去澤 秋田

獅子澤大沈澱池ノ堰堤ヲ更ニ二・三米高メテ總高三八・八米トナシ其泥滓收容量七二、一

小野田 山口 煉瓦造リ長サ八米幅三米高サ二米半ノ濾過槽一箇設置セリ
 上山田 福岡 堅坑々外ニ微粉炭沈澱池一七・七米×一四米×〇・八米及二一・三米×一三・七米×〇・九米各一箇新設セリ
 下山田 同 運炭機ノ設置ト同時ニ微粉炭ノ河川ニ流入スルヲ防グ爲從來ノ沈澱池ノ周圍ニ高サ一米周圍二〇〇米ノ煉瓦壁ヲ築キタリ
 杵野 佐賀 坑内水ヲ六角川ニ放水スル目的ヲ以テ三五五耗ノ鐵管一、〇〇〇米ヲ敷設セリ
 上野 長崎 長サ一・五八米幅三・八五米深サ一・二米ノ沈澱池一箇増設セリ
 池野 同 第六坑々外ニ全部板張ノ長サ一・六米幅四・九米深サ一・二二米ノ沈澱池一箇所増設セリ

●電力購入及發電所 一般鑛山ニ於ケル電力ノ利用ハ動力ノ電化ニヨリ逐年増加シ來リ自家發電所ヲ有セザル爲又ハ其ノ不足ヲ補フ爲ニ電力ノ購買ヲ爲スモノ多シ、本年度ニ於テ電力購買ヲ爲セルモノ及購買高ノ増加其ノ他ノ變更ヲナシタルモノ左ノ如シ

(イ) 金屬山

鑛山名	府縣名 又ハ國名	購入高	供給者名	契約價格	備考
鴻之舞	北見	二八、〇〇〇 <small>(一ケ月)</small>	北海道電燈株式會社	三、〇〇〇 <small>(一ケ月)</small>	増加
靜狩	膽振	二五、〇〇〇	北海道水力電氣株式會社	五、〇〇〇 <small>(一ケ月)</small>	増加

柄木	栃木	二五、二〇〇	福島電燈株式會社		新購買 <small>(從來ノ自家火力發電所ヲ準備トス)</small>
高田	同	二六、八〇〇	東京電燈株式會社		新購買
惠比壽	岐阜	八、〇五七	蛭川村營發電所		同
龜ヶ森	愛媛	四、七〇〇	土佐吉野川水力電氣株式會社		同

(ロ) 石炭山

鑛山名	府縣名 又ハ國名	購入高	供給者名	契約價格	備考
空知	石狩	最大 二二、〇〇〇 最少 九、七〇〇	北海道電燈株式會社	二、三〇〇 <small>(一ケ月)</small>	受電期間 自四月一日起 至十一月三十日増加
幌春	同	八、四〇〇	同	二、三〇〇	購入高増加
三井砂川	同	二六、八〇〇	同	二、七〇〇	同
三井美唄	同	三六、〇〇〇	同	二、四〇〇	同
奔別	同	四三、〇〇〇	同	二、四〇〇	同
唐松	同	二、〇〇〇	同	二、四〇〇	同
歌志内	同	二、〇〇〇	同	二、八〇〇	同
新志内	同	三九、六〇〇	北海道水力電氣株式會社	四、〇〇〇	同
茅沼	後志	平均 七、四五〇	北海道電燈株式會社	二、八〇〇	同
春探	同	七、四五〇	同	二、七〇〇	新購入
別保	同	二、〇〇〇	同	三、〇〇〇	同
雨龍	石狩	三六、〇〇〇	同	三、〇〇〇	同
昭和	同	同	同	同	同

鑛山名	府縣名又ハ國名	容量(キロワット)	原動力種類	備	備考
長門起業山	山口	一〇、七四二	火	新設	十月ヨリ新購買
第二大谷	福岡	四、五〇〇	火	新設	新購買
小竹	同	一〇、五五五	幸袋工	同	同
宮尾	同	一六、一九〇	九州水力電氣	同	三月ヨリ新購買
崎戸	長崎	七三、一八八	東邦電力	同	新購買
東松	同	三、二九六	西彼電氣	同	前年ハ五島電燈株式會社ヨリ購買セリ
山口	同	三、三〇三	東邦電力	同	

大鑛山ニアリテハ水力又ハ火力等ニヨリ自家發電所ヲ設置シ又ハ既設發電所ノ擴張ヲ計ルモノアリ、之ヲ列記スレバ左ノ如シ

(イ) 金屬屬山

鑛山名	府縣名又ハ國名	容量	原動力種類	備	備考
靜狩	膽振	一、二〇〇	火	新設	
尾去	秋田	一、四〇〇	同	新設小又川水力發電所	
細倉	宮城	六七、二	火	新設ニシテ在來ノ自家水力發電ト併用シ購買電力ノ減少ヲ企圖セリ	
津谷	同	一六	同	新設	
横峰	宮崎	四〇〇	水力	第三發電所從來出力二〇〇、キロワットヲ四〇〇、キロワットニ増加セリ	

(ロ) 石油山

鑛山名	府縣名又ハ國名	容量	原動力種類	備	備考
大夕張新坑	石狩	三七五	火	新設	但豫備
入山炭礦廣野坑	福島	二四〇	同	新設	
松島	長崎	三、〇〇〇	同	擴張	

(ハ) 石油山

鑛山名	國名	容量(キロワット)	原動力種類	備	備考
稚内	北見	二	火	新設(點灯用)	

●汽罐、汽機、蒸汽「タービン」、石油發動機等

金屬山、石炭山等ノ別ナク動力トシテ電力ヲ使用スル傾向増加スト雖モ石炭山、石油山ノ如ク自家燃料ヲ有スル鑛山或ハ電力ノ供給ヲ受ケ難キ不便ナル地ニ在ル鑛山ニ於テハ尙熱機關ノ使用衰ヘズ、本年度ニ於テ其ノ設置ヲナシタルモノ左ノ如シ

(イ) 金屬屬山

鑛山名	府縣名又ハ國名	種類	樣式	大	容量(キロワット)	臺數	備	備考
鴻之舞	北見	汽罐	ランカシヤ一式	一九三〇	五九六九	一	製鍊所暖房用新設	
三井	天鹽	同	外焚多管式	一八二九	四九六一	一	唧筒運轉用新設	
昭瑞	北見	同	直立式	一二二九	二四三八	一	製鍊所暖房用新設	
靜狩	膽振	吸入瓦斯機關	複筒式	一二二九	二二一九	一	發電機運轉用新設	
日東	日高	石油發動機	インターナショナル式	四八	四八	一	捲揚機及唧筒用新設	

昭和三年末ヨリ休業中ノ處十月ヨリ再ヒ事業ニ著手シ以前開坑セル第一坑及第二坑ノ掘進ヲ行ヒタリ、第一坑ハ下盤ヨリ開坑セル横坑ニシテ、坑口ヨリ一〇米ニテ著脈日下掘進中ナリ、鑛石ノ品位ハ上鑛部ニテハ金痕跡、銀〇・一三三%銅五・二七%ヲ示セリ、第二坑ハ坑口ヨリ一五米ニテ本脈ニ到達シ日下鍾押掘進中ナリ

雄武威鑛山 (試登第二八九一號) 金銀 北見國紋別郡雄武村 須藤仁也

元探登第一四號鑛區トシテ稼行セシガ昭和三年廢業シ其ノ後試掘鑛區設定セラレ七月ヨリ事業ニ著手セリ、先ツ地表探鑛ヲ行ヒテ以前稼行セル鑛脈以外ニ新ニ露頭部ノ幅一・六米ノ鑛脈ヲ發見シ、目下之ニ向ヒ同露頭下約二六米ノ地點ヨリ横坑ヲ開坑掘進中ニシテ延長約一七〇米ニテ着脈ノ豫定ナリ

高田高德鑛山 (探登第七〇號) 金銀銅鉛亞鉛鐵 栃木縣鹽谷郡藤原村 代表者 日本鑛業株式会社

大正九年以來休業中ナリシガ昨年十二月日本鑛業株式会社ガ共同鑛業權者トナリテヨリ銳意調査ノ結果相當有望ト認メタルヲ以テ五月鉛鑛露頭附近ヨリ豎坑ノ開鑿ニ著手スルニ至レリ、豎坑ハ二・四二米×一・二二米ノ大サニテ掘下リ深度五〇米ニテ立入ヲ開鑿シ目下其ノ延長一五米ニシテ近ク著脈ノ豫定ナリ、而シテ八月豎坑ニ三・七三「キロワット」單胴電氣捲揚機(「スキップ」容量〇・一一三立方、最大運搬量一回二・〇〇「噸」)ヲ設置シ九月下部通氣ヲ計ル爲小型扇風機(原動機ハ捲揚機ト共通)ヲ据付ケタリ

金忠鑛山 銅 和歌山縣伊都郡天野村 土井徳太郎

當山ハ大正三年以來休山中ノ處五月ヨリ探鑛作業ニ著手シ山腹露頭下二三米ノ地點ヨリ加背一・五米二・〇米ノ立入水平坑道ヲ開鑿シ年末延長三六米ニ達セシモ未ダ著鑛セズ

勝浦鑛山 銅 和歌山縣東牟婁郡宇久井村 木戸正三

一月ヨリ小規模ニ探鑛作業ヲ開始シ先ツ東部(元オハグロ坑)、西部(元大硫化坑)、南部(元堀割坑)ノ三箇所ニ於テ舊坑ノ取明ヲ完了シタルモ西部及南部ハ鑛況振ハザルヲ以テ中止シ専ラ東部坑ノ探鑛ニ從事セリ、鑛床ハ著シク錯綜シ細脈又ハ網狀ヲ呈シソノ走向傾斜ハ判然セザルモ鑛石ハ黃銅鑛ヲ主トシテ硫化鐵鑛ヲ隨伴セリ

日置鑛山 (探登第七四號) 金銀 鹿兒島縣日置郡串木野村 日本鑛業株式会社

鑛床ハ安山岩中ノ含金銀石英脈ナリ、主ナルハ梅鑛及向田鑛ニシテ二月兩鑛共之ヲ取明ケニ著手シ本年中ニ梅鑛坑ニハ斜坑七〇米ヲ向田鑛坑ニ於テハ斜坑四〇米ヲ取明ケタリ、梅鑛ハ延長一〇〇米平均厚サ〇・五米ニシテ向田鑛ハ延長一五〇米平均厚サ一米ナリ、兩鑛共下底探鑛掘進中ニシテ尙一部上向階段掘ニテ探掘中ナリ

(ロ) 石 炭 山

金山炭礦 (試登第六二二八號) 石狩國空知郡南富良野村 小池正雄

六月ヨリ事業ニ著手シトナシユベツ川右岸ニ豎入水準坑道ヲ開坑シ二〇米ニテ十二尺層ニ著炭、年内ニ沿層坑道五七米ヲ掘進セリ

選炭場ヨリ帝室林野局、金山森林鐵道ニ至ル延長約八〇〇米ノ間ハ選炭用トシテ六「噸」軌條ヲ敷設セリ

山崎炭礦 (試登第一八八五號) 劍路國阿寒郡香井村劍路郡島取村 山崎榮一郎

一月ヨリ事業ニ著手シ第一坑外三坑口ヲ開坑シテ四尺層ノ存左ヲ確メ坑外ニ於テハ運搬軌道(六「噸」軌條)八〇〇米ノ建設ヲ行ヒタリ

猪之鼻炭礦 (探登第一二三八號) 福岡縣嘉穂郡山田町 久恒貞雄

炭層ハ筑豊煤田下部夾煤層中大燒層下層群ニシテ三尺、帶無、五尺ノ三炭層ナリ、其層位ハ標準炭層ノ芳ノ谷、天井ナ

シ、新五尺附近ナラン、而シテ三尺炭層ハ最上部ニ位シ厚サ約一・二米ナリ、之ヨリ三〇・三米下部ニ在ルモノヲ帶無炭層トシ其厚サ約〇・七六米ナリ、又帶無層ノ下方三三・三米ニテ厚サ約一・五米ノ炭層アリ之ヲ五尺炭層トス
 往年爲朝炭抗ト稱シ上部三尺炭層ヲ採掘セシモ斷層ノ關係上下部二層ハ地表ニ露出ナク其ノ存否確實ナラザリシガ昭和二年三箇所ニ試錐セル結果存在ヲ確メ斷層ノ外方ヨリ岩石ヲ開鑿シテ二坑口ヲ掘進シ帶無坑及五尺坑ト稱セリ、前者ハ一二〇米ニテ著炭セルガ後者ハ一六〇米ヲ掘進尙五〇米ニテ著炭ノ見込ナリ、尙三尺炭層ノ舊採炭跡ニ沿ヒ露頭ヨリ坑口ヲ開鑿セシモノヲ三尺坑ト稱シ五〇米掘進セリ
 以上ノ三坑ハ昭和二年十一月開鑿ニ著キ同三年七月都合ニ依リ休止セシガ十二月一日ヨリ再ビ排水開鑿並ニ採炭ニ著手セリ

採掘ハ後退式長壁法ニ依リ鑿岩機使用ノ目的ニテ米國「ブリュー」會社製四四・八「キロワット」壓氣機一臺据付中明年一月完成ノ見込ナリ、排水唧筒ハ全部「タービンポンプ」ニシテ二・四「キロワット」二臺、一・二「キロワット」一臺、三・七「キロワット」二臺、坑内運搬ニハ三尺坑口ニ單胴式電氣捲揚機七四・六「キロワット」一臺、帶無坑五尺坑兩坑共用トシテ同一一・九「キロワット」一臺設備セリ、坑外運搬ニハ省線上山田驛ヨリ分岐シ延長九六〇米ノ引込線工事ヲ出願シ土工ニ著手明年八月中ニ完成ノ見込ナリ

中津原炭礦 (探登第一二〇一號) 福岡縣田川郡勾金村 秋元延嘉

當鑛區ノ炭層ハ上部上三尺層ヨリ最下部四尺層ニ至ル七層ニシテ七月本卸、連卸、鑿坑(延長本卸九〇・一米、連卸七二・七米、右一片五四・五米、鑿坑六・一米)開鑿ニ著手八月著炭セリ、而シテ坑内排水ニ電氣「タービンポンプ」七・四六「キロワット」一臺、電氣改造「トラツクポンプ」三・七「キロワット」一臺、坑内運搬ニ「ウインチ」捲揚機一・二「キロワット」一臺ヲ設備セリ

ツト」一臺ヲ設備セリ

ハ) 石 油 山

厚真鑛山 (試登第二六九〇號) 釧路國勇拂郡厚真村 日本石油株式會社

十月ヨリ事業ニ著手十一月三日豫定深度六〇〇米ノ網掘式坑井一坑ヲ開坑シ年末迄ニ三八九米ヲ掘進セリ、尙此ノ掘鑿用トシテ外焚多管式汽罐一基及「モーガル」式汽機一臺ヲ新設セリ

石狩鑛山 (試登第六二二四號) 石狩國石狩郡石狩町、厚田郡當別村 日本石油株式會社

「ロータリー」式第八〇號井開坑ノ爲メ十一月ヨリ事業ニ著手地均シ工事並ニ鐵橋建設工事ヲ終リ目下機械取付準備中ナリ

如法寺鑛山 (試登第一〇〇六八號) 新潟縣南蒲原郡本成寺村外一 日本石油株式會社

大面油帶ニ併行スル平原地ニモ相當ノ油帶伏在スベキ地質學上ノ推定ニ基キ之ガ探究ノ目的ヲ以テ本成寺村大字如法寺小字中道地内ニ十一月十四日如法寺「ロ」式第一號井ヲ開坑セリ
 本井ハ坑口ニ三十九・四種「コンダクターパイプ」ヲ五・八米挿入ノ上掘進セシモ深度九・五米及一・七米ノ兩所ニ砂利層アリ之ガ崩壞ノ爲掘進抄ラザリシヲ以テ三十九・四種管ヲ更ニ三・四米追降シ一六五・五米ヨリ二十六・七種「コーアド」ル」ヲ使用シ地質調査ヲ爲シツツ一八八・七米迄掘進シ掘進後「セメント」水止スルコトニ決シ三十一・八種管ヲ一七二・四米降下シ淺野「セメント」二十樽ヲ使用遮水施行セリ、而シテ遮水試驗ノ結果ハ完全ナリシヲ以テ引續キ掘進シ深度三四八米ニ達シタルガ三四五米ニテ坑眞屈曲測定シタルニ約四度ノ屈曲アリシヲ以テ矯正ノ爲二四〇米ヨリ「デスタビツト」ニテ矯正三三九米ニ達シ引續キ矯正中ナリ

同	同	同	同	試
四六三	四六六	四六〇	四六九	四三九
亞	亞	石	金	金
炭	炭	炭	銅	銅
江刺郡藤里村外一	江刺郡藤里村	胆澤郡衣川村	神貫郡内川日村	下閉伊郡馬村
小原 尙	阿部 宇藏	朝倉 松治	森田 保	品川 英一
八月	九月	八月	六月	十一月
同	同	同	同	試
四六三	四六六	四六〇	四六九	四三九
亞	亞	亞	亞	亞
炭	銅	炭	炭	炭
和賀郡湯田村	江刺郡玉里村	江刺郡藤里村	江刺郡岩谷堂町外一村	江刺郡岩谷堂町外一村
加藤 平太郎	菊地 勘右衛門	菊地 幸之進	菊地 安治	菊地 安治
十月	九月	十二月	八月	八月

宮城 縣

同	同	試	同	同	同	探
一九六	一九三	一九一	(門前) 二六六	(宮崎) 二四二	(荒雄岳) 二二七	(津谷) 二六五
亞	亞	金	亞	亞	亞	金
炭	炭	銅	炭	亞	亞	黃
伊具郡丸森町	桃生郡須江村	玉造郡鬼首村	仙臺市	加美郡宮崎村	加美郡宮崎村	本吉郡大谷村
石垣 甚之丞	寺島 了子	高橋 武	佐藤 さと	三井 鐵山	高橋 運之進	帷子 吉正
二月	三月	六月	十二月	十一月	十一月	十一月
同	同	同	同	同	同	試
一九四	一九一	一九七	一九八	一九三	一九三	一九八
亞	金	亞	亞	金	金	亞
炭	銅	炭	炭	銅	亞	炭
玉造郡鬼首村	本吉郡小泉村外二	仙臺市	栗原郡畑岡村外一	本吉郡歌津村	本吉郡松岩村	志田郡松山町
高橋 運之進	日本 鐵業	高橋 義範	佐藤 清藏	日本 鐵業	上田 七三郎	阿部 善四郎
十一月	六月	十一月	二月	八月	四月	四月

秋田 縣

同	同	同	同	同	同	試
一九九	一九六	九五二	九五三	九五三	九五三	九五三
金	石	石	石	石	石	石
亞	油	油	油	油	油	油
栗原郡花山村	由利郡道川村	由利郡道川村	由利郡道川村	由利郡道川村	由利郡道川村	由利郡道川村
波邊 亮作	旭石 會社	旭石 會社	旭石 會社	旭石 會社	旭石 會社	旭石 會社
十月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月
同	同	同	同	同	同	試
一九九	九五二	九五三	九五三	九五三	九五三	九五三
金	石	石	石	石	石	石
亞	油	油	油	油	油	油
栗原郡花山村	由利郡道川村	由利郡道川村	由利郡道川村	由利郡道川村	由利郡道川村	由利郡道川村
波邊 亮作	旭石 會社	旭石 會社	旭石 會社	旭石 會社	旭石 會社	旭石 會社
十月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月	十一月

山形 縣

同	同	探
四六三	(龍森) 九二九	(栗山) 二〇五
亞	亞	亞
炭	炭	炭
最上郡大藏村	北村山郡大高根村	西置賜郡長井村
庄司 石吉	石波 幸之助	奥山 助松
三月	八月	十一月
同	同	試
四七〇	四九九	四六三
亞	金	石
炭	亞	油
西村山郡左澤町外一	南村山郡西郷村	最上郡古口村外二
松田 秀尾	西塚 豐三郎	日本 鐵業
四月	八月	十一月

試	四六八	亞	炭	最上郡鮭川村外一	木村 ヲメ	十二月	試	四六五	亞	炭	最上郡八向村	菅原喜之助	六月
同	四七三	金	銅	東置賜郡中川村外一	代 藤原 虎吉	九月	同	四六九	石	炭	西村山郡西五百川村外一	本 同 貞	十二月
同	四八四	金	銅	東置賜郡金山村外一	代 片岡 安雄	八月	同	四八〇	石	油	最上郡戸澤村	株 日 本 石 油 社	十二月

福島縣

探	五六一	金	銀	河沼郡下谷村	織子 吉正	八月	試	五二〇	金	銀	大沼郡西方村外二	齋藤 傳助	一月
同	(赤羽根)	金	銀	河沼郡下谷村	同	同	同	五二一	金	銀	信夫郡岡山村外三	關 廣	六月
同	(松川)	金	銀	信夫郡松川村	澁谷信三郎	二月	同	五二四	金	銀	伊達郡茂庭村外二	武田 健一	八月

茨城縣

試	三四二	金	銀	那珂郡山方村外一	柴田伊之助	九月	試	三五九	金	銀	鹽谷郡三依村	石川 文之助	九月
---	-----	---	---	----------	-------	----	---	-----	---	---	--------	--------	----

栃木縣

試	三三三	滿	俵	上都賀郡板荷村	別井兼五郎	七月	試	三三九	金	銀	鹽谷郡三依村	石川 文之助	九月
---	-----	---	---	---------	-------	----	---	-----	---	---	--------	--------	----

群馬縣

試	三三九	滿	俵	芳賀郡須藤村外一	清水 康雄	三月	試	三〇一	滿	俵	安蘇郡葛生村	石澤 好雄	五月
同	三三〇	同	同	上都賀郡柏尾村	福永 米吉	五月	同	三〇四	同	同	上都賀郡永野村	今井 榮之助	六月
同	三三二	同	同	安蘇郡水室村	齊藤 小市郎	九月	同	三三三	同	同	上都賀郡板荷村外二	刺 賀 真	七月
同	三三六	同	同	安蘇郡飛駒村	關谷 峯吉	四月	同	三三六	同	同	上都賀郡柏尾村	二階堂 治郎吉	九月

新潟縣

試	二三五	金	銀	北甘樂郡西牧村	矢内 信一	七月	試	二九七	金	銀	利根郡古馬牧村	宮川 豊吉	七月
同	二三六	金	銀	利根郡古馬牧村	中島 門吉	二月	同	三〇〇	金	銀	利根郡東村	高森 光夫	九月
同	(二國)	滿	俵	勢多郡東村外一	石澤 幸三郎	六月	同	三〇〇	金	銀	利根郡東村	高森 光夫	九月

山梨縣

試	九七五	石	油	刈羽郡刈羽村外一	株 日 本 石 油 社	六月	試	一〇〇〇	金	銀	東浦原郡西鹿瀬村	宮川 謙	六月
同	九八六	同	同	刈羽郡高柳村	株 日 本 石 油 社	六月	同	一〇一一	石	油	西浦原郡栗生津村外一	株 長 谷 川 興 業 社	三月

同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月

同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月

岐阜縣

同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月

靜岡縣

試	滿	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
試	滿	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
試	滿	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
試	滿	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月

愛知縣

同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
同	試	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月

石川縣

探	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
探	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
探	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月
探	鑛山名	鑛種名	位	置	(鑛業權者)	著手月

三重縣

和歌山縣

鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	著手月	鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	著手月
探 六三	水	磯城郡多武峯村		池田梅藏	一月	試 二六八	亞炭	位	置	石原長次	一月
同 九七	同	宇陀郡政岩村		池田梅藏	十二月	同 (小原) 二〇〇	金銀銅錫重石	山邊郡東里村		小林正夫	八月
同 九七	同	宇陀郡字賀志村		池田梅藏	一月	同 二〇〇	水銀	磯城郡多武峯村		山代内勇	十一月
同 二二	銅硫化鐵	伊都郡見好村		松本植太郎	二月	試 (御所) 二二二	銅硫化鐵	伊都郡見好村		水浦久作	五月
同 二二	同	伊都郡高野町		井上政治郎	二月	同 二二二	同	伊都郡河根村		坊龜太郎	七月
同 二二	同	伊都郡河根町		畑野要助	九月	同 二二二	同	伊都郡高野町		同	九月
同 二二	同	東牟婁郡四村									

島根縣

鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	著手月	鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	著手月
試 二五三	銀銅亞鉛	鹿足郡田原村		夏林太郎	二月	試 二五八	金銀銅亞鉛	那賀郡大森村		石田義輔	三月
同 二五三	同	鹿足郡青原村		前西熊次郎	二月	同 二五八	金銀銅砒	八東郡野渡村		客野梅太郎	五月
同 二五三	同	鹿足郡青原村		林俊治	七月	同 (水産) 二七〇	金銀	安濃郡大田村		青木一直	六月
同 (林) 二五三	同	八東郡森山村									

岡山縣

試 二五二	備	鹿足郡畑ヶ追村		松尾フア	十一月						
探 (高瀬) 二六	格魯誤鐵	阿哲郡新郷村		大田剛太郎	十一月	試 二六二	銀鉛	阿哲郡上市村		山中權之助	四月
試 二六九	金銀銅水銀	和氣郡藤里村		二木貞	六月	同 二七六	銅	後月郡井原町		三宅庄市	十一月
探 (川關) 二五	銀銅砒	上房郡上有漢村		中島安次郎	九月	同 二七六	格魯誤鐵	阿哲郡神代村		法橋千吉	十二月
試 二六二	金銀銅硫化鐵	勝田郡南和氣村		藤田會社	二月	同 二七六	亞鉛銅硫化鐵	真庭郡久世町		平石一平	一月

廣島縣

鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	著手月	鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	著手月
探 (長谷) 四	銀銅	高田郡志原村		野村貞	七月	試 (三坂) 二二一	格魯誤鐵	比婆郡八針村		寛 寛	八月
試 (持丸) 三六	格魯誤鐵	比婆郡小奴可村		石飛大次郎	七月	同 二二一	銀銅鉛亞鉛	神石郡水渡村		竹井龜太郎	七月

愛媛縣

鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	著手月	鑛山名	鑛種名	位	置	鑛業權者	著手月
探 (大松) 二	銅	西宇和郡神松名村		三崎會社	十月	試 二五三	銅安質母尼	宇摩郡豐岡村		八塚一耶	七月

鑛山名	登錄番號	鑛種名	位	置	(代表者)	著手月	鑛山名	登錄番號	鑛種名	位	置	(代表者)	著手月
探 二四	石	炭	東松浦郡北波多村 外一	日本鑛業 株式會社	五月	試	三六	石	炭	小城郡砥川村外二	山口 峰	十月	
試 三五	同	同	小城郡砥川村外一	田中慎吉	四月	同	三五	同	同	東松浦郡北波多村 外一	平野 忠	八月	

長崎縣

鑛山名	登錄番號	鑛種名	位	置	(代表者)	著手月	鑛山名	登錄番號	鑛種名	位	置	(代表者)	著手月
探 (若松) 三三	石	炭	北松浦郡鷺島村	松永照太	一月	探 (大山) 三五	石	炭	北松浦郡鷺島村	石橋 林市	十月		
同 (木場山) 三六	同	同	北松浦郡中里村 外一	山口 慶八	十一月	同 (福井) 三六	同	同	北松浦郡吉井村	松島 志光	九月		
同 (土肥ノ浦) 三六	同	同	北松浦郡今福村	武部 元治	四月	同 (八ノ久保) 三六	同	同	北松浦郡中里村 外一	堀井 伸	十一月		

熊本縣

鑛山名	登錄番號	鑛種名	位	置	(代表者)	著手月	鑛山名	登錄番號	鑛種名	位	置	(代表者)	著手月
試 (大槻) 三三	滿	傳	球磨郡神瀨村	吉住 俊太郎	六月	鑛山名	登錄番號	鑛種名	位	置	(代表者)	著手月	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	

大分縣

鑛山名	登錄番號	鑛種名	位	置	(代表者)	著手月	鑛山名	登錄番號	鑛種名	位	置	(代表者)	著手月
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	

探 (上野田) 九	金	日田郡上津江村	井上 篤	五月	試 (大福) 三三	金銀銅鐵	下毛郡東馬場村	高山 義彦	三月
同 (風戸) 二四	滿	南海郡中野村	安藤 重夫	十一月	同 (渡神) 二四	銀	日田郡中津江村	宇都宮 嵩	十一月

宮崎縣

探 (尾鈴) 二五	金	東臼杵郡木城村 外一	宮下 キン	八月	試 (神宮) 二五	金銀安寶母尼	東臼杵郡富高町	寺島 市郎	十一月
-----------	---	---------------	-------	----	-----------	--------	---------	-------	-----

鹿兒島縣

探 (上諏訪) 二五	金	川邊郡東南方村	吉田 國藏	十一月	探 (新山ヶ野) 三三	金	給良郡横川村	三和興業 株式會社	十月
同 (辨財天) 二五	同	揖宿郡額住村	日高 尙剛	十月	同 (川内) 三三	金銀銅硫化鐵	給良郡東國分村	濱田 七次	五月
同 (德明) 三三	同	伊佐郡大口町	額川 次輔	二月	同	同	給良郡蒲生村外一	竹道 士一	二月

(四) 事業ヲ擴張シ又ハ擴張ニ著手シタル鑛山

事業ヲ擴張シ又ハ擴張ニ著手シタル主ナル鑛山ニ就キ其ノ概況ヲ記スレハ左ノ如シ

(イ) 金 屬 山
● 鴻之舞鑛山 ● 金銀銅 北見國紋別郡紋別町 住友合資會社

秀越脈ノ東南方約三九五米ノ點ニ同脈ニ平行ナル一露頭ヲ發見之ヲ昭越ト命名シ、地表ヨリ掘割ニヨリ探鑛ヲ行フト共ニ下部ニ豎入横坑ヲ開坑著脈ノ上通押ニ七〇米掘進セリ、本脈ハ走向北七六度東、傾斜ハ七〇度南ニシテ、露頭ノ延長一三〇米幅ハ廣キ箇所ハ三・五米ヲ示セリ、目下銳意探鑛中ナリ尙秀越昭越間ノ一部ニ軌道(延長四四一米、軌條六疔)ヲ敷設セリ

主要探鑛場ナル秀越坑ニ於テハ採鑛法トシテ「シユリケンケージ」法ヲ採用シ居リシガ本脈準以上ハ上磐軟弱ナルヲ以テ充填法ニ變更シタリ、此ノ爲充填用土砂運搬坑道トシテ本脈準上三〇米ノ地點ニ總延長二八五米ノ坑道ヲ開鑿セリ又東坑下部ノ探鑛準備ノ爲メ同坑ト秀越本坑ヲ連絡スル延長一八九米ノ坑道ヲ開鑿セリ

西大優越一五〇米坑ノ發展ニ依リ同坑ノ鑛石運搬用トシテ延長二一八米ノ輕便自動架空索道ヲ設置シタリ

三井瑠璃鑛山 金銀銅 天鹽國上川郡下川村 三井鑛山株式會社

前年九月ヨリ浸水ノ爲稼行ヲ中止シ居リシ山神下三〇米坑道東延ハ二六・一「キロワット」「ガードナー」唧筒及二六・一

「キロワット」「ウオシントン」唧筒(各一臺)ノ設置完成シ、又前年著手セル多管式汽罐ノ据付工事ハ二月完了シタルヲ以テ同坑ノ掘進ヲ開始スルト共ニ山神本坑東延モ前年ヨリ引續キ掘進中ナリ、尙本年度ニ於テ鑿岩機「インガソール」

S 四九番型一臺、同C C 一 番型一臺ヲ新設セリ

靜狩鑛山 金 銀 關東國山越郡長尾郡村 株式會社川崎造船所

前年秋ヨリ金銀鑛ノ浮游選鑛ノ試驗ヲナシ種々研究ノ結果成績優良ナル見込ヲ得タルヲ以テ之ヲ實地ニ應用センタメ本年春ヨリ選鑛場ヲ起工十一月末略々完成シタルヲ以テ爾來大規模ノ試驗ヲ行ヒツツアリ(設備ハ選鑛ノ項參照)

尙大ナ七・五「アール」ノ沈澱池一箇ヲ増設シ又從來ノ發電所ヲ擴張シテ容量一二〇「キロワット」星型結線單一勵磁三

相交流發電機一臺ヲ新設シ其ノ原動機トシテ一一・九「キロワット」「フレミヤ」式復溜吸入瓦斯機關(附屬裝置ハ瓦斯發生爐二箇、洗滌器一臺、瓦斯溜一箇、消音器二個、始動用壓氣機一臺ナリ)一臺ヲ設置セリ

日東鑛山 格魯護鐵 日高國沙流郡樺木村 日東格魯護鐵株式會社

從來ノ豎坑(深サ二〇米)ヲ掘下ケ深サ三五米トナシ其ノ坑底ヨリ延長三〇米ノ豎入坑道(第二坑道ト稱ス)ヲ開鑿シテ鑛床ノ下底ニ到著セシメタリ、同坑道ニ於ケル鑛床ハ幅一一・六米ニシテ第一坑道ニ於ケル同鑛床ノ幅ノ約二倍ヲ示シ目下鑛押探鑛中ナリ

此ノ坑道ヨリノ鑛石運搬ノ爲メ「デンパー」式單胴小型捲揚機一臺、又排水用トシテ「マイヤー」式豎型唧筒一臺ヲ新設シ其等ノ機械ノ原動機トシテ四・四「キロワット」「インターナショナル」石油發動機一臺ヲ新設セリ

網取鑛山 金銀銅 岩手縣和賀郡横川日村 三菱鑛業株式會社

昭和坑準ニ於ケル鑛況良好ナリシ爲同坑以下一七米間ノ開發ヲ目的トシ豎坑ヲ開鑿シ次テ通押探鑛約三〇米ニテ良好部ニ達セリ

又前年下磐粘土層中ニテ發見シタル頁岩ヲ交代セル含金高キ鑛塊ハ西部ニ於テハ各坑道共ニ尖滅セシガ東部ハ目下三番坑準ニ於テ探鑛中ナリ、而シテ坑内排水用トシテ〇・二八立方米一一・一「キロワット」電氣「タービン」唧筒一臺ヲ設置シテ在來ノ「ブランジャー」唧筒ヲ豫備トシ、選鑛ニ在リテハ粗鑛品位低下シタルタメ「ハルツジツガー」及「ウヰルフレーターブル」各一臺ヲ増設セリ

鷺合森鑛山 銀銅鉛亞鉛 岩手縣和賀郡湯田村 三菱鑛業株式會社

前鑛大切坑走向探鑛ヲ繼續シ東向ハ一時不況ニ陥リタルモ本年末脈巾一六種ヲ示シ尙優勢ナルヲ知リ西向ニ在リテハ斷

層ニ會シ一時探鑛ヲ中止シタルガ年末其鑛先ニ當リタリ、又大切坑以下開發ノ目的ニテ大切著脈點附近ヨリ堅坑開鑿ニ著手セリ、而シテ前年來探鑛中ナリシ親鑛ハ第二立入著脈シ 鑛押延長一〇米ニシテ脈幅平均〇・六米品位銅約四％ヲ示セルモ交通困難ニシテ運搬不便ナルヲ以テ前鑛ヨリ約四〇〇米ノ立入ヲ開鑿スベク目下計畫中ナリ

又前年來工事中ノ送電線路完成シタルヲ以テ架空索道原動機一・二「キロワット」吸入瓦斯機關ヲ二・四「キロワット」電動機ニ替ヘテ運搬能力ノ増進ヲ計リ、選鑛ニ在リテハ鑛量増加ニ應ズル爲「ハルツジツガー」二臺及之レニ附隨スル「スクリーン」及「ドラツグベルト」二臺ヲ設置シ動力ヲ一四・九「キロワット」電動機ニ改メタリ

赤石鑛山 金銀銅 岩手縣和賀郡湯田村 佐々木喜代治

從來稼行中ナリシ前山鑛床ニアリテハ良鑛部分ノ探掘既ニ終了ニ近ヅキ其下底亦品位低下シ來レルヲ以テ他方面ノ探鑛ヲ志シ久シク休業中ナリシ裏山坑下底ノ探掘ト前山鑛床ト裏山鑛床間ノ探掘トヲ目的トシ前山大切坑地並ヨリ二・二×一・二米ノ加脊ニテ探鑛坑道ヲ掘進シ、風畑山ニ於テモ露頭下約六〇米ノ處ヨリ探鑛坑道ノ開鑿ニ著手セリ、又坑外ニアリテハ坑内ノ進展探鑛坑道ノ延長等ニ伴ヒ坑内湧水ノ増加ヲ慮リ九月中縱一三・六米横七・六米深サ一・五米ノ沈澱池三個ヲ増設スル等事業ノ擴張ヲ計リタリ、然レ共海外銅價ノ暴落ハ必然的ニ買鑛價格ノ遞下ヲ示シタレバ貧鑛ノ探掘ヲ中止シ一方銳意手選鑛品位ノ上昇ヲ計レルモ遂ニ鑛量ニ於テ約一、〇〇〇噸價額ニ於テ約九八、〇〇〇圓ノ減少ヲ見ルニ至レリ

釜石鑛山 銅 鐵 岩手縣上閉伊郡釜石町 釜石鑛山株式會社

新山六番坑内ニ於テ鑛床西盤探鑛ノ目的ヲ以テ鑿岩機ニ依ル深孔探鑛ヲ試ミ佐比内鑛床ニ對シテハ金剛石試錐ヲ試ミル外各所ニ「ターレンチーベルグマグネットメーター」ニ依ル磁力探鑛ヲ行ヒテ相當效果ヲ收メ、探鑛ニアリテハ本年更

ニ「インガートソールランド」cc一型「クリーブランド」D五型各一臺ノ鑿岩機ヲ増設シテ探鑛量ノ増加ヲ計ルト共ニ豫テ計畫中ノ「シユリンケーヂ」探鑛法モ其準備ヲ急ギツ、アリ、坑内ノ運搬ハ鑛石ノ總テヲ八番坑ニ集積シテ此レヨリ搬出スルコト、シ六番坑ニ於ケル瓦斯倫機關車ヲ八番坑道ニ移轉セシメ、坑外運搬ニ在リテモ六番坑枋ノ洞間ノ單線鐵索並ニ「インクライン」ヲ廢止シ新タニ八番坑外ニ電氣捲卸機ヲ使用スル斜軌道ヲ設ケ夫レヨリ汽關車軌道ニ依リ直チニ大橋選鑛場ヲ廢止スルニ至レリ、前年來新設工事中ナリシ大橋選鑛場ハ本春ニ至リ運轉ヲ開始スルト共ニ從來ノ枋ノ洞選鑛場ヲ廢止スルニ至レリ、製鍊所ニアリテハ第八、第九高爐送風用トシテ二、一〇三・八「キロワット」ノ瓦斯機關並ニ直結送風機二基（送風量每分一、三四〇立方米、風壓每平方噸〇・八四噸）ヲ新設セルガ之レガ燃料ニハ高爐瓦斯ヲ除塵シテ使用スルモノニシテ該除塵用トシテ第一次（通風量每分二・八三〇立方米）及ビ第二次（通風量二・八三立方米）「コットレル」式電氣收塵裝置各一基ヲ新設シ尙此ノ瓦斯機關廢棄瓦斯ノ餘熱ヲ利用シ熔鑛爐瓦斯洗淨裝置、磚子室保温其他ニ使用センガ爲「エコノマイザー」付餘熱利用火管式汽罐二臺（罐胴徑二米長サ四・五米傳熱面積一三五平方米、最大常用壓力每平方噸八噸）ヲ新設シ尙高爐裝入原料貯藏用トシテ鐵筋混凝土製二、五〇〇噸入一個木製五〇噸入貯鑛槽五個ノ新設ヲ行ヒ、又製鋼ニ在リテハ第七號平爐（公稱三〇噸）一基並ニ新平爐用獨逸「フロットマン」會社製二段壓縮「トランクピストン」型空氣壓縮機二基ノ新設ヲ行ヒ、電氣爐ニ在リテハ滿庵銑及ビ硅素銑製鍊用トシテ「エル」式無蓋型電氣爐一基ヲ新設シ、鑛鐵ニアリテハ銑鐵鑄造用トシテ米國「ピツツブルグコールワツシャヤ」會社製能力一日約一、〇〇〇噸ノ鑄鐵機一基ヲ新設シテ十一月ヨリ操業ヲ開始セリ、其外棧橋荷役起重機用トシテ最大常用壓力每平方噸四・六噸ノ堅型汽罐一基ノ増設ヲ行ヒ、鑛毒除外設備トシテハ磁選及ビ燒結工場ニ於ケル廢水處理ノ爲沈澱池一個（四方石垣張容積六六九立方米）ヲ増設シ尙既設沈澱池ニハ尾鑛掬上掃除用電動起重機一臺ノ新設工事ニ

二六〇二「キロワット」廻轉數毎分九六〇

「ギヤカツプリング」密閉式(前記電動機ヨリ浮選機混和機ニ傳導スルモノ) 一臺

高速軸回轉數 毎分 九六〇

低速軸回轉數 毎分 三〇〇

又前年度新設工事ニ著手セシ火力發電所ハ愈々完成シ左ノ設備ヲ以テ發電ヲ開始セリ

三相交流發電機

二 基

電 壓

二、二〇〇

「キロボルトアンペア」

四二〇

出力「キロワット」

六七二

廻轉數毎分

二五〇

發電機運轉用機關

種類

四「サイクル」無空氣式「デーゼルエンジン」

二 臺

「キロワット」數

三七三・六

廻轉數毎分

二五〇

尙發電所ノ改修ヲ行ヒ左記變壓機ヲ増設セリ

名稱型式

屋外型自冷式變壓機

三 臺

容量「キロボルトアンペア」

四五〇

周波數

五〇

電 壓

一次 二一、〇〇〇

二一、〇〇〇

二次 二、一〇〇

二、二〇〇

次ニ亞鉛製鍊用變流機ノ改修ヲ行ヒ容量六〇〇「キロワット」ノ回轉變流機一臺ヲ新設シ之レガ爲從來使用セル一六〇

「キロワット」電動發電機一臺ヲ廢止シ同機二臺ヲ豫備トセリ

又昨年十月以來亞鉛製鍊副産物トシテ採取シツ、アル「カドミウム」ハ本年度ニ於テ二噸半ノ產出ヲ見タリ

大谷鑛山 金 銀

宮城縣本吉郡大谷村外一 日本鑛業株式會社外一

坑内ノ發展ニ伴ヒ益々勞力ノ機械化ヲ計リ本年更ニ瑞西「ウヰンターツール」會社製二段壓縮「ロータリー」壓氣機一
四九・二「キロワット」一臺並ニ米國「インガートールランド」會社C A三一型鑿岩機二臺ヲ増設セリ、又排水設備トシテ
從來二五〇尺坑道ニ設置セル「シングルプランヂャーポンプ」ノ動力三・八「キロワット」ナリシヲ七・五「キロワット」
ニ更ヘ又底部坑道ノ掘進ニ伴ヒ出水量増加シ特ニ一二五米坑道南延ヨリ毎分〇・〇一四立方米ノ湧水ヲ見ルニ至リタル
ヲ以テ一二五米坑道ニ三・八「キロワット」「シングルプランヂャーポンプ」二臺(内一臺ハ豫備)ヲ新設セリ、尙前年來
設置工事中ナリシ機械選鑛場ハ本年二月竣成運轉ヲ開始シ又此等設備増加ノ爲使用電力ニ不足ヲ來セルヲ以テ從來最大
一〇〇「キロワット」ナリシ購買電力量ヲ二〇〇「キロワット」ニ増加セリ

津谷鑛山 金

宮城縣本吉郡大谷村外一 幡子吉正

本鑛山ハ從來小規模ノ採鑛ヲ繼續シツツアリシモ本年ニ入り三番坑下底探鑛ノ目的ヲ以テ同坑口三八五米ノ個所ヨリ堅
坑開鑿ニ著手シ、此等ニ使用スル爲獨逸「デマツグ」會社製堅型「オートー」單胴一八・六「キロワット」壓氣機一臺ヲ

増設シテ鑿岩機ノ能率ヲ擧ゲ、且ツ前記堀下リ排水設備トシテ三聯式「プランヂャーポンプ」三・七「キロワット」一臺ヲ新設セリ、尙動力トシテ常時發力一六「キロ」ノ火力發電所ヲ設置シ其原動機トシテ獨逸製一八・六「キロワット」

「デーゼルエンジン」一臺ヲ新設シタリ

花岡鑛山 金銀銅鉛亜鉛硫化鐵 秋田縣北秋田郡花岡村外一 藤田鑛業株式會社

前年度七ツ館方面ニ於テ上總掘試錐ニ孔ヲ試ミ鑛床ノ存在ヲ知リ本年更ニ同方面ニ試錐八孔ヲ試ミタルニ其大部分ハ良質ノ黑鑛或ハ黃鑛ニ會セルヲ以テ愈々堂屋敷坑内二三中段準ヨリ此ノ方面ニ向ツテ探鑛坑道ノ掘鑿ヲ開始セリ、又元山方面ノ出鑛ヲ堂屋敷鑛ト合セ搬出スル目的ニテ新ニ連絡運搬坑道ヲ掘鑿セリ、神山鑛床ニ在リテハ開坑進ミ探鑛準備全ク成リ豫テ研究中ノ選鑛方法モ成案ヲ得タルヲ以テ五月新ニ神山鑛坑ノ西方三〇〇米貓鼻山南側斜面ニ一ヶ月一、二五〇吨ヲ處理スル機械選鑛場設置ヲ起工シ十一月完成直ニ運轉ヲ開始セリ、而シテ鑛坑選鑛場間ニハ鑛石運搬用玉村式單線架空索道ヲ設置シ、選鑛用水ハ神山第一、第二鑛坑中段ヨリ湧出スル清水ヲ使用スルコトトシ之レガ揚水唧筒トシテ

〇九立方米二六・一「キロワット」電氣「タービン」唧筒一臺ヲ新設セリ

今回新設シタル選鑛設備ヲ示セバ左ノ如シ

- 「ブレイキクラツシヤ」 口徑〇・三六三米×〇・二一八米 一臺
- 「マーシーボールミル」 徑一・八一八米長一・四〇六米 一臺
- 「コニカルボールミル」 徑一・八一八米長〇・五三三米 一臺
- 「ドル」式「クツシファイヤ」 單式〇・六七九米×四・九四五米 一臺
- 復式一・三五八米×四・九四五米 一臺

攪拌槽

MS浮選鑛機

「ドルシツクナー」

「オリバーフィルター」

「パキユームポンプ」

空氣壓搾機

「サンドポンプ」

乾燥機

「パケットエレベーター」

原動機

三相交流誘導電動機

- 同 五五・九「キロワット」 一臺
- 同 一四・九「キロワット」 一臺
- 同 一・五「キロワット」 三臺
- 同 三七・四「キロワット」 一臺
- 同 三九・七「キロワット」 一臺
- 同 七・五「キロワット」 三臺
- 同 三・七「キロワット」 一臺

同 同 同

二〇二「キロワット」

一六臺

五〇六「キロワット」

二臺

二二〇四「キロワット」

一臺

尾去澤鑛山 金銀銅

秋田縣鹿角郡尾去澤村

三菱鑛業株式會社

鑛脈ノ存在狀況ヲ確メシガ爲メ鋭意探鑛ヲ行ヒ本年中掘鑿セル鑛入ハ未ダ目的地點ニ達セザルモノヲ合シ實ニ三〇個處ニ及ベリ、其ノ内成功セルハ卯西上三南向鑛入、同上坑末廣向鑛入、下三坑卯西向鑛入、奥銚上二鑛入、奥銚下三鑛入、六月下二鑛入等ニシテ何レモ合銅品位二乃至九%幅〇・一米乃至三・〇米ノ鑛脈數條ニ出會シ現ニ銚押探鑛中ナルガ其將來ニ就イテハ刮目ニ値スルモノアリ、一方探鑛能率ノ増加、探鑛作業ノ充實ヲ計ル爲メ各種鑿岩機三十五臺ヲ購入増設シ又萬才下一坑道ニアリテハ「オストロデムラー」會社製「ガンソリン、ロコモテタイプ」一臺ヲ新設シテ大ニ運搬ノ圓滑ヲ計レリ、尙機械選鑛場ニアリテハ操業ノ合理化並ニ單純化ヲ計ランガ爲メ大改善ヲ斷行シ從來ノ「チーブル」ヲ全廢シ專ラ優先浮游選鑛法ニ依ルコトトシ著シク實收率ヲ高メ精鑛品位ノ昂上ヲ來タセリ、即チ從來精鑛含銅品位ハ五乃至六%ナリシガ今ヤ二三乃至二五%ニ昇リ從ツテ製煉ニ於ケル取扱鑛量ハ約四分ノ一ニ減シタルヲ以テ燒結能力ニ餘裕ヲ生ジ小型燒結鍋二臺ノ使用ヲ廢止セリ、尙亦今春小又川發電所ノ工事完成ト共ニ轉爐ノ操業ヲ開始シ眞吹床ヲ全廢スル等鋭意操業ノ合理化ヲ計リ著シク能率ヲ増進セル結果粗銅一、〇〇〇噸ノ増産ヲ見ルニ至レリ

永松鑛山 金銀銅鉛亞鉛

山形縣最上郡大藏村外一郡一村

古河鑛業株式會社

本年更ニ尾尾式一〇番型小型「ハンマードリル」三臺ヲ増設シテ外永松方面ノ探鑛ニ主力ヲ注ギ又從來大坑道ヨリ選鑛場ニ至ル運搬ハ人力ニ依リタリシガ本年下期ヨリ「フオード」A型四汽笛二二・四「キロワット」「ガンソリン」機關車

二臺ヲ運轉シ運搬能率ノ昂上、經費ノ節減ヲ計レリ

足尾鑛山 金銀銅鉛亞鉛銻鉛鈾

栃木縣上都賀郡足尾町

古河鑛業株式會社

(鑛床) 探鑛ノ項參照

(採鑛)

手掘ヲ全廢スルト共ニ一番粗鑛掘ヲ廢シ全部二番粗鑛掘ト爲シ階段掘ニハ從來ノ小型鑿岩機ト共ニ主トシテ「ストーパー」ヲ使用スルコトトセリ
鑿熔接作業ノ圓滑ヲ計ル爲メ一月通洞鑿冶場ニ七五「キロワット」電氣熔接機一臺ヲ設置シ次デ五月從來捲揚能力ノ不足ヲ感ジ居タル簀子橋堅坑捲揚機ヲ七五「キロワット」ノモノニ變更セルト共ニ捲揚室及堅坑槽等ヲ改造シ以テ運搬能率ノ増進ヲ計リ、更ニ鑿岩機ノ能率ヲ増進スル爲メ十二月本山ニ五一五「キロワット」電動機直結「インガートソルランド」製PRE二型二段式空氣壓縮機(「インレット」「アウトレット」共ニ「インガートソルランド」)「フレートバルブ」式ニシテ壓力七・〇三「キログラム」容量毎分八九・三四立方(米)一臺ヲ増設セリ、又通洞壓氣機工場ヨリ坑内ニ通ズル延長約九四〇米、内徑二〇・三種ノ鐵管ヲ二五・四種ノモノニ變更スル工事ハ明年三月頃迄ニ完成ノ豫定ナリ

(選鑛)

精鑛品位ノ上昇ト實收率ノ増進並ニ「スライム」處理ニ十分ノ成果ヲ舉グル爲メ通洞第二選鑛場ノ一部變更工事中ナルガ年内ニ完成シタル設備次ノ如シ

種	主要寸法	箇數
「ウヰルフレ」サンドポンプ	徑一五・二四種	二

十四區劃「ハーレンワルドサブエー」式「フローテーター」

〇・九米×〇・九米

一

「ハーデンデボールミル」

二・四米×〇・九米

一

「ドアークラシフアイヤー」

六・六米×一・八米

一

(製鍊)

六月第一號熔鑛爐ヲ改造シテ爐副及爐高ヲ多少増大シ且ツ新ニ第二號熔鑛爐ト同様ナル微粉炭吹込装置ヲ施シ以テ從來ノ二爐操業ヲ完全ニ一爐操業トナシ大ニ經費ノ節減ヲ計リ得タリ、新舊兩爐ヲ對比スレバ左ノ如シ

改造前後	爐長	爐幅		爐高 (羽口上)	水		套	煉瓦部 ノ高サ
		煉瓦部	羽口水準		總高	羽口上		
改造前	六〇九	一・六〇	一・〇七	三・四	二・四二	一・六五	〇・七六	一七八
改造後	六〇九	一・六〇	一・三	四・〇三	二・四二	一・三四	一・〇七	二六九

「コットレル」式電氣收塵機ノ收塵効率ヲ増進セムル爲試驗的ニ五月川下六號收塵室ヲ從來ノ多管式ヨリ平板式ニ改造シ又電氣收塵機ノ脫塵効率上并ニ伴ヒ亞硫酸工場内廻燒爐ノ焙燒能力ニ不足ヲ感ズルニ至リタルヲ以テ從來ノ六種爐ヲ六月一五種爐(「マジドールガル」式)ニ改造セリ

(鑛害除去設備)

砂形乾泥池ノ泥渣ヲ製鍊熔鑛爐裝入ニ適スル様熔結セシムル目的ヲ以テ昨年砂形乾泥池附近ニ反射爐一基ヲ新試シタルガ一月更ニ同所ニ爐床幅二・四二米、長サ六・〇六米ノ反射爐一臺及容量約三三〇立方米ノ木造乾泥貯藏場一個ヲ増設シ更ニ右反射爐へ裝入スル泥渣中ノ水分ヲ乾燥除去シテ反射爐ノ熔解量ヲ増加スル爲八月反射爐附近ニ長サ二・四二四米

直徑二・二二米ノ廻轉乾燥爐(胴板ノ厚サ一・二七種、廻轉數毎分二回)一臺ヲ新設セリ

從來小瀧坑水及銀山平滲透水ハ庚申山川ニ沿ヒ特設水路ヲ設ケ切幹沈澱池ニ流送處理シタルモ水路ノ保存ニ多大ノ經費ヲ要スルヲ以テ九月之等ノ鑛水ヲ坑内ヲ經テ通洞坑水ニ合流セシメ中才沈澱池ニ誘導處理スルコトニ變更シタル結果昭和三年砂形乾泥池構内ニ設置セル中才沈澱池ノ泥渣處理用「フィルタープレス」七臺ニテハ能力不十分ノ感アルヲ以テ九月下旬更ニ既設ノモノト同型ノ「フィルタープレス」(徑八〇〇耗、六〇枚)三臺並ニ一〇・一六種×二〇・三二種複式「ブランチャーパーボンプ」一臺ヲ増設セリ

栃木鑛山 金銀銅 栃木縣鹽谷郡船生村 日本鑛業株式會社

探鑛ノ結果四號鐵ハ斷續的ナルモ連續性ヲ有シ既ニ走向延長二一〇米ニ達シ脈幅平均三〇種ニシテ品位亦良好ナルヲ確メタリ

本年中ニ於ケル開坑ノ主ナルモノハ六坑地並ニ於テ下盤鐵、本鐵等ノ下底ニ到達スル坑道ヲ開鑿シ夫々探掘準備ヲ整へタルト六坑地並下垂直二〇米ノ所ニ七坑地並ヲ設ケ四號鐵向立入、下盤鐵向立入等ノ開鑿ニ著手シ年末迄ノ掘進延長約一〇〇米ニ達シタルモノ等ナリ

一月零尺捲揚ヲ七坑道迄延長スルト同時ニ從來ノ五坑捲揚機(三・七三「キロワット」)ヲ取外シ十月ニ至リ零尺捲揚ノ直流九・七〇「キロワット」電動機ヲ交流一四・九二「キロワット」ノモノニ變更シ、又九月七坑地並ニ溜水「タンク」ヲ開鑿シテ「シンキングポンプ」(三・七三「キロワット」)揚水量毎分〇・一二立方米、揚水高日下二〇米)一臺ヲ設置シ既設ノ「ゼットポンプ」ヲ取外シ尙五月及十二月ノ兩度ニ四坑及五坑唧筒ノ排水管ヲ從來ハ八・八九種鐵管ナリシヲ全部七・六二種銅管ニ取替ヘタリ、而シテ明年一月ニハ六坑地並ニ据付アル七・四六「キロワット」「ブランチャーパーボンプ」ヲ

七坑地並ニ下シ前記「シンキングポンプ」ヲ豫備トシテ七坑ヨリ直接五坑迄揚水スル計畫ナリ
 從來當山ニ於テハ火力發電所(木炭使用)ヲ有シ自家發電ヲ爲シツツアリタルモ多額ノ經費ヲ要シタルヲ以テ福島電燈
 株式會社ヨリ常時三五「キロワット」ノ電力ヲ購入スル契約ヲ結ビ九月其ノ受電設備ヲ完成セリ

宮山田鑛山 金 銀 栃木縣河内郡羽黒村 喜多吉兵衛
 一月以來工事中ナリシ左記搗鑛製鍊場(取扱元鑛量一ヶ月三・七五吨)ハ漸ク年末ニ至リ完成ヲ見又十一月工事ニ著手シ
 タル青化製鍊場(取扱元鑛量一ヶ月一・八七・五吨、容量三・三七五吨溶解槽一三個)ハ明年一月中ニ完成ノ豫定ニシテ著
 々事業ノ發展ヲ期シツツアリ

種 類	大 小	個 數
「アメリカ」式鐵製杵五本立搗鑛器	杵重量一三六・一斤	二
同	同 一八一・四斤	一
同	同 同	一
三本立搗鑛器	同 同	一
汞面眞鍮板	幅〇・三六米、縦一・一八米	一四
同	幅〇・三六米、縦一・二七米	七
同	幅〇・三六米、縦〇・七九米	七
「ウキルフレー」洶汰盤	六 番 型	二
淺川式瓦斯發生機	六「キロワット」	二
同 發動機	五「キロワット」	二

佐渡鑛山 金銀銅 新潟縣佐渡郡相川町外一 三菱鑛業株式會社

佐渡本山

高任八番坑富鑛帶下部探鑛ノ結果鑛体頗ル富良ナルヲ確メ掘下二五米ニテ六月十番坑ヲ開設シ三・七三「キロワット」輕
 便捲揚機ヲ設置シテ探掘ニ移レリ、又上記富鑛体下部探掘ヲ目的トシテ高任九番坑ヨリ開設セル東四號新堅坑掘下ハ鑛
 脈通過ニ際シ新富良部ニ達著シ九番坑以下三四米ニ十番坑「ブラット」ヲ開設セルガ同所ニ於テ鑛況一層良好トナレル
 モ一時探鑛ヲ休止シ専心掘下ヲ急ギ十一番坑(十番坑以下三〇米ノ豫定)迄到達ノ上探鑛ノ豫定ナリ

高任下部鑛石運搬ノ目的ヲ以テ著工セル高任九番坑ヨリ切上リハ昨年十二月一日高任七番坑ニ貫通シ更ニ九番坑立入
 及東道中ノ踏前下ゲヲ行ヒ本年七月十二日之ノ工事ヲ完成シ、從來「ウインズホイスト」ニヨリ七番坑迄中繼捲セル下
 部鑛石ヲ直接運搬スルコトヲ得ルニ至レリ

壓氣機ハ從來五・五・八種×四〇・六種、三三・〇種×四〇・六種二段復胴式一六四・一二「キロワット」ノモノヲ使用シ單獨
 ニ(一基ヲ豫備トシ)操業セルモ不便多キ爲一基(大立坑設置分)ヲ廢シ新ニ二五・四種×二七・九種一段七四・一六「キロ
 ワット」「インガーンランランド」ER一型一基ヲ設置シ前者ト併立運轉セシムルコトトシ十一月五日工事完成操業ヲ開
 始セリ

坑内排水設備ヲ統一セントシテ昨年來計畫作業中ノ大立坑下部溜水ヲ高任坑ニ合併スル工事ハ三月末完成シ之ノ結果大
 立五番坑設置唧筒ヲ廢止スルコトヲ得タリ

製鍊方面ニ於テハ徑三・一六三米、幅二・四二米、二四室準「オリバー」型、能力毎時二吨ノ溶滓濾過機一臺ヲ新設セント
 シテ六月起工、歳末略々完成セルモ未ダ操業ヲ開始スルニ至ラズ

明治四十一年以來繼續使用セル火力發電所汽罐「ドラム」四個腐蝕甚シク今後ノ使用危險ニ付逐次取替ヲ行フコトトシ内二個ヲ本年三月取替ニ著手シ五月竣工セリ、他ノ二個ハ明年五月迄ニ取替ノ豫定ナリ
高千支山

既設五五・九五「キロワット」壓縮機ノ傍ニ横臥式一段二五・四種×二七・九種、三七・五「キロワット」ノ壓縮機一臺ヲ又入川本坑道ニ復胴式「ドラム」大サ九一・四種×三〇・七種、捲網徑一・九種、速度一分間七三米、一九「キロワット」ノ電氣捲揚機ヲ設置スベク本年三月起工何レモ十一月落成セリ

●●●●● 葡萄鑛山 銀銅鉛亞鉛 新潟縣岩船郡野野町村 葡萄鑛山株式会社

十一月五番鑛堅坑ヲ下一坑道準ヨリ下二坑道準迄掘下ゲ一番鑛堅坑ヨリノ立入ニ貫通連絡セシメタル結果一番、三番、並ニ五番鑛ノ探鑛、採鑛、運搬並ニ通風排水等作業上ニ多大ノ利便ヲ與フルニ至レリ、從來ハ一番、三番、五番ノ各鑛毎ニ唧筒ヲ据付ケ排水セシガ前記ノ兩堅坑並ニ立入ノ完成ニヨリ各鑛ノ湧水ヲ全部一番鑛堅坑ニ集メ新ニのくち式唧筒（排水量毎分〇・八五立方米、揚程九〇・九米、「キロワット」數二二・三八）ヲ設置シテ排水スルニ至レルヲ以テ著シク經費ヲ節減シ得タリ

坑内ノ發展ニ伴ヒ粗鑛出鑛量増加シ従前ノ選鑛設備ニテハ到底處理シ得ザルニ至レルヲ以テ十月之ガ擴張ニ著手シ年末迄ニ大部分ヲ完成セリ、其ノ結果從來ノ處理鑛量ニ比シ約二倍ノ能力トナリ精鑛品位モ亦高上スルニ至レリ
増設シタル機械次ノ如シ

「ウヰルフレ」淘汰盤	十番型	二
「ハルツ」式「ジツガー」	四聯式	一

同	六聯式	一
廻轉手選臺	徑二・七二七米	一
「ドラツグクラシファイヤ」	一時間一砲	二
「バケツトエレベーター」	同	二

●●●●● 浮游選鑛機 五聯式 二
●●●●● 神岡鑛山 金銀銅鉛亞鉛蒼鉛重石砒黑鉛 岐阜縣吉城郡船津町外三 三井鑛山株式会社

朽洞鑛床中ニハ從來多少ノ黑鉛ヲ含有セシモ之ヲ採取スル程度ニアラザリシガ九番鑛床開發ニ伴ヒ其ノ含有著シク増加シ漸ク鉛浮游選鑛ト相關聯シテ有利ニ蒐集スルヲ得ルニ至レリ、精鑛ハ全浮游選鑛法採用ノ結果微粒トナレル爲從來ノ「ロースチングボット」ニテハ燒鑛成績良好ナラザルヲ以テ四月「ロースチングパン」（徑二米、深サ一七・七種一回ノ容量一砲）四個及附屬設備ヲ新設シ從來ノ燒鑛壺一二個ノ中豫備トシテ五個ヲ存置シ七個ヲ廢止セリ
又運搬能率増進ノ爲製鍊場ニ三・七三「キロワット」電動垂直捲揚機（高サ一・一米、速度毎分二九・六米）一臺、倉庫ニ三・七三「キロワット」電動傾斜捲揚機（高サ九米、傾斜七〇度、速度毎分二九・六米）一臺ヲ設置セリ
●●●●● 久根鑛山 銅硫化鐵 靜岡縣磐田郡佐久間村外二 古河鑛業株式会社

浮游選鑛ヲ擴張スルト共ニ之ニ關聯スル機械ノ新設、増設及改廢ヲ行ヒタル結果浮游選鑛ノ精鑛量ハ前年ニ比シ約四割ノ増産ヲ見ルニ至レリ、其ノ新設及増設シタル機械ノ主ナルモノ次ノ如シ

名	稱	能	力	臺數
KK	複式浮游選鑛機	一時間	二・五砲	一

「ドラッグクラシファイヤー」	同	二・〇瓩	—
「エレベーター」	同	四・五瓩	—
「クロームロール」	同	五・〇瓩	—
「トロンメル」	同	五・〇瓩	—
「エレベーター」	同	五・〇瓩	—
「グアイブレイティングスクリーン」	同	五・〇瓩	—
土肥鑛山 金 銀 靜岡縣田方郡土肥村 土肥金山株式會社	同	五・〇瓩	—

蛭山鑛南百八十二米切上ト二百七十三米切上間ハ前年掘進シタル切上及中段坑道ニヨリテ品位並ニ脈幅共優良ナルコト判明セルヲ以テ本年度ニ於テ之ガ探掘ニ著手シ南百四十二米切上ハ七十尺坑道附近迄ニテ一時中止シアリシヲ更ニ掘上リタル結果上部ニモ富鑛部アルコトヲ發見シ漸次探掘ニ移レリ

小山三百尺堅坑三脈ハ百三十尺坑道ニ於テ南鑛押ヲナシタル外更ニ百九十尺坑道ヲ開坑シテ此ノ間ノ富鑛部ヲ探掘セリ、百九十尺坑道ニ於テハ百三十尺坑道ニ比シ更ニ鑛況良好ナリ、前鑛、中鑛ノ出會掘下リ南部ハ百尺坑道ニ於テ南四八米附近迄掘進シアリシモ之ノ下部ニ於ケル鑛況不明ナリシガ掘下探掘ノ結果五七米附近迄ハ下部ニ於テモ品位脈幅共ニ優良ナルコト判明シ探掘ニ著手セリ、又中鑛堅坑ニ於テハ百三十尺坑道並ニ二百尺坑道ヲ設ケ之ニヨリ中鑛並ニ前鑛ノ下部ヲ探掘シ富鑛部ヲ發見シテ探掘ヲナセリ、中鑛堅坑ハ枿材腐朽シタルヲ以テ改修シ同時ニ從來ノ四區(捲揚二區人道一區排水管一區)ヲ三區(捲揚二區一・二一米×一・四五米、人道兼排水管一・五一米×一・四五米)ニ改メタリ、坑内運搬ニ關シテハ將來ハ全鑛區ヲ大體二分シ小山坑口ニ近キ鑛脈即チ三脈、前鑛、中鑛等ノ諸鑛ノ鑛石ハ中鑛堅坑ニヨリ

捲揚搬出シ、小山坑口ヨリ遠キ諸脈即チ蛭山鑛ノ南北、竹藪鑛、竹藪鑛附近ノ平行脈並ニ一脈等ノ鑛石ハ中央堅坑ニヨリ捲揚搬出セントスル計畫ニテ中鑛堅坑ヲ深サ九一米迄掘下中ニシテ完成後ハ二・四「キロワット」電氣捲揚機ヲ使用スル豫定ナリ、中央堅坑ニ於テハ九一米以下ノ坑道ニ於テ蛭山鑛ノ南、北鑛押並ニ一脈、三脈等ノ鑛押等ニヨリ出水量増加シタル爲一四九・二「キロワット」電氣「タービンポンプ」一臺ヲ増設シ合計四臺トナシ又捲揚機ハ從來鑛石捨石及諸材料ノ運搬ノミニ使用シタルモ人ノ昇降ニモ供シ得ル様一月之ヲ改造セリ、其ノ概要次ノ如シ

種類 復 胴 式

原動機 四四・七六「キロワット」電動機

鼓 胴 直徑一・二二米、幅九一・五種

捲揚能力 最大積載重量一・三五瓩、搭乗定員六人

捲 綱 「エキストラ、イムブルード、ブラフスチール」十九本線六ツ撚リ、中心麻入「ラングスレー」、周圍長六〇耗

捲揚速度 最大一三七・二米

中央堅坑下九十一米坑道ニ於ケル西向立入ハ今後約一〇米ニテ前鑛南部ノ下底ニ著脈スル豫定ニテ著脈後鑛押ト同時ニ前鑛、中鑛、三脈等ノ有スル坑水ハ此ノ坑道ニ誘引セラルベキヲ以テ明年四月迄ニ七四・六「キロワット」及一四九・二「キロワット」電氣「タービンポンプ」各二臺ヲ中央堅坑々底ニ増設シ排水ヲ行フ豫定ナリ

河津鑛山 金銀銅滿俺硫化鐵 靜岡縣賀茂郡船生澤村外二 日本鑛業株式會社

遠臺寺ニ於テ新ニ開發セル鑛床ニシテ稍有望ナルハ三番坑準ニ在リテ藤ヶ坑鑛ヨリ東向立入二五〇米餘ノ所ニテ出會ス

ル藤原山第一號脉ト稱スル鑛脉ニシテ立入ノ南北鍾押、南向六〇米北向一二〇米ニ及ビ内北向鍾押中六〇米ハ脈幅二米ニ達シ頗ル優勢ナルモ低品位ナリ、然レ共上下際際ニ高品位ノ筋ヲ伴フ爲十分探掘ニ堪ユルヲ以テ引續キ南北ニ鍾押中ナリ

須崎ニ於テハ五番坑草（水準下七〇米）ニテ立入中屢々大湧水ニ會シ作業遲延セシモ三月中旬ニ至リ漸ク著鑛シ引續キ腰割ヲ行ヒテ略推定通りノ鑛體アルヲ確メタルニヨリ將來更ニ底部開發ノ目的ヲ以テ從來ノ堅坑トハ別ニ新堅坑ヲ開鑿スルコト、シ八月下旬ヨリ準備作業トシテ立入ヲ開始セリ

三月連臺寺掛橋六番坑ニ坑内通氣用三七三「ワット」泉式送風機ヲ設置シ高温ノ引立ニ冷氣ヲ送り好結果ヲ擧ゲ得タリ又四月及十月ニ須崎五番坑ニ一・四立方米、三七・三「キロワット」及一・七立方米、四四・七「キロワット」ノ唧筒二臺ヲ新設シ從來ノ〇・八立方米及一・四立方米ノ唧筒二臺ヲ廢止セリ

尾小屋鑛山 金銀銅鉛亞鉛 能美郡島越村外一村 尾小屋鑛山株式會社

波佐羅八番坑第六脈ハ鑛況依然良好ナルヲ以テ同坑以下約三〇米迄ノ運搬並ニ排水ニ便スル爲單胴「スキップ」電氣捲揚機及掘下用渦卷電氣唧筒各一臺ヲ設置シタリ、波佐羅第三脈下底探掘ノ目的ヲ以テ波佐羅七番坑地並第二脈ヨリ第三脈入坑道ヲ開鑿シタルニ立込脈ニ當リタルヲ以テ川上ニ約一〇〇米川下ニ約五〇米鍾押探掘ヲ行ヒタルニ脈幅平均二三厘ニシテ比較的細脈ナレトモ品位銅五%内外ニシテ有望ナリ

波佐羅八番坑ハ探掘進展ノ結果湧水量増加セルニ付一四・九「キロワット」四段「タービン」電氣唧筒二臺ヲ設置シ又波佐羅七番坑ニ於ケル唧筒中四四・八「キロワット」三聯式「プランジヤ」唧筒一臺ヲ三七・三「キロワット」二段式「タービン」唧筒ニ變更シ以テ全部「タービン」ニ統一セリ

製鍊ニテハ粉鑛及泥精鑛ノ處理ヲ圓滑ニスル爲煉鑛機、團鑛機及五・六「キロワット」電動機各一臺ヲ設置シテ製團操業ヲ開始セリ

尙將來ノ計畫トシテハ波佐羅八番坑以下六〇米ノ第六脈及附近鑛脈ノ探掘ヲ目的トシ、七番坑地並、第六堅坑ヨリ山向七〇米第六脈下盤約三二米附近ニ於テ深サ約一二米ノ新堅坑ヲ開鑿セントス

明延鑛山 金銀銅鉛錫重石 兵庫縣朝來郡山口村外二 三菱鑛業株式會社

赤榮脈及百間脈上部露頭附近ハ銅鑛稼行ノ跡ニシテ鍾押引立殘柱等ニハ錫鑛ノ殘存侮リ難ク之レガ開發ヲ主眼トシテ赤榮五坑口ニ探鑛見張所ヲ設ケタリ

十一月大仙坑ニ錫鑛選鑛場ヲ新設セリ、其施設ノ概要左ノ如シ

一ヶ月間取扱元鑛ノ品位及數量	明延產出銅錫粗鑛	九三〇〇吨	錫一・六%	銅一・〇%
一ヶ月間精鑛ノ種類別品位及數量	銅錫精鑛上鑛	一〇〇〇吨	錫四・〇%	銅一・〇%
銅錫精鑛下鑛		五五〇〇吨	錫一・六%	銅一・〇%
一〇〇耗「グリズリー」	五・四米×七米	—	—	—
「ロール」	「井ダー」徑七六	—	—	—
〇・五八一米	「ベルトコンベア」	—	—	—
口徑〇・三八八米×〇・六三米	「ブレイキ」式「クラッシュヤ」	—	—	—
徑一・三米長三・六米、三〇耗	「二五耗」連結「トロンメル」	—	—	—
〇・五三三米	「ピツキングベルト」長一一・六米	—	—	—

- 三八八米拾石「ベルトコンベア」長一六・八米
- 「ウヰルフレールサンドポンプ」八・九五「キロワット」
- 沈澱池長一〇・九米幅七・三米深一・二米
- 三相交流誘導電動機五六・二五「キロワット」
- 同 九 「キロワット」

南谷坑ニ於テハ松谷坑ハ昨年ヨリ鍾押優勢ヲ持續シ、三、四月ニ鍾押セシ部分ハ斑銅鑛ヲ含ミテ銅三五%ノ高品位ヲ示セリ、富鑛部延長一二〇米ニ及ビシガ不幸斷層ニヨリ失脈セシ儘越年セリ、南谷本鑛層八號立入ニテ本鑛層ヲ隔タル五〇米ノ點ヨリ之レト平行スル坑道ヲ開鑿シ採鑛ノ結果年末ニ至ル迄三度鑛層ニ出會ス、ソノ關係未ダ不明ナレトモ含銅量四乃至五%トス

本鑛層尖端ノ探鑛タル五十尺坑、十五號北押ハ二米ノ層厚ヲ有スルモ品位二%内外年末尙好轉セズ
南谷坑硫銅鑛運搬從來ノ自動索道一〇二〇米ハ其ノ距離長ク風雪ノ日之レガ運轉ヲ中止スル事屢々アリ一方松谷坑内、漸次發展スルヲ以テ從來ノ鐵索ニ更フルニ左記自動索道ヲ新設セリ

高 低 差	二四五米
水 平 距 離	六〇六米
バケツト容量	三五〇斤

將來大仙坑ニ於テハ赤榮二百尺坑準北十二號附近ニ進出シ本山脈、百間脈、北星脈、蝙蝠脈下底ヲ探鑛シ又同三坑、南二十號ヨリ同ジク厚身ニ進入シ百間鑛ヶ谷ノ良露頭下ヲ探ラントス、尙南谷坑ニ於テハ松谷本坑坑口下約六〇米ノ處ニ

開坑シ傾斜スル松谷鑛層ノ下部狀況ヲ探リ又本鑛層周邊及鑛區内有望地點ニ上總掘試鑛施行ノ豫定ナリ
生野鑛山 金銀銅鉛鋅錫鋇鉛重石砒 兵庫縣朝來郡生野町 三菱鑛業株式會社

鑛床ニ就テハ金香瀨五井附近、千珠鑛下底、蟹谷鑛等ソレ／＼有望ナル箇所ヲ開發セシコトハ探鑛ノ項ニ記載セシガ以上ノ外四番東方立入ニテ昨年千珠本鑛ニ平行ナル優良亞鉛脈ヲ發見シタルヲ以テソレト約三〇〇米ノ間隔ヲ置キ東方ニ向テ福壽立入ヲ開始セリ、福壽鑛ハ本鑛ヲ去ル一五〇脈東ニアリテ往時相當稼行セル形跡アリ、明年三月迄ニ著脈ノ豫定ナリ、又四番東方立入ノ奥ニ於テ舊光榮脈ト連絡ノ目的ヲ以テ北押ヲ開始シ、年末迄約二〇〇米ヲ掘進セリ、明年四月迄ニハ完成ノ豫定ナリ

運搬能力増進ノタメ米國GE會社製四種機關車一臺ヲ増設シ又「ボールベアリング」付鐵製一噸入鑛車一〇〇臺ヲ造リ五番坑五井ト太盛間ノ鑛石運搬ニ供ス

七番坑道ニ二二・三八「キロワットタービンポンプ」一臺据付ク揚程一〇〇米水量毎分〇・七立方米
鑿岩機類ハ本年「デンヴァー」會社「ウオー」七番型四臺「インガートン」會社S四九番型五臺ヲ補充セリ

豫テ大改造中ノ本部選鑛場ハ年初完成シタルヲ以テ一月ヨリ運轉開始シタリ
神子畑選鑛場ニ於テハ處理鑛量ノ増加ヲ計リ且銅錫ノ實收率ヲ向上セシムル目的ヲ以テ左記諸機械ノ増設ヲナシタリ

種 類	大	サ(米)	個數
四〇耗「トロンメル」	徑〇・九一四×一・二一九、長一・八二八		一
「フエラリススクリーン」	〇・六〇九×一・二二二、二枚重ネ		二
MK「フローターター」	〇・七六×二・四三三		一

- 「ウヰルフレーターブル」 十二番型 二
- 「ジエームステーブル」 標準型 一
- 「カロコーン」 徑一・八二 一
- 「ウヰルクレーパー」 〇・一〇 五

近クMK浮游選鑛機四臺ヲ増設セントスル計畫アリ

川上鑛山 金銀銅鉛砒 兵庫縣神崎郡長谷村 石原政造

鑛區ノ中央ヲ縱貫セル溪流ヲ斜斷シテ露頭數多ク相當優勢ナルモノアルヲ以テ之レガ探鑛ノ目的ニテ鑛區三號標ノ西南ヨリ第四坑ヲ開坑シ川ノ西岸ニ沿ヒ北方ニ坑道掘進中ナリ、加背ハ高一・八一八米幅二・一二一米豫定延長七〇〇米ニシテ年末一六〇米ニ達セリ

沖ノ浦鑛山 金銀銅 兵庫縣城崎郡口佐津村 日本鑛業株式会社

前年度ニ著脈セル十一坑西部鍾押ハソノ後繼續探鑛中ノ處豫定通り完了セルヲ以テ之ヲ中止セリ、鍾幅狭ク含金低ケレドモ銅相當量アリ二坑上部ニテ昨年度著脈セル南鍾ハソノ後探鑛ノ結果大体西部及東部ニ二ケノ富鑛帶アル見込ミナリ、北鍾ハ五坑準以上ニ於テ探鑛ノ結果鑛況優良ナル一富鑛帶ヲ得タリ、鍾幅七〇厘、品位良好ナリ又二坑段欠ヨリ北立入ヲ行ヒタルニ四條ノ優良ナル鑛脈ニ逢著シ鍾押探鑛ノ結果鍾幅一米品位金銀共ニ四〇瓦以上ヲ示シ、走向延長四〇米内外ニシテ更ニ二坑道地並ヨリノ探鑛ノ結果ハ何レモ二坑道地並又ハ上部ニ於テ夫々下層鍾ヨリ分岐發達セルコトヲ確メ得タリ、前年九月中旬第十坑本部探鑛箇所ヨリ出水ヲ見タルヲ以テ假水堰ヲ設ケ次イデ試驗的ニ九〇・七「キログラム」ノ水壓ニ堪ユル鐵筋「コンクリート」水堰ヲ造リテ本年度ニ至リシガ減水ノ見込ハ豫想ニ反シタレバ本部探鑛ヲ中

止スルト共ニ二月最高一五八・七五「キログラム」ニ耐ユル「ダム」ヲ既設水堰ト假「ダム」トノ中間ニ新設シ同月中旬完成シ前記二ヶ所ノ水堰ト共ニ湧水遮斷ヲ行ヒタル結果ソノ成績良好ナリシヲ以テ四月「コンクリート」ヲ以テ鐵扉其他ヲ全ク密閉固定セリ

尙排水設備ハ左ノ如ク改廢ヲ行ヒタリ

ポンプ設置ヶ所	「キログラム」	揚水量	揚程	機	式
八 坑	六三・四一	一・四一立方方米	一五二米	横置「タービンポンプ」	移轉
十 坑	一四・九二	七・〇八立方方米	六一米	豎型三聯筒「ブランジャヤポンプ」	新設
同	三七・三	一・四一立方方米	七六米	横置「タービンポンプ」	同

大和水銀鑛山 水 銀 奈良縣宇陀郡宇太村 景山了一

昨年來ヨリ銳意下部探鑛ニ努力シ三番坑道ヲ開鑿シタルニ依然鑛況良好ニシテ殊ニ第三西坑道堀下リハ鉞幅約一・八米アリ鑛況優勢ナリ、依而本年度ヨリ探鑛作業ヲ開始セリ
坑内ノ發展ニ伴ヒ本年二月左記製鍊所ヲ新設シ銳意作業ノ擴張ニ努力ス

- 回轉式爐 内徑〇・三八長八・二七米 一
- 收塵室 二
- 冷却塔 一
- 冷却槽 一
- 烟 突 高サ六・〇六米 一

「ベルトコンベヤー」	〇・六一米×一八・〇三米	一
同	×一二・七八米	二
同	×一八・五四米	一
同	×一六・八二米	一
同	×四二・二七米	一
同	×二〇・四五米	一
同	〇・四六米×一〇・〇六米	二
同	〇・五六九米×四・三九米	一
同	〇・七六米×〇・三八米	二
「クロームロール」	徑一・二一米長二・四二米	二
「トロムメル」	〇・一八米×〇・七一米	一
「ジャイレートリークラツシヤー」	高 九・〇九米	一
「バケツトエレベーター」	同一〇・九一米	三
三相交流「モーター」	五五・九五「キロワット」	一
同	三七・三「キロワット」	一
同	七六・三六米×七・二七米	一

鑛石庫

前記第三堅坑工事完成ノ上ハ一八六「キロワット」復脚電氣捲揚機ヲ設置シ、又大通洞坑ニ於テハ四瓏電氣機關車ヲ運轉スベキ豫定ナリ、尙片上港ニ於テハ前記増産計畫ノ實施ニ伴ヒ從來ノ人力積込ヲ機械設備ニ改ムベク計畫中ナリ

●●● 淺川鑛山 銅硫化鐵

德島縣海部郡淺川村 三菱鑛業株式会社

前年ヨリ繼續探鑛中ノ通洞西向鑛入ハ本年八月走向二米幅員〇・六米ノ小鑛塊ニ出會セシヲ以テ下部二坑道地並ヨリ之レニ向ヒ掘進下部探鑛中ナリ

前年ヨリ計畫ノ大堅坑一五〇米（大サ四・五米×一・八米）掘下リハ三月ヨリ著手シ通洞地並以下九〇米三坑道迄貫通目下支柱枠組中ナリ、尙三坑道、同堅坑掘下リヲ繼續スル豫定ナリ

本鑛體ヨリ北方約五〇〇米ニ位スル阿波坑ニ於テハ五月地表ヨリ堅坑（大サ二・四米×一・二米）開鑿ヲ開始シ三〇米ニテ一坑道ヲ設ケ鑛入ヲ開鑿中延長一〇米鑛巾〇・六米含銅品位五%ノ鑛體ニ出會セリ依テ同堅坑掘下リニ努力シ年末約四〇米掘進鋭意下部開發ニ従事ス、斯ク運搬設備ノ完成ヲ計ルト共ニ探掘能力増進ノ爲六月左記鑿岩機並ニ空氣壓搾機ヲ新設シ機械掘リヲ開始セリ

- L 七四番型「ドリフター」 二臺
- C C 一 番型「ストーパー」 三臺
- S 四九番型「ジャツクハンマー」 三臺
- 「インガールランド」會社製空氣壓搾機 一臺
- 型式×C B 2 二段壓縮 壓力七「キログラム」
- 容量毎分一六立方米七四・六「キロワット」廻轉數三三三三

尙前記堅坑完成ノ晚ニハ坑外機械選鑛場建設ノ豫定ナリ

出石鑛山 銅硫化鐵 愛媛縣喜多郡大和村外三 三菱鑛業株式会社

上神坑ニ於テハ本年初メヨリ鑿岩機ヲ用ヒテ三番坑以下ノ探鑛ヲ開始シ四、五、六番坑ノ順序ニ開坑年末七番坑ノ開鑿ニ著手セリ、同坑及大切坑以下ノ運搬ノ目的ニテ前年來開鑿中ノ捲揚斜坑ハ年末迄ノ延尺一七〇米ニ達セリ
 出石坑ニ於テハ三番坑掘下リニ二・二五「キロワット」「ブランチャール」唧筒一臺ヲ据付ケ、四番坑立入ハ休止中ノ處本年九月取明ケヲナシ十月中旬ヨリ鑿岩機ヲ用ヒ加脊一・五米×二・〇米、豫定掘進延長四〇〇米ノ立入開鑿ニ著手シ年末一五三米ニ達セリ

郷ノ峠坑方面ハ前年ヨリ本年八月迄引續キ上總掘試錐探鑛中ノ處四月ヨリ送電設備ヲ完成シ坑内ニ單胴式三・七「キロワット」捲揚機一臺三・七五「キロワット」「タービン」唧筒一臺、直立型三・七「キロワット」壓氣機一臺ヲ設置シ足尾式一「番型」「ドリル」一臺ヲ運轉シ探鑛ニ著手セリ、即チ二番坑ニテハ東部ハ大斷層ニ依リテ截斷セラレタルヲ以テ之ガ東部探鑛ノ目的ニテ斜坑ヲ延長シ年末迄ニ一五〇米ヲ掘進セリ、豫定延長二〇〇米ニシテ加脊ハ二・〇米×一・五米トス
 出鑛量ノ増加ニ伴ヒ二番坑及三番坑選鑛場ヲ擴張シテ左記増設ヲ行ヒタリ

第二番坑選鑛場

一ヶ月間ノ取扱元鑛量粉粗鑛	一五〇吨	銅一・〇——一・五%	硫黄	一〇〇——一五〇%
一ヶ月間ノ産出精鑛量塊鑛	三〇吨	銅二・五%	硫黄	三八〇%
粉鑛	一五吨	銅二・三%	硫黄	三七〇%
三相交流誘導電動機		二・二「キロワット」		一臺
「ブランチャール」フィーダー				一臺
六〇「型」グリズリー				一臺

一重「トロンメル」

「ビツキングベルトコンベヤー」

「ハルツ」式淘汰機

第三選鑛場

一ヶ月間ノ取扱元鑛量	粉粗鑛	一、〇〇〇吨	銅	一・二%	硫黄	一〇〇——二〇%
	上粗鑛	五〇〇吨	銅	二・五%	硫黄	三六〇%
一ヶ月間ノ産出精鑛量塊鑛	粉鑛	六五〇吨	銅	三・〇%	硫黄	三九〇——四〇〇%
		一六〇吨	銅	二・〇——二・八%	硫黄	三七〇——三九〇%
三相交流電動機		七・四六「キロワット」	一臺	(既設三・七三「キロワット」ト取替ユ)		
同		三・七三「キロワット」	一臺			
六〇「型」グリズリー			二臺			
「ブランチャール」フィーダー			二臺			
二重「トロンメル」			一			
一重「トロンメル」			一			
「バケツトエレベーター」			一			
「ビツキングベルト」			二			
「ハルツ」式淘汰機			一			

●●●● 別子鑛山 金銀銅硫化鐵 愛媛縣宇摩郡別子山村外二 住友別子鑛山株式會社

前年開鑿ヲ終ヘ引續キ鐵支柱構築中ナリシ東二號斜坑ハ五月完成シ九〇「キロワット」橫置復胴電氣捲下機ヲ設置シ大堅坑ノ補助運搬機關トシテ十番坑道以下各坑ニ於ケル鑛石ヲ第四通洞坑へ捲下運搬ヲ開始シタリ、拾四番坑道ニ於ケル探鑛準備ヲ兼テ運搬坑道トシテ前年來開鑿中ナリシ延長三七七・八米加脊一・八米×三・六米ナル下盤坑道ハ年末竣工シ來年其一部ニ電車軌條ヲ敷設スベキ豫定ナリ、十五番坑道以下ノ探掘ヲ目的トシ拾四番坑道東七號鑛床ノ下盤約七五・七米ノ地點ヨリ傾斜四八度加脊二・一米×四・二米延長五一・五米ノ斜坑ヲ開鑿スルタメ其準備トシテ拾四番坑ニ延長二六一米ノ運搬坑道、拾五番坑ニ延長五七・八米ノ鑛入坑道ヲ開鑿セリ

十四番坑道東七號斜坑方面探掘ハ著シク進展シ同斜坑既設七五「キロワット」捲揚機ニテハ運搬力不足ヲ告グルニ至リシヲ以テ五六「キロワット」「リチャード」橫置復胴電氣捲揚機ニ變更セリ、尙東二號斜坑ノ完成及電車運搬系統其他施設ノ改善ニ依リ運搬力著シク増大シ探掘鑛石ノ大部分ヲ第四通洞ヲ經テ端出場選鑛場ニ運搬スルニ至リタルヲ以テ本年黒石間索道ハ三月ヨリ運轉時間ヲ半減シ尙從來ニ方操業ナリシ坑内運搬ヲ大部分一方操業ニ變更シタリ

後津坑ニ於テハ五番坑以下ノ運搬ヲ便ニスル爲加脊一・五米×三・三米延長二八六米ニテ九番坑準迄開鑿スル豫定ノ第二斜坑ハ年末其掘進五番坑以下六七・五米ニ達シタリ、又餘慶坑ニ於テハ鑛床下底ノ探掘ヲ兼テ運搬ノ便ヲ計ル爲一月鑛床ノ西端ヨリ傾斜三〇度加脊一・二米×二・四米迄長二〇〇米内外ノ斜坑開鑿ニ著手シ年末掘進一五米ニ達シタルガ其開鑿ハ手掘ニシテ進捗セザルニヨリ鑿岩機開鑿ニ改ムル爲後津ヨリ動力ヲ供給スベキ施設工事中ニシテ年末略完成セリ東平選鑛場ハ本山探掘鑛石ノ大部分ガ大通洞坑經由端出場選鑛場ニ搬出選鑛セラル、ニ至リタル結果其使用ヲ廢止シタリ、新居濱選鑛場ニテハ浮游選鑛ニ於ケル銅鑛實收率ヲ高ムル爲其元鑛細粉設備ヲ改善シ又從來廢棄シタル尾鑛中ノ硫

化鐵鑛ヲ回收スル爲在來ノMS式浮游選鑛機ヲ消費動力少ク且操業簡單ナルSW式空氣吹込浮游選鑛機ニ代ヘ尙其產出硫化鐵ヲ處理スベキ「ジツクナー」及「フイルター」等ノ増設工事を著手シ年末工事ノ一部完成セリ、(設備ノ主要ナルモノハ選鑛ノ項參照)

四坂島製鍊所ニ於テハ前年來増設中ナリシ燒結爐一基三月完成シ尙燒結爐點火用重油ノ取扱ヲ安全ニスル爲鋼板製圓筒型容量二〇畝ノ地下油槽二箇及徑五〇・八耗ノ輸送管ヲ設置セリ、從來鎔鑛爐羽口微粉炭吹込ミニ使用セシ轉爐用「ブローイングエンジン」ノ風壓一平方種ニツキ一畝ハ微粉炭操業ニハ高壓ニ過ギ不經濟ナルヲ以テ風壓一平方種ニ付〇・五畝風量一分間約一〇五立方米、一一「キロワット」「ロータリーエヤーコンプレッサー」一基ヲ設置セリ、燒結爐排煙ヲ處理スル「ペテルセン」式硫酸製造法ハ成績良好ナルヲ以テ更ニ轉爐排煙ヲモ處理スル爲左記設備ヲ増設シテ五月ヨリ機業ヲ開始セリ

- 特製切換弁 六
- 吸煙管 二式
- 送煙扇風機 一
- 瓦斯冷却器 一組
- 連絡煙管 一組
- 瓦斯洗滌塔 一
- 水滴捕捉器 一
- 連絡煙管 一組

小脱硝塔	一
脱硝塔	二
製造塔	一
吸收塔	三
排煙扇機	一
下部酸槽	七
各塔循環酸用ポンプ	八
硫酸冷却器	四
瓦斯排尿管	二
短連絡煙管	一
硫酸冷却用海水槽	一
電動機	一六

尙既設硫酸工場ニ於ケル成績ヲ一層向上セシムル爲從來ト同型同大ノ小型脱硝塔及鐵板吸收塔各二基其他附帶設備ノ設置工事中ナリ

既設ノ轉爐排煙處理用電氣收塵室ハ外氣ノ絶縁ヲ完全ニスル爲之ヲ改修シテ單ニ煙塵室トシテ使用シ又轉爐操業中ニ於ケル停風時又ハ休爐中外氣ノ侵入スルヲ防止スル爲轉爐ノ鐵製「フリーユ」ニ特製鐘形弁ヲ設置セリ

將來ノ計畫トシテ主ナルモノハ十三番坑道ニ「エンドレスロープ」式運搬裝置ノ設置、八番坑道、十四番坑道間通風坑道

開鑿、大平坑、東平間索道架設、微粉硫化鐵精鑛焙燒爐設置、熔鑛爐排煙處理「ペテルゼン」式硫酸製造試驗工場設置、硫酸工場用硝酸補給法改造施設、硫酸煮詰裝置新設、硫酸貯藏槽増設及四坂島御住崎ニ起重機増設等ナリ

●●●●●
 龜ヶ森鑛山 銅硫化鐵 愛媛縣新居郡大保木村 三菱鑛業株式會社

前年事業著手以來探鑛ノ結果鑛況頗ル良好ニシテ二月ヨリ探鑛及選鑛ヲ開始セリ、開鑿ニハ一八・五六「キロワット」BS九番型壓氣機二臺ヲ設置シテ「インガールソルランド」DCRW二十三番型鑿岩機一臺及同ASD十一番型鑿岩機五臺ヲ使用セル爲探掘大ニ進展シ、又二〇・二「キロワット」三聯式「ブランジャヤ」唧筒一臺及ピ三・七「キロワット」摩擦聯動機型輕便捲揚二臺ヲ設置シタリ

選鑛ハ設備トシテ「トロンメル」「ビツキングベルト」「ハルツ」式複式及單式「デツガー」各一臺ヲ設置シ精鑛一ヶ月約二八〇噸ヲ産出セリ

●●●●●
 動力ハ電力ニ依リ土佐吉野川水力電氣株式會社ヨリ月量四、七〇〇「キロワット」時ヲ購入ス

●●●●●
 佐々連鑛山 銅硫化鐵 愛媛縣宇摩郡金砂村 岩城鑛業株式會社

前年開鑿ニ著手シタル佐々連新斜坑ハ大切坑地並ヨリ八番坑下迄延長約三六三米ヲ竣工シ來年度ハ支柱及軌條ヲ施工シタル上五・五・九「キロワット」復胴電氣捲揚機ヲ設置スベク其完成ハ三月頃ノ豫定ナリ、又五番坑ヨリ九番坑ニ向ツテ開鑿中ナリシ延長約一二七米ノ西斜坑ハ完成シ三・七「キロワット」單胴電氣捲揚機ヲ設置セリ、坑外ヨリ金立坑下底ニ向ツテ開鑿中ナリシ金立大切坑ハ延長約三六三米ニシテ金立坑下ニ達シ來年度ハ掘上坑道ヲ開鑿シテ六號坑ト貫通セシムベク其完成ハ來年二月頃ノ豫定ナリ

上記佐々連新斜坑及金立大切坑完成ノ曉ニハ探鑛、開坑及探鑛ノ面目ヲ一新スルニ至ルベシ

基安鑛山 銅硫化鐵 愛媛縣新居郡加茂村外一 弘益殖産株式会社

前年架空索道ヲ新設シ運搬施設完成以來鋭意探鑛採鑛ニ努力シ五月ヨリ鑿岩機掘リ探鑛ヲ開始シ左記鑿岩機並ニ空氣壓搾機ヲ新設セリ

- 二六番型「ライナー」 二臺
- 四三〇番型「ジャックハンマー」 二臺
- 別子式「ハンドハンマー」 三臺
- 足尾式「ハンドハンマー」 二臺
- S、Z、M式「ロータリーコンプレッサー」 一臺
- 原動機二六・一「キロワット」三相誘導電動機 一臺
- 白瀧鑛山 銅硫化鐵 高知縣土佐郡大川村外二 日本鑛業株式会社

九番坑以下ノ探鑛及運搬ヲ目的トシ前年來開鑿中ナリシ九番坑第二堅坑掘下リハ七月末豫定延長一〇〇米ニ達シ完成セリ、前年ヨリ探鑛中ナリシ富郷通洞坑ハ本年ニ至リ富郷富鑛帶ニ出會セリ其ノ延長一〇〇米幅員平均〇・三五米ニシテ鑛況良好ナリ、大川坑ニ於テハ東方開發ヲ企圖シ大川東四號坑ト坑内連絡ヲ計リ同坑口前ニ捨石堆積場ヲ新設シ漸次作業場ヲ東方ニ移動スル目的ナリ

- 新設捨石堆積場ノ面積 三、五〇〇平方米
- 堆積豫定數量 三〇、〇〇〇噸

尾平鑛山 銅砒錫安質母尼 大分縣大野郡長谷川村 上田源三郎

錫價ノ低落ニヨル收入減退ニ一般粗鑛品位ノ低下ニヨル生産減ニ拮抗シ將來ニ於ケル經營ヲ一層安固ナラシムル爲増産ノ必要ニ迫ラレ選鑛處理量ヲ増加スル事トシ從來ノ設備ニ加フルニ更ニ搗鑛機一臺ヲ増加シ之ニヨリテ一日處理鑛量ヲ約四〇噸迄ニ増加セシムル事ヲ得ルニ至レリ、尙鑛質ノ變化ニヨリ有害不純物ノ増加ヲ見ルニ至リ從來ノ乾式製鍊ノミニテハ一般市場向製品ヲ製出スル事至難トナリタルヲ以テ之ニ加フルニ濕式電氣精製法ヲ行フ事トナリソノ計畫ヲ樹テ七月ヨリ著工明年五月中ニ竣工ノ豫定ナリ、右設備ノ大要ハ生産能力一日半噸、型式「マルチブル、シーリーズ」、電解液硅弗化水表面積、槽數一〇槽（豫備槽共）、木製「アスファルト」塗布長サ二・一五米幅〇・六九六米深サ〇・七八米、極板數每槽陽極板四〇枚（六六八耗×三〇三耗×厚サ三〇耗）、陰極板二一枚（七三〇耗×六五〇耗×二耗）、原動機電動發電機容量七・二「ワット」（四・五「ボルト」一・一八「アンペア」）ナリ

鋼生鑛山 金 銀 大分縣日田郡中津江村 鋼生金山株式会社

第二堅坑ノ捲揚機ハ從來一四・九「キロワット」速度一分間七六米ナリシガ之ヲ八九・五「キロワット」速度一分間三〇三米ノ復胴式捲揚機ニ取替ヘ四月竣工セリ、又第二及第三堅坑々口ト選鑛場間七五八米（内坑内四五五米坑外三〇三米）ノ主要運搬道路ハ從來手押運搬ナリシガ本年之ヲ一四・九「キロワット」下綱式「エンドレス」ニ改メ十一月月上旬完成セリ、之ガ爲坑道ヲ全部復線軌道トスベク約四〇〇米ノ間ヲ加脊幅三米高サ二米ニ擴張セリ、尙ホ之ガ改造ノ結果ハ前記第二堅坑捲揚機ノ改造ト共ニ出鑛能率ヲ増シ同時ニ坑内運搬費ヲ著シク減ジタリ

第三堅坑ハ深サ千百尺地並ニ達シタルヲ以テ八九・五「キロワット」揚程一六七米排水量一分間二立方米ノ「タービンポンプ」二臺宛ヲ八百尺地並（排水坑道ハ三百尺地並ニアリ）ト千百尺地並ニ据付タリ

尙ホ本年ハ鑛洋沈澱用小沈澱池一箇新設シ十月更ニ大沈澱池一箇新設工事ニ著手セリ、前者ハ製鍊場ノ下方約二〇〇米

ノ地點ニ設ケ容量約二〇、〇〇〇吨、後者ハ同ジク製鍊場ノ下方約一、六〇〇米ヲ距ル中川内部落ノ大溪谷内ニシテ容量約一七〇、〇〇〇吨ニテ明年三月完成ノ豫定ナリ

横峰鑛山 銅 宮崎縣東臼杵郡北方村外一郡一村 三菱鑛業株式會社

多年ノ懸案ナリシ東坑大斷層先ノ捕捉ハ昨秋漸ク解決スルヲ得且ツ同斷層先探究ノ目的ヲ以テ前年來七坑道中段上啓立入ニ依リ探鑛中ノ處大体所期ノ目的ヲ達シタルヲ以テ之ガ開發ノタメ標高二三〇米ノ位置ニ新ニ坑口ヲ設ケ新通洞ト稱シ十二月ヨリ鑿岩機ニテ坑道掘進ヲ開始セリ、本坑道ガ延長四二〇米ニ達スレバ將來同所ヨリ鑿坑ヲ掘下リ下部各坑道ニ貫通ノ上ハ鑛石捨石ノ捲揚及諸材料ノ運搬ヲナサシメ尙堅坑坑外鑛舍間ニハ電車ヲ、坑外鑛舍選鑛場間ニハ單線式索道ヲ運轉セシムベク諸般ノ計畫ヲ立テ著々準備中ナリ

探掘階段掘ニハ専ラ濕式S四九番鑿岩機ヲ採用シ工程ノ増進ニ努メタリ、「インガースル」壓氣機五六「キロワット」一臺ヲ増設シ鑿岩機「インガースル」L七四番六臺、「ジャツクハンマー」S四九番二臺ヲ増加セリ

本鑛山ノ鑛體ハ傾斜二〇度内外ナルヲ以テ普通金屬山ノ如ク自然落下ニヨリテ下部運搬坑道マデ搬出不可能ナル關係上MD一六〇「アイコッフコンプレツクスドエーヤセーカーコンベヤー」一臺ヲ五月末通洞日暮五號階段ニ設置セリ

見立鑛山 錫砒 宮崎縣西臼杵郡岩戸村 東洋鑛山株式會社

大切地並ニ於テ南方大吹谷ニ向ヒ探鑛坑道約六四〇米ヲ掘進シ尙ホ繼續中ナリ、五百五十呎坑ニ於テハ第一富鑛體ノ探鑛ヲ開始シ「シユリンケージ」式探掘法ヲ採用セリ

前年架設セル復線式架空索道ノ外五百五十呎坑ヨリ索道積込場地並ニ至ル迄「インクライン」捲揚設備ヲナシ九月竣工セリ

選鑛ニ於テハ將來細粉錫ノ「オーバードライディング」ヲ防ギ其回收率ヲ増進スル爲メ「テーブル」精鑛ノ品位ヲ低下シ各「テーブル」ノ精鑛ヲ集メ「シリンドリカルドライヤー」ニテ乾燥シ之ヲ磁氣選鑛機ニカケ精鑛ト中鑛トニ分チ中鑛ハ焙燒爐ニヨリ焙燒シ之ヲ「グライディングパン」ニテ碎キ三臺ノ「ジエームススライムテーブル」ニテ選鑛スベク設計中ニシテ明年二月末完成ノ豫定ナリ、尙ホ生産増進ノ爲メ現在一日約二〇〇吨處理ヲ一日約三〇〇吨處理ニナスベク擴張工事ニ著手セリ

三井串木野鑛山 金銀 鹿兒島縣日置郡串木野村 三井鑛山株式會社

探掘ハ能率増進ノ爲總テ機械掘ニ變更ノ方針ヲ取り「インガースル」ジャツクハンマー」七臺、同「ストーパー」一臺ヲ増加セリ

坑内運搬ニ於テハ西山坑九番坑道中東七番東九番ノ間約九〇米、同ジク九番坑道中坑道東九番東十番ノ間約三〇米及芹ケ野一番坑道中約二一米ヲ運搬路短縮ノ爲開鑿セリ

坑外運搬ニ於テハ貨物自動車一臺ヲ増加シ又西山事務所ヨリ國道筋ニ至ル約五七六米ノ道路改修工事ヲ施シ自動車運搬ノ便ニ備ヘタリ

昭和二年四月起工以來本年ニ至ル迄四ケ年ニ亘ル各電動機周波數變更工事ハ前年末迄ニ二五〇KVA變壓器四臺、六〇〇KVA變壓器四臺ノ据付並ニ四九臺ノ電動機改修ヲ行ヒ殆ド完成ノ域ニ達シ居リタルガ更ニ本年末電動機三臺ノ改修ヲ行ヒ本工事ヲ完了セリ

(ロ) 石炭山

夕張炭礦 石狩國夕張郡夕張町 北海道炭礦汽船株式會社

採炭能率増進ノ爲メ「インガソール」會社製三七・三「キロワット」壓氣機一臺及鑿岩機三臺（「フロットマン」DBI一三番型一臺、同AZ一一番型二臺）ヲ増設セリ

坑内ノ發展ニ伴ヒ坑内運搬設備ニ於テハ石狩坑ニ上綱式三七・三「キロワット」電氣循環機一臺、千歳坑ニ三七・三「キロワット」電氣捲揚機二臺、最上坑ニ同一臺ヲ設置シ又千歳坑ニ於テハ從來ノ電車軌道ノ一部ヲ下綱式三七・三「キロワット」電氣循環機ニ、最上坑ニ於テハ從來ノ二七・三「キロワット」ヲ四四・八「キロワット」電氣捲揚機ニ、石狩坑及天龍坑ニ於テハ從來ノ二六・一「キロワット」ヲ四四・八及三七・三「キロワット」電氣捲揚機ニ改設シタリ、此ノ外電氣捲揚機三七・三「キロワット」二臺、二九・八「キロワット」一臺、二六・一「キロワット」二臺及單線式電氣循環機一四・九「キロワット」五臺ノ新設又ハ改設ヲ行ヒ、坑外運搬設備ニ於テモ石狩坑々外ニ充填用火山灰運搬ノ爲四四・八「キロワット」電氣捲揚機一臺ヲ新設シ、千歳坑一中切坑外ニ石炭及材料運搬用トシテ三七・三「キロワット」電氣捲揚機一臺ヲ新設セリ

新夕張炭礦 石狩國夕張郡夕張町 北海道炭礦汽船株式會社

橋立坑及宮島坑ハ坑内發展シ從來ノ風道ニテハ通氣上不利ナル點アルト且今後ノ發展ニ備フル爲兩坑ノ主要排氣風道トナス目的ヲ以テ冷水山ヨリ延長五二〇米ノ岩切斜坑ヲ開鑿スベク（橋立道ト稱ス）十月開坑セリ、該斜坑ハ傾斜二八度半、加脊二・四米×二・七米ニシテ六年十一月末完成ノ豫定ナリ

各坑トモ其ノ發展ニ努メ三七・三「キロワット」壓氣機「アトラス」社製一臺、「サリバン」社製一臺ヲ新設シ、松島坑ニハ坑内運搬用トシテ三七・三「キロワット」捲揚機一臺ヲ又石研運搬用トシテ坑外ニ四四・八「キロワット」捲揚機一臺ヲ新設セリ

萬字炭礦 石狩國空知郡栗澤村 北海道炭礦汽船株式會社

主トシテ坑内ノ發展、作業ノ合理化ニ努メ「インガソール」三七・三「キロワット」壓氣機一臺、「フロットマン」AZ一一番型鑿岩機六臺及「マルト」社CHH型「ビツク」一〇臺ヲ新設スルト共ニ坑内運搬ノ改修ヲ計リ、葵坑及福壽坑ノ既設三七・三「キロワット」電氣捲揚機ヲ夫々七四・六「キロワット」及四四・八「キロワット」ニ改メ、牡丹坑既設五九・七「キロワット」電氣捲揚機ヲ三七・三「キロワット」ニ變更セリ

此ノ外二六・一「キロワット」電氣捲揚機一臺ヲ新設セリ
空知炭礦 石狩國空知郡歌志内村 北海道炭礦汽船株式會社

佐久志方面ノ發展ヲ計畫シ九月佐久志方面斜坑ヲ開坑セリ同坑ハ岩切ニシテ傾斜一五度、豫定延長一、一九〇米加脊ハ本卸四・二×二・四米添卸ハ二・四×二・四米ニシテ掘進石研運搬用トシテ兩坑口ニ夫々三七・三「キロワット」電氣捲揚機一臺ヲ新設セリ

各坑ニ於テモ坑内ノ發展採炭能率ノ増進ニ努メ日立製三七・三「キロワット」及「ブランシス」回轉式五九・七「キロワット」壓氣機各一臺、鑿岩機一三臺（「インガソール」R三九番型二臺、「フロットマン」AZ一一番型八臺、同一六番型三臺）ヲ新設シ又坑内運搬用トシテ三七・三「キロワット」復胴「テールロープ」電氣捲揚機一臺、二六・一「キロワット」電氣捲揚機一臺ヲ設置セリ

坑内ノ發展ハ通氣量ノ増加ヲ促シ神威坑ニ「チャンピオン」式扇風機一臺（排氣量四二八立方米原動機七・五「キロワット」）明石坑ニ「シロッコ」式扇風機一臺（排氣量一、一〇〇立方米原動機三七・三「キロワット」）ヲ新設シテ通氣ノ改善ヲ行ヒタリ

ヲ増設セリ

電力ハ北海道電燈株式會社ヨリ購入シ居レルガ坑内外ノ發展ニヨリ十二月ヨリ一ヶ月購入高ヲ三六〇〇〇〇「キロワット」時ニ増加セリ

大夕張新坑 石狩國夕張郡夕張町 三菱礦業株式會社

通洞坑本延ノ掘進ハ一時中止シ居リシガ一月ヨリ再開五月貫通セリ、其ノ後追切保坑ニ努メ十月末略々完了セリ、第一斜坑ハ採炭準備完成シ五月ヨリ南方面ノ採炭ヲ退却式長壁法ニヨリ開始セリ、又同坑ノ通洞坑準以下採炭ノ爲北卸掘進ノ計畫ヲ立テ年末迄ニ捲立及捲揚機械座ヲ完成セリ、第二斜坑ハ二月末通洞坑ト貫通シ目下採炭準備中ニシテ該坑ニ二二三・八「キロワット」電氣捲揚機一臺ヲ増設シ、又同坑ノ入氣用及拂跡充填材料搬入用トシテ十一月ヨリ斜坑ノ開鑿ニ著手シ(香取坑ト命名ス)其ノ坑口ニ八二「キロワット」電氣捲揚機一臺ヲ新設セリ

採炭用トシテ「サリバン」C L A 二番型截炭機二臺ノ外「フロットマン」C A 七番型五二臺、「ムードン」P 二 A 型五七臺、「コリネ」L A T 型一四臺、「クルツブ」P N K A 三 A 型六臺ヲ新設シ且「インガートン」三三七三「キロワット」壓氣機一臺ヲ増設セリ

通洞坑運搬用ノ蓄電車(「グットマン」L M 八型)一臺ヲ増設シテ坑内發展ニ備ヘ又切端運搬用トシテ「アイコッフボールフレイム」式 M E 三八〇型二臺、同三二五型二臺、同二六〇型七臺、「リットルカッター」六 H C 型一臺、「タービエーアホイスト」H A 二型一臺ヲ増設又ハ新設セリ

坑内發展採炭開始ニヨリ出炭増加シタルヲ以テ既設選炭場ニ共益社八〇吨水洗機二臺、「ジンマー」式選炭機(七五種)一臺ヲ増設セリ

右ノ外増置中ノ發電所(容量三七五「キロワット」三相交流發電機据付)ハ一月完成セリ

三菱美唄炭礦 石狩國空知郡美唄町 三菱礦業株式會社

坑内發展、採炭能率ノ増進ニ努メ「サリバン」C L E 二番型二六・二「キロワット」截炭機二臺、「フロットマン」Z S 七〇番型一〇臺、「シーメンズ」E 四二三番型〇・四「キロワット」電氣「ドリル」一〇臺ヲ増設シ、坑内運搬設備ハ堅坑ニ蓄電車二臺(一七・九「キロワット」及四・五「キロワット」)七・五「キロワット」電氣捲揚機一臺、第三坑ニ三七・三「キロワット」一臺ヲ設置セル外「タツガーホイスト」(六 H C) 二臺、「ボールフレイム」式切端運搬機一臺ヲ増設セリ、第三坑ニ於テハ坑内ノ發展ニヨリ通氣ヲ改善スル爲メ我路ノ澤風道坑口ニ風量四、二四五立方米「シロッコ」式扇風機一臺ヲ新設セリ、堅坑々外ニ石研廢棄用トシテ玉村式單線三七・三「キロワット」架空索道一基ヲ新設セリ

尙前年來採炭中ノ第二坑下六番層ハ水準以上ノ採炭終了シ採炭準備ニ著手セリ

三菱芦別炭礦 石狩國空知郡芦別村 三菱礦業株式會社
採炭能率ノ増進ヲ計ル爲メ「サリバン」C L E 二番型二二・三「キロワット」截炭機三臺ヲ増設シタル外第一坑ニ三七・三「キロワット」電氣捲揚機一臺、第二坑ニ同七・五「キロワット」一臺ヲ設置シ第三坑ニ於テハ排水用トシテ二九・八「キロワット」及七・五「キロワット」唧筒各一臺ヲ新設セリ

茂尻炭礦 石狩國空知郡赤平村 大倉礦業株式會社

前年ヨリ掘進中ノ右坑奥部上層群ヨリ中層群ヘノ探鑿堅入坑道ハ三九五米ニテ中層群ニ著炭シ同群ノ七番層、六番層五番層、四番層、三番層、二番層ノ六層ヲ確立シタリ、又右坑九番層本向坑道ノ斷層先ハ八月ヨリ探鑿坑道ニ掘進ヲ開始シ延長一二一米ニ達セリ今後二二一米ニテ著炭ノ豫定ナリ

萬慶三坑切替斜坑ハ坑口ヨリ左十片迄五三〇米ヲ四月下旬完成セリ、採炭能率増進ノ爲萬慶三坑以外ノ各坑ハ採炭方法ヲ充填式長壁法ニ改メ、又一四・九「キロワット」壓氣機一臺、「フロットマン」C A七番型「ピック」五臺ヲ新設セリ、上層斜坑ハ坑内發展ニヨリ從來ノ電氣捲揚機ヲ一八六・五「キロワット」電氣捲揚機ニ替へ排水設備ハ「タービン」唧筒三七・三「キロワット」二臺、二九・八「キロワット」二臺ニ取替へタリ、尙萬慶斜坑、同新三坑、一ノ澤坑ニ五二・二「キロワット」「タービン」唧筒一臺ヅツ増設又ハ新設セリ、

選炭場ニ於テハ炭質向上ノ爲メ「ジツガー」式水洗機（能力毎時一五噸）一臺、同上（能力毎時一〇噸）一臺、手選帶（能力毎時一五噸）一臺、「チツブラー」一臺、「スクリーン」一臺ヲ増設セリ

奔別炭礦 石狩國空知郡三笠山村 住友炭礦株式會社

二斜坑下部探礦ノ爲中ノ澤右流ニ施行セル第二號金剛石試錐ハ深度一八六乃至二七九米ニテ一番層乃至五番層迄ヲ確立シ、六月ヨリ幾春別炭礦青葉坑稼行炭層ノ當礦區内ニ於ケル狀況調査ノ爲メ奔別川大橋附近ニ第三號金剛石試錐ヲ開始シ年末迄ニ深度三〇三米ヲ掘進セリ

萬世坑奥部水準下採炭ノ爲同坑奥部ニ坑内斜坑ヲ開坑セリ

採炭能率増進ノ爲採炭法ヲ長壁法ニ改メ且ツ「インガソル」B A R三三番型「ジャックハンマー」三臺、「フロットマン」C A七番型「ピック」八臺、「ムードン」P二A型「ピック」二臺ヲ増設シタリ

運搬設備ニ於テハ坑内用トシテ萬世坑ニ電氣捲揚機七四・六「キロワット」一臺、同二二・四「キロワット」一臺、第二斜坑ニ七・五「キロワット」一臺ヲ新設シ萬世斜坑捲揚機ハ一四九・二「キロワット」ニ改設シ、坑外ニ於テハ選炭場ニ二七・三「キロワット」電氣捲揚機一臺、鳥居澤ニ二六・一「キロワット」電氣循環機一臺ヲ設置セリ

各坑共坑内發展シタルヲ以テ排水設備トシテ「タービン」唧筒五五・九「キロワット」、四七・八「キロワット」、二九・八「キロワット」、二二・三「キロワット」各一臺、及「プランジャー」唧筒七・五「キロワット」一臺ヲ新設又ハ改設セリ

出炭ノ増加ニヨリ既設選炭設備ハ能力不足トナリタルヲ以テ新ニ選炭場ヲ設置シ「バウム」式一〇〇噸水洗機一臺、同五〇噸一臺、手選帶（能力毎時五〇噸）三臺ヲ設置セル外「チツブラー」三臺、「エブロン」式及「テーブル」型給炭機五臺、「ジンマー」式篩六臺、「エレベーター」九臺、「コンベアー」一〇臺ヲ備へ尙容量四〇〇噸ノ積込場ヲ増設セリ、坑内外ノ發展ニヨリ購買電力ヲ一ヶ月四三二、〇〇〇「キロワット」時（唐松炭礦ト共同）ニ増加セリ

唐松炭礦 石狩國空知郡三笠山村 住友炭礦株式會社

前年末ヨリ唐松川本流ノ澤上流ニ施行セル金剛石試錐ハ本年三月末深度一七二米ニテ五番層（厚サ二・七米）ニ著炭シ引續掘進八番層迄ヲ確立セリ

一六四・二「キロワット」壓氣機一臺ヲ増設シ尙選炭場暖房用トシテ「ランカシャー」汽罐一臺ヲ新設セリ、又容量四五〇噸ノ積込場ハ本年完成セリ

上歌志内炭礦 石狩國空知郡歌志内村 住友炭礦株式會社

豎坑四坑道準以下採炭ノ爲同坑道ヨリ斜坑（中部斜坑ト稱ス）ノ開鑿ヲ開始セリ延長三八八米、加春ハ二・一×二・四米ニシテ傾斜二〇度ナリ

採炭能率増進ノ爲メ「デンパーウオー」九五番型六臺、「フロットマン」C A七番型「ピック」一〇臺、「ムードン」P二A型「ピック」一臺ヲ増設シ、切端運搬ノ爲「アイコッフシエーカーコンベアー」MD一六〇型、同ME二六〇型、各一臺ヲ新設シ尙坑内運搬設備ノ改善ヲ行ヒ蓄電車三臺、電氣捲揚機一二六・八「キロワット」一臺、三七・三「キロワット」

第二水平坑ニ坑内運搬用トシテ二・四「キロワット」電氣捲揚機一臺ヲ新設シ、坑外ニ於テハ選炭場上ニ一四・九「キロワット」電氣循環機一臺、一・二「キロワット」電氣捲揚機一臺ヲ新設セリ
 主要通氣ハ自然通氣法ニヨリ居ルガ局部通氣用トシテVSE三番型扇風機（風量五五立方米、一・五「キロワット」）六臺ヲ新設セリ

右ノ外手選炭場（「バンドコンベアー」式手選帶能力毎時四〇吨一臺新設）一棟ヲ新築セリ
 動力ハ七月迄自家發電ニヨリ居リシガ使用量ノ増加ニヨリ北海道電燈株式會社ヨリ電力ヲ購入スルコト、セリ、一ヶ月契約高三六、〇〇〇「キロワット」時ナリ

彌生炭礦 石狩國空知郡三笠山村 東邦炭礦株式會社

坑内ノ發展ニ努メ掘進採炭用トシテ泉式電氣「ドリル」一臺ヲ増設シ從來一一・九「キロワット」電氣捲揚機ヲ一八五「キロワット」變更シ、又七四・六「キロワット」「タービン」唧筒一臺ヲ増設セリ尙局部通氣用トシテ一・五「キロワット」「シロツコ」型扇風機一臺ヲ増設セリ

坑内ノ發展ニ伴ヒ出炭量増加シ既設ノ水洗機ハ能加不足トナリタルヲ以テ既設ノ一〇吨及一五吨共益社水洗機ヲ五〇吨ノモノニ改メ又其ノ用水用トシテ二六・一「キロワット」「タービン」唧筒一臺ヲ増設セリ

春採炭礦 釧路國釧路市 太平洋炭礦株式會社

坑内ノ發展ニ努メ採炭用トシテ「フロットマン」CA七番型「ビツク」一臺、同十番型「ビツク」一臺、掘進用トシテ「インガール」BAR三三番型「ジャックハンマー」一臺ヲ新設又ハ増設シ、又「ベルト」式切端運搬機一臺新設、「シエーキングトラフ」式切端運搬機一臺ヲ増設シタル外從來坑外ニ使用シ居リシ循環機（一一・二「キロワット」）一臺

ヲ坑内ニ移設セリ

坑内ノ發展ニ伴ヒ通氣改善ノ目的ヲ以テ前年開坑セル通氣斜坑ハ本年七月第一斜坑連卸ニ連絡シ通氣良好トナレリ、尙本斜坑ノ完成ニヨリ既設ノ第一唧筒座以下ノ水ヲ此ノ斜坑ヨリ排水スルコトニ改メ同斜坑々底ニ「タービン」唧筒（揚水量二・二二立方米）一臺ヲ新設シ尙第一唧筒座ヨリ「タービン」唧筒（揚水量一・三八立方米）一臺ヲ移設セリ

茅沼炭礦 後志國古宇郡泊村 茅沼炭礦株式會社

主トシテ坑内ノ發展ニ努メ第一斜坑内ニ「タービン」唧筒二九・八「キロワット」一臺、一八・六「キロワット」一臺ヲ新設シ、尙前年ヨリ設置準備中ノ選炭場完成セリ、其ノ機械設備ハ「ビツキングバンド」一臺、篩二臺、「エレベーター」四臺ニシテ之等ノ動力トシテ五五・九「キロワット」電動機一臺ヲ新設セリ

昭和第一坑 釧路國厚岸郡厚岸町 吉岡炭礦

坑内ニ發展ニ努メ斜坑捲揚用トシテ蒸汽捲揚機一四・九「キロワット」一臺、及一一・九「キロワット」一臺ヲ新設シ（但シ後者ハ豫備）、斜坑排水用トシテ「シンプレックス」唧筒一臺、「ウオシントン」唧筒四臺ヲ新設セリ
 尙前記機械ノ動力用トシテ汽罐一臺ヲ増設セリ

内郷炭礦 福島縣石城郡内郷村 磐城炭礦株式會社

（町田方面）

本層ノ退却拂ノ進捗ニ伴ヒ排水能力ノ不足ヲ來タシ左記唧筒ノ新設ヲ行ヒタリ

設置場所	種類	排水量	揚程	「キロワット」	臺數	備考
堅坑 坪下	電氣「タービン」	二・八 ^{立方米}	一三・六 ^米	一四・九	一	増設

堅坑 坪下 電氣「タービン」 一・一 九一 二九・八 一 増設

(第三斜坑方面)

前年來實施中ノ後退式長壁法ハ作業順調ニ進展セル結果左記設備ノ擴張改善ヲ行ヒタリ

設置場所	種類	排水量	揚程	「キロワット」	臺數	備考
第二切替本線十三片	電氣「タービン」	一〇・一 ^{立方尺}	九一	二八・三	二	増設
同	同	一・四	一九七	七四・六	一	同
同	同	二・八	一三六	一〇四・四	一	同

捲揚機	設置場所	種類	「キロワット」	臺數	備考
切替第一本線	「ギリア」式單相電氣捲揚機	三七・三	一	新設	
坑内エンドレス坑道	「アングス」式電動「エンドレス」	七・五	一	同	

(高坂坑方面)

數年來採掘中止中ナリシ第二坑(上層)ノ排水ヲナシテ採炭ニ著セル外本坑上層ニアリテハ電氣「ドリル」ヲ増設シ機械採炭ニヨリ能率増進ニ努メタル結果坑内著シク發展シ通氣量ニ不足ヲ生シタルヲ以テ上層四昇、同三卸ニ各局部扇風機ヲ新設シテ通氣ノ改善ヲ計リタリ、尙坑外選炭場ニアリテハ微粉炭洗滌裝置ヲ増設シテ大イニ炭質ノ昂上ヲ計レリ其他本年中ニ設置セル設備左ノ如シ

鑿岩機

設置場所	種類	製造所名	「キロワット」	臺數	備考
上層坑	「E四二」 「オーガードリル」	「編達」 「シーメンス」會社	五・二	五	増設

設置場所	種類	排水量	揚程	「キロワット」	臺數	備考
右中央片坑	電氣「タービン」	一〇・九 ^{立方尺}	一〇〇	五九・七	三	新設
北二斜坑	同	四・二	四五	五九・七	一	増設
北二斜坑	同	四・二	一三六	一八六・五	二	新設
同	同	二・八	一三六	七四・六	二	同
南卸左六片坑	同	一・一	三〇	二二・四	一	同
同	同	二・二	二四	二六・一	一	同
北二斜坑	同	四・二	四五	七四・六	一	同
北二斜坑	同	一・一	三〇	二二・四	二	同
北二十卸	同	一・一	六	七・五	一	同
左上層三片卸	同	一・七	一三六	五九・七	一	同

北二斜坑本線	「ヤリア」式單開電氣捲揚機	四四・八	—	—	新設
左同二十四片	同	二二・七	—	—	同
上層四昇	同	五九・四	—	—	同
上層三昇	同	二二・四	—	—	同
坑外併捨場	「エンドレスロープ」	三七・三	—	—	同
扇風機					
設置場所	種類	排氣量	「キロワット」	臺數	備考
北二斜坑左二十四片	「シロツコ」型	五五・七	二六・一	一	新設
上層四昇	同	五五・七	二六・一	一	同
同三卸	同	二七・八	五九・七	一	同
洗炭機					
設置場所	種類	能力	「キロワット」	臺數	備考
高坂選炭場	「共益社」式「シツガ」式エレベーター	三〇	一四・九	一	新設
同	同	五〇	五・六	一	同

(縦坑方面)

大正十三年十二月稀有ノ出水ニ會シ爾來水没ニ委シタル東斜坑ニアリテハ該斜坑水没區域ノ北部未探掘部分ノ開發ヲ計畫シ坑口ヲ距ル約三六四米ノ個所ヨリ金谷卸ヲ開鑿シ年末其ノ延長約三〇〇米ニ達セリ、又第二斜坑切替本線ニアリテ

ハ銳意深部ノ掘進ヲナセル結果坑内著シク發展シ且ツ同斜坑ヨリ高坂南四斜坑方面水没區域ヲ排水ノ上探炭ス可キ計畫ヲ立テ左六十一片ヨリ排水坑道ノ掘進ニ著手セリ、本年度中設置セル設備左ノ如シ

鑿岩機	設置場所	種類	製造所名	臺數	備考		
金谷卸	「D P 三三」ニ「ナイトローター」	米國「サリバン」會社	七	新設			
壓氣機	設置場所	種類	製造所名	「キロワット」	臺數	備考	
金谷卸	可搬式	米國「サリバン」會社	一八・六	一	新設		
唧筒	設置場所	種類	排水量	揚程	「キロワット」	臺數	備考
堅坑南卸	同	電氣「タービン」	五・六	五・五	一〇四・四	一	新設
同	同	同	二・八	四・五	一〇四・四	一	同
第二十九日抜坑	同	同	二・八	一・九七	一七九・〇	一	同
同	同	同	四・二	一〇・六	一〇四・四	一	同
同	同	同	四・二	一三・六	一七九・〇	一	同
第三電卸八片坑	同	同	一・一	九・一	三三・六	一	増設
第二一斜卸坑	同	同	二・八	三・〇	二六・一	一	新設

設置場所	種類	「キロワット」	臺數	備考
南坑坪下	電氣「タービン」	一〇四	一九七	一〇四・四
南坑坪下	同	一〇一	四五	一四・九
金谷卸中段	同	一〇一	九一	三七・三
同十一片	同	一〇一	九一	三三・六
捲揚機				二
設置場所	種類	「キロワット」	臺數	備考
第一坑	電氣捲揚機	一八・六	一	新設
第二坑	同	一八・六	一	同
坑外捲揚機				
設置場所	種類	「キロワット」	臺數	備考
第一斜坑	電氣捲揚機	四四・八	一	新設
第二斜坑	同	七四・六	一	同
南斜坑	同	七〇・八	一	同
材料捲揚場	同	七〇・八	一	同
研捨場	同	二九・八	一	同
第三斜坑本線	同	四四・八	一	同
	同	一八六・五	一	同

扇風機

設置場所	種類	排氣量	原動機	「キロワット」	臺數	備考
第二豎坑	「シロッコ」型	二、〇八九	電動	四四・八	一	新設
南斜坑	同	三、三四三	同	八九・五	一	同
第五、第六斜坑	同	五六	同	七・五	一	同

入山炭礦 福島縣石城郡湯本町 入山採炭株式会社

前年來引續キ生産制限ノ爲出炭量ハ減少シタルモ設備其ノ他ノ改善ヲナシタルモノ尠カラス、第四坑ニアリテハ第一斜坑ノ坑内發展ニ伴ヒ通氣施設改善ノ必要ヲ生シ同斜坑連卸口ニ設置シアリタル主要扇風機ヲ廢止シ別ニ同斜坑右一坑三昇ニ排氣量一、〇〇〇立方メートルノ「シロッコ」型二九・八「キロワット」扇風機一臺ヲ設置セル外、第二斜坑連卸口ニ排氣量八三四立方メートルノ「パフアー」式一四・九「キロワット」扇風機一臺ヲ新設セリ、又第五坑ニアリテハ第六坑ノ掘進ヲ八月限り中止セル外南卸方面ノ採炭ヲ中止シ専ラ主力ヲ笑堂方面ニ集中セル結果同方面運搬能力ニ不足ヲ生ジ笑堂第一電卸ニ七四・六「キロワット」電氣捲揚機一臺ヲ設置シ、又本坑右三半片ニ二九・八「キロワット」ノ坑内「エンドレス」ヲ新設セリ

好間炭礦 福島縣石城郡好間村 古河鑛業株式会社

第一新斜坑北部未採掘區域ノ上層並ニ本層採掘ノ目的ニテ掘進中ナリシ第二新斜坑ハ途中ニ於テ水脈ニ會シ作業困難ヲ極メタリシモ遂ニ本年十月著炭シ、爾來「コールピック」用トシテ米國「インガソールランド」會社製X B型七四・六「キロワット」壓氣機一臺ヲ増設シ銳意主要水平坑道及排氣連卸ヲ掘進中ニシテ同時ニ排水設備、運搬設備等ノ完成ニ努メツ、アリ、一方坑外ニアリテハ選炭場ニ七・五「キロワット」「ブレイキクラツシャー」一臺ヲ増設セリ其他本年度中設置セル設備ハ次ノ如シ

設置場所	種 類	排水量	揚程	「キロワット」	臺數	備 考
第二新斜坑中段	電氣「タービン」	二	一六七	九三・二	二	新設
同	同	二	一四〇	七四・六	一	同
第二新斜坑二目貫	同	一・七	九五	七四・六	一	同
第二新斜坑坑底	同	一・一	一〇〇	四四・八	一	同

捲揚機

設置場所	種 類	「キロワット」	臺數	備 考
第二新斜坑運搬坑	單閉電氣捲揚機	七四・六	一	五〇馬力ヲ改設
同人車坑	同	一四九・二	一	同

坑内電車

設置場所	種 類	「キロワット」	臺數	備 考

第二斜坑々座 架空單線式
水 平 坑 道 電氣機關車
勿來炭礦 福島縣石城郡勿來町 大日本炭礦株式會社

七・五 二 新設

前年來本卸左部斷層先ノ未採炭區域開發ノタメ開鑿中ナリシ左水平坑道ハ本年五月延長六〇〇米ニテ著炭シ目下炭層ヲ掘進中ナルガ炭質良好ニシテ同方面ノ發展ハ囑目セラル、右開鑿ノタメ壓氣機一臺並ニ鑿岩機四臺ヲ増設シ、又左水平坑運搬設備トシテ一四・九「キロワット」上網式「エンドレス」ヲ新設セリ、尙粉炭ノ品質昂上ヲ計ルタメ能力一日二三〇「ト」ラツフウオシャー」ニ依ル洗炭設備ヲ新設セリ以上ノ外本年新設シタル設備左ノ如シ

一四・九「キロワット」單閉式電氣捲揚機 一臺
三・七「キロワット」單閉式電氣捲揚機 一臺
廣野炭礦 福島縣双葉郡廣野村 入山採炭株式會社

舊斜坑水没區域下部ノ採炭ヲ目的トシ前年來掘進中ナリシ斜坑ハ本年四月末豫定ノ位置ニテ本層ニ著炭セルニヨリ銳意坑道ノ掘進ニ努メタル結果著シク坑内ノ發展ヲ見、一方排水設備ノ増加發電所ノ新設等坑内外設備ノ擴張改善ヲ行ヒタル結果大イニ其面目ヲ一新シ前年ニ比シ約六、〇〇〇噸ノ増産ヲ見タリ、本年度中設置セル設備ハ左ノ如シ

設置場所	種 類	排水量	「キロワット」	臺數	備 考
斜坑坪下	電氣「タービン」	一・四	八九・五	二	新設
斜坑中段	同	〇・八	二六・一	一	同
同	同	一・四	一八・六	一	同

發電機 汽機直結一五〇K、V、A三相交流發電機

二臺 新設

汽罐 「パブコック」水管式(發電所用)

二臺 新設

汽機 一七九・二「キロワット」直立聯成不凝縮汽機(發電所用)

二臺 新設

高萩炭礦 茨城縣多賀郡松原町外二 大日本炭礦株式會社

鑛區ノ北部ニ當ル約二、六四五「アール」ノ未探掘區域ヲ探炭スベク四月手網坑ヲ開鑿セリ、前年十月開鑿ニ著手セル第五坑ハ探炭準備中十一月斷層ヨリ出水シ休坑セリ、從來石炭及鑛業用諸材料ノ坑外運搬ニハ馬匹ヲ使用シタルモ三月ヨリ「ガンリン」機關車ニ變更セリ、「ガンリン」機關車ハK、S、T式手動制動機四輪車、自重四噸、索引力三〇噸ノモノナリ

山陽大嶺 山口縣美禰郡大嶺村外一 山陽無煙炭礦株式會社

本年ハ特殊區域ニ於ケル探炭方式ノ改善ヲナシ坑内外運搬並ニ掘進探炭ノ一部ニ機械力ヲ採用シ作業能率ヲ増進セリ即壓氣機五六「キロワット」一臺ヲ荒川坑左四坑道ニ設置シ「フロットマンピツカー」二臺ニテ探炭ニ試用中ナリ又「サリバン」式截炭機一臺ヲ同坑左四坑道(猪ノ木層)探炭區域ノ一部ニ使用シ成績良好ナリ
運搬設備トシテハ三「キロワット」三應半蓄電池機關車一臺ヲ荒川坑坑内外ニ運轉セシメ、尙五・六「キロワット」小型捲揚機一臺ヲ同坑探炭切羽坑道運搬ニ使用セリ

早良炭礦 福岡縣早良郡桂濱町外二 早良鑛業株式會社

探登第一、一四九號及一、〇四〇號二鑛區内ニ於ケル四尺層及六尺層ノ一部ニ對シ探掘ヲ開始セリ
「サリバン」截炭機二臺新設探炭ニ使用シ尙竹ノ山坑口ニ汽笛徑三五六耗兩汽笛蒸氣捲揚機一臺、小戸坑々内ニ「タービ

ンボンブ」一一九・四「キロワット」二臺、七四・六「キロワット」一臺ヲ夫々新設セリ

粕屋炭礦 福岡縣粕屋郡志免村外二 日本鑛業株式會社

田富坑ニ於テハ第二卸探炭終了ニ近ヅキタル爲出炭減少セルモ志免坑ニ於テハ新卸方面ノ發展ニ伴ヒ出炭増加セリ

田富坑新卸(本卸左九片ヨリ左六七米ノ地點ヨリ本卸ニ並行ニ下方ニ掘進延長四八〇米)ヲ十月開鑿ニ著手シ十二月著炭セリ

田富坑々口ニ五六「キロワット」壓氣機一臺増設シ電氣「オーガー」田富坑ニ四臺志免坑ニ一臺増加セリ

田富坑本卸左十片ニ五・六「キロワット」電氣捲揚機二臺、志免坑新卸零片ニ七・四六「キロワット」捲揚機二臺新設セリ

排水ニ於テハ田富坑新卸詰ニ七・四六「キロワット」「プランジャーボンブ」一臺、同坑本卸詰ニ二・二四「キロワット」

「プランジャーボンブ」一臺ヲ新設、志免坑本卸四片ニ三・七三「キロワット」「タービンボンブ」一臺増設セリ

通氣ニ於テハ志免坑々外ニ一、四一六立方尺「シロッコ」式扇風機一臺新設セリ

昭和炭礦 福岡縣粕屋郡宇美町 中島鐵松

前年八月ヨリ開坑ニ著手シ爾來掘進繼續中ナリシ昭和坑ハ八月豫定ノ地域ニ到達シ九月ヨリ出炭ヲナシ得ルコト、ナリ從テ運搬、排水、通氣等ノ設備ノ新設及改善ノ一部ヲ了シ尙引續キ出炭準備ノ工事中ナルガ、十二月中ニテ第一期掘進計畫六三六米ノ開鑿ヲ終了セリ

第一坑、第三坑間ニ介在セル百五十尺斷層ノ深部約五、〇〇〇「アール」探掘ノ目的ニテ昭和坑々内(坑口ヨリ一八〇米)ヨリ右又卸ノ開鑿ニ著手明年三月著炭ノ豫定ナリ

本坑三坑掘進用トシテ日立製七四・六「キロワット」壓氣機一臺ヲ増設セリ、尙五〇八耗蒸氣捲揚機ヲ昭和坑並ニ同坑

内ニ(坑口ヨリ八七・三米ヲ隔リ)夫々据付ケ八月ヨリ運轉ヲ開始セリ、本坑左八目抜本卸ニ五二・二「キロワット」「タービンポンプ」ニ臺ヲ新設シ尙一・二・三「キロワット」「トラツクポンプ」四臺ヲ増設シ、一坑ニ四・五「キロワット」「トラツクポンプ」ヲ増設セリ

大谷炭礦 福岡縣船屋郡宇美町 大谷炭礦株式会社

本坑口ニ「インガールランド」五二・二「キロワット」一臺新設シ鑿岩機「デンバー」一臺、「フロットマン」二臺増設セリ又新斜坑々口ニ一四九・二「キロワット」捲揚機ヲ新設セシモ増出炭計畫ヲ立テシ結果更ニ二・三・八「キロワット」電氣捲揚機一臺増設スルコトニ決シ明年三月完成ノ豫定ナリ、從來採炭切羽運搬ハ「スラ」ヲ専用セシガ炭層傾斜二〇度以上トナリシ爲厚サ一分ノ鐵板製樋流シニ變更セリ

忠隈炭礦 福岡縣嘉穂郡津波村外一 住友炭礦株式会社

第一坑ハ三月第四坑ハ九月第三坑又卸ハ五月何レモ採掘終了ノ爲休止シ一時出炭減少ノ傾向アリシモ第三坑及第七坑ノ發展ニ努メ現在以上ニ増産ノ計畫中ナリ即七坑左第一本卸ハ前年落差四二・四米ノ斷層ヲ掘進著炭シテヨリ本年度ニ於テ本卸掘進大ニ進捗シ採炭區域擴張セラレ下半年ニ於テハ右第一本卸ト相俟テ著シク出炭増加セリ、第三坑浦田八尺卸ハ前年末右五延下ニ於テ落差九米ノ斷層ニ逢著セルモ三月著炭シ本卸掘進ヲ急ギツ、アリ

坑内外諸設備ニシテ新設、増設又ハ改設セラレタルモノヲ舉グレバ第五坑ニ於テ左九延「エンドレス」捲揚機ハ出炭ノ増加ニ伴ヒ容量過少トナリタルタメ一四・九「キロワット」ヲ五二・二「キロワット」電氣捲揚機ニ、同ジク第三本卸ノ一四・九「キロワット」捲揚機ヲ四四・八「キロワット」電氣捲揚機ニ改設セリ、壓氣機及鑿岩機トシテハ第七坑々口ニ一九四「キロワット」壓氣機一臺増設シ「デンバーウオー」九五番型鑿岩機一五臺ヲ使用スルニ至レリ、其他捨石ノ處理ニ付坑外

ニ八九・五「キロワット」電氣捲揚機ヲ新設シ四連入「スキップ」ヲ使用ス

尙ホ自然發火並ニ瓦斯爆發防止ヲ目的トシテ第七坑々内採炭跡充填ノ爲同坑外運炭機附近ニ貯水池、材料貯藏倉並ニ材料運搬設備設置ノ計畫ヲ樹テ九月基礎工事ニ著手セルガ明年三月竣工ノ豫定ナリ

下山田炭礦 福岡縣嘉穂郡山田町 古河鑛業株式会社

前年八月以來新設工事中ナリシ「ジンマー」式鏡板選炭機(毎時六七噸處理)二臺、「バーム」式水洗機(毎時五〇噸處理)二臺ハ新設工事を開始シ、其ノ他新一坑右一片及右四片ニ八・九五「キロワット」電氣「エンドレス」各一臺、同坑排氣三片上ニ二六・二「キロワット」電氣捲揚機一臺ヲ設置セリ

吉隈炭礦 福岡縣嘉穂郡津波村外四 株式会社鹿生商店

主トシテ機械力ヲ應用シテ人力ヲ省ク計畫ニテ坑内運搬ニハ局部捲ヲ設置シ掘進探炭ニハ鑿岩機ヲ使用スルコトトシ、吉隈二坑及八尺坑内ニ「フロットマン」鑿岩機八臺及「ムードンコールビットク」八臺ヲ設ケタルガ尙ホ吉隈二坑又卸部ノ掘進及採炭ヲ目的トシ十一月右二片捲立ニ「フロットマン」五七・五「キロワット」壓氣機設置ノ工事を著手セリ
八尺坑口ニ從來ノ三〇五耗蒸氣捲ヲ二二三・八「キロワット」電氣捲揚機ニ取替ヘ運搬力倍加セリ、尙ホ吉隈二坑又卸右十片以下左十二片間ノ下五尺層ノ掘探ニ便ナラシムル爲メ電氣捲揚機三七・三「キロワット」一臺ヲ設置シ斷層間ニ一曲片ヲ新設シ掘探スル豫定ニテ十月ヨリ捲卸坑道及捲揚工事を著手、明年二月竣工ノ見込ナリ

炭界不振ノ爲メ產炭制限擴大協定ニヨリ十一月中旬ヨリ新一坑ノ一部及吉隈二坑本卸ノ二交替制作業ヲ常ニ一番制作業ニ改メ之ガ爲女子ノ坑内作業廢止ヲ決定セリ

山田炭礦 福岡縣嘉穂郡山田町外一 野上鑛業合資會社

炭況ノ不振益々深刻ヲ加ヘタルヲ以テ生産費遞減ト出炭増加ニ努メ極力能力率増進ノ方途ニ出デ事業擴張ニ意ヲ用ヒタリ、六、七、八三ヶ月ノ夏枯期ニ於テ賣炭不引合不振ノ結果貯炭激増ノタメ一時第一坑ノ稼行ヲ極度ニ縮少シ専ラ第二坑ノ發展ニ集中セシモ九月需要期ニ入ルヤ直ニ第一坑ノ復活ニ努メ爾後順調ニ作業ヲ繼續セリ、第二坑斜卸先連絡坑道及新昇斜坑ノ掘進計畫ハ事業ノ都合ニ依リ當分中止スルコト、セルモ第一坑四尺卸掘進本卸左十一片迄残り約一七〇米ハ明年四月末ニハ竣工ノ豫定ナリ

採掘方法ノ改善ニ努メタル外第二坑内三十片ニ二二・四「キロワット」電氣捲揚機一臺、第二坑内四片ニ五九・七「キロワット」「タービンポンプ」一臺及第二坑内三十一目貫ニ七四・六「キロワット」「タービンポンプ」一臺ヲ各新設シ、坑外ニ徑二・四四米長サ八・九二米「ランカシャ」式汽罐一臺増設セリ、坑外硬捨用「スキップ」ハ四月ヨリ開設作業上多大ノ便利ヲ與ヘタリ

事業擴張ノ爲選炭設備ハ現在ノ儘ニテハ能力不足ヲ來スヘキヲ以テ第一坑々口ニ近ク舊選炭機ト並ビ三〇〇瓩選炭機一臺ヲ設置スル事トシ十二月著手、明年二月竣工ノ豫定ナリ

嘉穂炭礦 福岡縣嘉穂郡上穂波村外一 嘉穂礦業株式會社

坑内ニ於テハ右十片水平坑道ヨリ掘進シテ將來ノ開發ニ備ヘ柱房式ヲ全廢シ長壁式ニ改メ截炭機三臺ヲ用ヒ「スイスロコモチブ」會社製「ロータリーコンプレッサ」二二三・八「キロワット」容量四二・五立方米一臺及「デンバー」鑿岩機二一臺ヲ増設シテ鑿岩機ノ能力ヲ増シ、電氣捲揚機一臺、切羽運搬機一四臺、排水電動「タービンポンプ」三臺ヲ設置セリ、尙ホ九月ヨリ坑内ニ人車ヲ運轉シ昇降ノ便ヲ計リ七月ヨリ常一〇時間制ヲ實施セリ

坑外ニ於テハ電氣「エンドレス」一臺、「ランカシャ」式汽罐一臺ヲ設置セリ

芳雄炭礦 福岡縣嘉穂郡稻葉村外二 株式會社藤生商店

主トシテ能力率ノ増進ヲ計リ掘採方法ニ於テモ個人採炭ヲ共同集中作業ニ改メ機械力切羽運搬ノ設備、運搬用軌條ノ改善ヲ計レリ

山内第三坑内ニ於テ從來ノ三七・三「キロワット」唧筒四臺ヲ廢シ七四・六「キロワット」電氣「タービン」唧筒ヲ新設セリ、上三緒坑ニ於テ「レオラボール」水洗機一臺設置セリ、其ノ他上三緒坑ニ於テ下層（三尺炭）ノ挾頁岩ヲ原料トシ之ヲ人工的ニ燃燒セシメテ耐火煉瓦原料「シヤモット」ヲ作レリ

尙第一及第三坑ハ六月ヨリ第二坑ハ十一月ヨリ何レモ從來ノ晝夜作業ヲ常一番作業トシ又送炭制限ノ擴大ニヨリ上三緒坑ニ於テハ九月及十一月ニ山内坑ニ於テハ十一月ニ坑内作業ニ從事スル婦人労働者ヲ廢止シ尙ホ上三緒坑上層右部ハ七月ヨリ作業ヲ休止セリ

宮尾炭礦 福岡縣田川郡勾金村外一 宮尾礦業株式會社

主トシテ機械設備ノ擴張整備ヲナシ産出品ノ品質向上ニ努力セリ、電氣「オーガー」八臺ヲ増加シ之ヲ總テ第二坑切羽ニ使用ス、第二坑々口ニ從來ノ二九・八「キロワット」捲揚機二臺ニ代ヘ二二三・八「キロワット」電氣捲揚機一臺ヲ新設シ又同坑ニ八尺炭選炭ノ目的ヲ以テ「ジンマー」式選炭機（毎時五〇瓩處理）一臺及共益社式水洗機（毎時三五瓩處理）一臺ヲ新設セリ

杵島炭礦 佐賀縣杵島郡大町村外六 杵島炭礦株式會社

前年七月著手セシ第四坑開鑿工事ヲ引續キ繼續シ九月中旬坑口ヨリ九九三米ニテ著炭シ左右ニ片磐ヲ取り採炭準備ヲ急ギツ、アリ、該坑ハ現在稼行中ノ第三坑卸先ニ在ル上投約九〇米餘ノ斷層先區域ヲ探掘シ同方面ノ擴張ヲ計ルト共ニ現

在ニ於ケル第三坑出炭ノ自然減量ヲ補フ計畫ナリ、炭層ノ厚サハ〇・八五米ニシテ將來良化ノ望アリ
 四坑上風坑口附近ニ一四九・二「キロワット」壓氣機一臺増設三坑西坑本卸ニ四四・八「キロワット」壓氣機一臺新設シ鑿岩
 機五臺増加セリ、東坑六電卸ニ四四・八「キロワット」捲揚機ヲ新設シ坑外硬捨場ニ四四・八「キロワット」電氣「エンドレ
 ス」一臺ヲ増設セリ

坑内排水ニハ「タービン」唧筒一四臺、電動「ピストン」唧筒二臺ヲ新設セリ、通氣ニ於テハ第四坑卸先ニ扇風機毎分
 一四五立方メートル、四五立方メートル二臺ヲ増設シ尙東坑左六號西坑七下ニ毎分一、六六六立方メートルモノ二臺ヲ増設セリ
 坑内水ヲ六角川ニ放水スル目的ヲ以テ三五五耗鐵管一、〇〇〇米ヲ敷設シタリ

●●●●● 長崎縣西彼杵郡松島村 松島炭礦株式会社

鑿岩機坑内壓氣「ドリル」二臺増設、電氣「ドリル」一五臺新設セリ、坑内運搬ニハ西三十五片、東三十一片、西三十
 二片六十昇口、西三片ニ電氣「エンドレス」一四・九「キロワット」各一臺、西三十二片十斜昇ニ同一一・二「キロワツ
 ト」一臺設置シ坑内排水ニハ西三十二片、西二十片ニ「タービンポンプ」二八三・五「キロワット」各一臺、西一片左三
 十五斜片ニ同六「キロワット」二臺増設セリ、火力發電所ニ於テ三、〇〇〇「キロワット」擴張シ尙三、〇〇〇「キロワツ
 ト」蒸汽「タービン」一臺ヲ増設セリ

●●●●● 長崎縣西彼杵郡崎戸村 九州炭礦株式会社

本年度ニ於テハ炭界不況ノ爲メ主トシテ事業ノ整頓ニ力ヲ注ギタリ、淺浦坑西堅坑ハ前年ヨリ引續キ開鑿中ノ處四月坑
 底ニ貫通ス、深サ一二米ノ「サンブ」掘鑿工事並ニ殘部ノ「コンクリートブロック」築壁工事ハ六月完成ス、該堅坑ハ
 内徑五・六五米深サ二・一一米ナリ

福浦坑ニ於テ鑿岩機四臺、「コールピツク」二臺、淺浦坑ニ於テ「オーガードリル」一臺、蟬浦坑ニ於テ鑿岩機一三臺、
 「コールピツク」五臺、「オーガードリル」九臺新設セリ

坑内運搬ニ於テハ七・四六「キロワット」「アイコッフ」切羽運搬機ヲ福浦坑淺浦坑ニ各一臺ヲ設備セリ、蟬浦坑上風坑
 十二目貫七卸先九七米間（六四五・四米）及下風坑底西一坑道延詰間（四五二・七米）ニ蓄電池機關車（型式BMC型直
 並列運轉ヲナス五・六「キロワット」全密閉型補極付直流直捲電動二臺付、蓄電池日本蓄電池株式會社製鉛蓄電池）ヲ運轉
 スル運搬用復線軌道設置ニ著手シ明年一月末竣工ノ豫定ナリ

坑外運搬ニ於テハ前年度ヨリ増設工事中ノ下崎貯炭場第二「ベルトコンベヤー」（一時間ノ積込能力二五〇噸）ハ七月
 竣工セリ、蟬浦坑口新選炭場間ニ蓄電池機關車ヲ運轉スル運搬車道（軌條延長四三七・七米、機關車蓄電池等前記坑内ノ
 モノト同様）工事ニ著手シ之亦明年一月末竣工ノ豫定ナリ

排水ニ於テハ從來蟬浦坑ニテハ二段繼キ排水ヲ行ヒ來リタレドモ坑底唧筒座排水橫坑間（斜距離一、二二一米高差二七二
 米）ヲ九月十二時鐵管ニ變更セシタメ爾來一段ニテ排水シツ、リ

通風ニ於テハ淺浦坑ニテハ、四九六立方メートル「ラトーションブレックス」扇風機一臺運轉ヲ開始シ舊「キャメル」式五、六六
 四立方メートル扇風機ヲ撤去セリ、現在蟬浦坑ニ於テハ「シロツコ」式扇風機運轉中ナルガ豫備トシテ獨乙「シヒテルマンク
 レーメル」製造所製七、〇八〇立方メートル「ラトーション」扇風機ヲ増設セリ

選炭ニ於テハ蟬浦坑出炭専用選炭場新設工事中ニシテ「ジンマー」式選炭機三臺、「バウム」式水洗機四臺、共益社式
 再洗機一臺ヲ設置中ニシテ明年三月末竣工ノ豫定ナリ

蟬浦坑内ニ於テ八月ヨリ「ウルフ」式電氣安全燈手提及「ヘッドランプ」各三五〇個ヲ使用ヒリ

東邦電力株式會社淺浦變電所ヨリ三月受電ヲ開始シタリ、供給能力二、〇〇〇「キロワット」ナリ
 十二月上旬ヨリ港内暗礁除去ノ目的ヲ約一〇〇艘ノ岩碎船一隻使用開始ス、「ドロップハンマー」長サ一四米、動力二
 二・四キロワット「電動機」、「ハンマー」重量三噸ナリ、右ノ外港内淺深ノ爲一日能力九〇立方米ノ淺深船一隻使用ス、
 炭界不況ニ基ク出炭制限ノ爲メ福浦坑戸先六卸及右零十片方面ノ採炭ヲ中止セリ、淺浦坑ニ於テハ十月ヨリ専ラ下風堅
 坑ノミニテ運搬ヲ行フコト、セリ

鹿町炭礦 長崎縣北松浦郡鹿町村 商工省

加勢坑第三坑ニ於テ八寸炭層探鑛ノ爲立入坑道掘鑿シ一ハ二八米ニテ著炭シ一ハ引續キ繼續中ナリ又隔物炭層探鑛
 ノ爲試錐ニ著手シ明年著炭ノ豫定ナリ、左零金上水排水ノ爲五月水平坑道ノ開鑿ニ著手シ二〇〇米掘進シ八月完了セ
 リ

加勢坑第三坑口ノ小型蒸氣捲揚機ヲ廢シテ二六一「キロワット」電氣捲揚機ヲ設置セリ、同坑貯炭場ニ七・四六「キロワ
 ヲット」電動「クリーパー」一臺、同第一坑硬捨場ニ四四・七「キロワット」電氣捲揚機ヲ設置セリ、本坑第二坑ニ電動「タ
 ービン」唧筒五臺、加勢坑第三坑ニ同上九臺ヲ設置セリ、本坑ニ於テ水洗機用給水唧筒一四・九「キロワット」一臺ヲ水
 洗機場ニ設置、加勢坑第一坑ニ於テ精炭貯炭槽（三三〇噸）一個及水洗機「フンボルト」式一臺ヲ水洗場ニ設置セリ、
 加勢坑第三坑ノ受電所ヲ擴張シ一、二〇〇「キロワット」ノ設備トシ東邦電力株式會社ヨリ受電ス、加勢坑第三坑水洗機場
 ニ水洗機運轉用三三〇耗汽機一臺何レモ増設セリ

池野炭礦 長崎縣北松浦郡池野村外一 靜縣

第六坑右二片口ヨリ六四〇米ノ位置ニ八月初旬ヨリ斜卸ノ開鑿ヲナシ現在延長八〇餘米ナルガ將來左右曲片ヲ附シ第二

ノ本卸タラシムベク豫定延長八〇〇米ニテ掘進中ナリ

前年ヨリ繼續的ニ調査中ノ下三尺層ハ探鑛ノ結果其位置ヲ確メ尙炭厚炭質等ヲ確知セリ

坑道掘進ノ爲泉式「コールドリル」五臺新設、第六坑右二片斜卸ニ一・二「キロワット」電氣捲揚機一臺設置、第六坑
 右二片斜卸ニ「デートン」唧筒一臺、第六坑右二片斜卸ニ風量每分五一〇立方米「シロッコ」式扇風機一臺ヲ夫々新設シ、第
 六坑々外ニ共益社式水洗機一臺、及「ランカシャー」式汽罐一臺ヲ各増設セリ

住友大瀨炭礦 長崎縣北松浦郡山口村外二 住友炭礦株式會社

五尺坑内上部探炭ノ爲左六片ニ一・一「キロワット」電氣捲揚機一臺新設シ、第三坑内排水ノ爲右十五片ニ六・三・四「キ
 ロワット」「タービンポンプ」一臺増設セリ、選硬ヲ完全ナラシムル爲五尺坑々外ニ「ジンマー」式選炭機一臺及「バ
 ウム」式水洗機二臺増設シ、第三坑機械探炭ノ爲「アイコッフセーカーコンベヤー」一臺設置ニ著手明年五月竣工ノ豫
 定ナリ

(ハ) 石油山

厚眞鑛山 胆振國勇拂郡厚眞村 日本石油株式會社

事業ノ擴張ニ努メ從來「ロータリー」式一坑、網式二坑ヲ常掘トセシヲ十月ヨリ「ロータリー」式二坑、網式二坑ヲ常
 掘トナシタリ、本年度ニ於ケル油井ノ狀況ハ開坑油井數「ロータリー」式九坑、網式一〇坑、成功井數ハ「ロータリ
 式」六坑、網式九坑、掘進中ノモノ「ロータリー」式一坑、網式一坑、休止又ハ不成功井ハ「ロータリー」式二坑ニシテ
 廢坑ハ僅ニ網式一坑ノミナリ、之等ノ油井ノ詳細左ノ如シ

(一) 開坑

坑井番號	開坑年月日	掘止年月日	掘止深度	成功當時十日間平均日産額	原油密度	備考
網式 一八	五、二、二七	五、七、一〇	五五四・五〇	四〇・〇	〇・八八二	備
同 一九	五、六、二一	五、一〇、一八	五五七・二〇	八・二	〇・八一七	現採油深度 三四八・〇米
「ロ」式 七	五、二、一六	五、三、一七	四六〇・〇〇	二五・〇	〇・八二五	
同 八	五、一、一五	五、二、一四	五二〇・〇〇	九・八	〇・八二八	
同 九	五、四、一〇	五、五、九	四五〇・〇〇	一九・六	〇・八七一	
同 一〇	五、五、一〇	五、五、三一	五〇〇・〇〇	七・四	〇・八三六	
同 一一	五、五、一〇	五、七、二二	四七〇・〇〇	九・六	〇・八二六	改修ノ爲休止中
同 一二	五、六、一	五、七、二二	五〇一・五〇	九・一	〇・八三四	
同 一三	五、七、二二	五、八、二五	四七一・〇〇	九・六	〇・八二六	
同 一四	五、一、二七	五、二、二五	五五二・〇〇	一二・九	〇・八五四	掘進中
網式 二二	五、二、二五	現在	二二七・五〇	一二・九	〇・八五四	掘進中
同 二二	五、四、一八	五、六、一三	一七〇・〇〇	一二・九	〇・八五四	
同 二三	五、二、九	五、四、一	二一五・〇〇	三・六	〇・八八四	
同 二四	五、五、一〇	五、六、一	二二一・〇〇	三・六	〇・八五七	
同 二五	五、七、二七	五、八、三〇	二四五・〇〇	五・〇	〇・九二五	
同 二六	五、六、二七	五、七、二七	二八〇・〇〇	二・六	〇・九二五	
同 二七	五、九、二二	五、一〇、二九	二四五・〇〇	三・〇	〇・八五五	
同 二八	五、八、二七	五、九、一	二八二・五〇	三・〇	〇・八二五	
同 二九	五、一〇、二七	五、九、一	現在	二・〇	〇・八二五	掘進中

(二) 廢坑

坑井番號	開坑年月日	掘止年月日	掘止深度	成功當時十日間平均日産額	原油密度	備考
網式 三	大正一四、三、五一	五、四、八	八六五・〇〇			油量減退昭和五年一月廢坑ス

成功井ノ出油高良好ナリシト常掘井ノ増加及十一月試登第二五九八號ノ鑛區ノ一部ヲ本鑛山ノ鑛區ニ合併トニヨリ本年度ノ原油産額ハ前年度ニ比シ一、七六七倍ヲ増加セリ

事業ノ發展ニ伴ヒ坑井掘鑿用トシテ汽罐一臺、同豫備トシテ一四・九「キロワット」瓦斯發動機一臺ヲ設置シ又貯油用鐵槽一基(容量九〇〇疋)ヲ新設セリ

石狩鑛山 石狩國石狩郡石狩町 日本石油株式會社

年々事業ノ發展ニ努メ本年度開坑油井數「ロータリー」式二七坑ニシテ内二三坑ハ成功シ又前年度ヨリ掘進中ノ「ロータリー」式二坑モ成功セリ

本年度ニ廢坑セルモノハ「ロータリー」式四坑、網式一坑ナリ、其ノ詳細左ノ如シ

坑井名	開坑年月日	掘止年月日	掘止深度	成功當時十日間平均日産額	原油密度	備考
「ロ」式 五二	四、一、二四	五、一、一九	七五〇・〇〇	三・六	〇・八一〇	
同 五三	五、一、二二	一、三、〇	六〇一・七〇	一・二	〇・八一五	
同 五四	四、一、二三	五、一、一八	六五〇・〇〇	五・四	〇・八一五	
同 五五	五、一、三〇	五、二、二〇	七〇〇・〇〇	六・四	〇・八一三	
同 五六	五、二、二七	五、三、一	六〇〇・四〇	六・一	〇・八二〇	
同 五七	五、三、二七	五、三、二七	六五〇・〇〇	三・一	〇・八二一	

●●●●●●●●●● 豐川鎮山附屬秋田製油所 秋田縣南秋田郡土崎港町 日本石油株式會社

益々設備ノ充實ヲ計リ機械油精製ノ目的ヲ以テ吸著洗滌裝置ヲ新設セリ、設備概要左ノ如シ

- 一、ガセスパレーター 直徑 一・六七 高 五・一八 容量 一〇疋
- 二、パイプスチル 幅 三・三五 奥行 三・〇五 高 三・三八
- 三、唧筒 口徑七・二種 三・七「キロワット」 電動機直結「ロータリー」唧筒 一臺
容量一時間一八疋
- 口徑 四・八種 三・七「キロワット」 電動機直結「ロータリー」唧筒 一臺
容量一時間一三疋
- 口徑 四・八種 五・六「キロワット」 直結のくち三段「タービン」唧筒 二臺
- 四、フィルタープレス 第五號型「スウキートランドフ井ルター」 一臺
- 五、シャワークーラー
直徑 九・七種 長 二四・〇八四 水平「パイプ」四段ヲ直列ニ連絡シ其上ニ二・四種ノ孔
明キ撒水管一本ヲ有ス
- 六、原動機 三・七「キロワット」 三相交流籠型誘導電動機 二臺
五・六「キロワット」 三相交流籠型誘導電動機 二臺

●●●●●●●●●● 高町鎮山 新潟縣刈羽郡刈羽村外二 日本石油株式會社

(新油層ノ發見ト其ノ採油) 五月高町「ロ」式第五十三號井ハ深度一、四六〇米即チ從來ノ油層下約二〇〇米ニ於テ同産三

五〇疋ノ良油層ニ會シ、又九月割町「ロ」式第八號井ハ深度一、二三二米即チ從來ノ油層下一〇〇米ニ於テ日産一五〇疋ノ油層ニ逢著セルヲ以テ附近ノ油井數坑ヲ掘下ゲタルニ何レモ豫期ノ成績ヲ舉ゲ産油ノ増加ヲ來セリ、尙引續キ下層油探究ノ目的ニテ豫定深度一、八〇〇米ヲ以テ高町「ロ」式第六十八號井ヲ十二月開坑掘進中ナリ

又割町方面ニ於テモ下層油探究ノ爲豫定深度一、五〇〇米ヲ以テ「ロ」式第三十三號井ヲ掘鑿スベク準備中ナリ

(鑿井) 前年ヨリ繼續掘鑿井四坑、本年新著手掘鑿井三三坑、同掘下井一七坑ノ中成功井四七坑(掘下井一五坑ヲ含ム)、掘鑿未了井七坑(掘下井二坑ヲ含ム)ナリ

成功井一覽表

坑井番號	著手年月日	掘止年月日	掘止深度	成功當時日產量	備考
割町「ロ」式 二	五、一〇、一一	五、一〇、一七	一、二三八・〇	七・三	掘下
同 六	五、一〇、二二	五、一〇、二八	一、二四五・〇	六・五	同
同 八	五、九、五	五、九、二八	一、二三二・〇	一三四・一	同
同 一	四、二、七	五、一、一〇	一、一六〇・〇	九八・六	同
同 〇	四、二、二九	五、一、二九	一、一七〇・〇	六三・三	同
同 一	五、一、二五	五、三、三	一、一九〇・〇	六六・九	同
同 二	五、二、二一	五、三、二八	一、一五九・〇	五四・二	瓦斯井
同 三	五、四、一六	五、五、二四	一、二〇〇・〇	二五・二	
同 四	五、三、二七	五、四、二八	一、一九〇・〇	三・四	
同 五	五、三、二	五、六、一	一、二〇〇・〇	三・四	
同 七	五、六、三	五、七、二	一、一八二・〇	四三・八	

同	五二	五、八、五	五、八、二六	一、二〇二・七	二七七・八
同	五三	五、八、二五	五、九、一二	一、一九四・八	三四九・七
同	五四	五、一〇、一八	五、一一、一〇	一、二〇〇・三	一七四・九
同	五六	五、一一、二二	五、一二、二〇	一、二二二・四	二六五・〇

又約五〇米ヲ追掘シタル四坑ノ中「ロ」式第十號井ハ水量多ク増油セザリシモ「ロ」式第十五號井及同第十九號井ハ三〇乃至五〇竈、「ロ」式第二十一號井ハ七乃至九竈ノ増油ヲ見タリ

〔ガソリンプラントノ擴張〕右成功井ノ増加ニ伴ヒ從來ノ「ガソリンプラント」ニテハ噴出スル全瓦斯ヲ處理シ得ザルニ至レルヲ以テ八月處理瓦斯量一日二八、三一五立方米ノ「ガソリンプラント」ヲ増設シ一晝夜六三竈内外ノ揮發油ヲ採收シツ、アリ、増設「プラント」ノ設備概要次ノ如シ

- 單筒復働横置式瓦斯壓縮機 (四五・七二種×四五・七二種ノモノ二) 二臺
- 同 瓦斯真空唧筒 (三五・五六種×三〇・四八種) 一臺
- 單筒横置式瓦斯機關 (九三・二五「キロワット」ノモノ二) 三臺
- 同 (一八・六五「キロワット」ノモノ二) 四個
- 鐵槽類 (容量五・四竈ノモノ二) 一棟
- 冷却塔 (横一三・六四米、縱四・五五米、高サ六・〇六米)

大面嶺山 新潟縣南蒲原郡大面村 日本石油株式會社

〔新油層ノ發見ト其ノ採油〕大面方面 (探登第八五七號鑛區) ニ於テ幅員擴張ノ目的ヲ以テ東翼ニ三月十二日開坑セル「ロ」式第六十九號井ハ深度九三二・八米ニテ「セメント」水止ヲ施行、引續キ掘進シ一、〇一五・五米及一、〇三〇米ノ二個

所ニ於テ油氣ヲ認メ深度一、一〇〇米ニテ掘止メ試油シタルニ僅ニ日産平均一二・九竈ノ出油ニ過ギザリシモ西翼ニ昨年十一月三日開坑セル「ロ」式第六十三號井ハ深度九二二・三米ニテ「セメント」遮水後引續キ掘進シタルニ九三二・八米及一、〇六四・八米ノ兩所ニ瓦斯氣アリタルノミニテ一、一〇〇米ニテ掘止ムル迄主要油層ヲ發見セザリシモ試油ノ結果ハ意外ニモ日産平均七八・九竈ノ出油ヲ見又九月二十七日同ジク西翼ニ開坑シタル「ロ」式第七十三號井ハ深度九〇五・八米ニテ遮水後一、〇一九米及一、〇五二米ノ二油層ニ逢著シタルヲ以テ深度一、一〇〇米ニテ掘止試油セシニ日産平均五三・八竈ノ好結果ヲ得タリ、依テ東翼ニ比シ西翼ノ有望ナルヲ認メタルガ尙「ロ」式第六十八號及第七十八號兩井ヲ開鑿シ西翼幅員探查中ナリ

又既掘「ロ」式第五十九號及第五十七號兩井掘鑿中深度八〇四米前後ニ於テ比較的良好ナル瓦斯及油微アリタルヲ以テ之ガ探究ノ目的ニテ探登第八五七號鑛區ノ稍中央ニ六月十七日開坑セル「ロ」式第七十四號井 (豫定深度八五〇米) ハ七九五米ニテ遮水工事ヲ施行シタルモ坑壁地質軟弱ノ爲カ失敗ニ歸シタルヲ以テ水止層ニ適合スル地質ノ調査ヲ爲スベク以下「エリオットコアドリル」ニテ掘進シタルニ八〇五・三米以下ハ硬質砂質頁岩ナルヲ確メ遂ニ八〇六・三米ニテ水止ニ成功セリ、依テ夫レ以下一、一〇〇米管揮入綱式ニ變更シテ掘進シ遂ニ豫定深度ノ八五〇米ニ達シタルモ此ノ間何等瓦斯及油層ニ逢着セザリシ爲己ムナク廢坑ニ決シ日下休坑中ナリ

〔鑿井〕探登第八五七號鑛區内ニ於ケル一、〇〇〇米前後ノ油層開發ハ前年來引續キ銳意努力中ニシテ本年度ノ成功井ノ全部ハ右鑛區内ニ開鑿セラレタルモノナリ、即チ前年ヨリ繼續掘鑿井四坑、本年新著手掘鑿井一三坑ノ中成功井一〇坑、不成功井三坑、掘鑿未了井四坑ナリ

成坑井一覽表

坑井番號	著手年月日	掘止年月日	掘止深度	成功當時日產量
「ロ」式	六三	四、二、三	五、二、一	七八・九
同	六五	四、一、一七	五、三、三	四四・〇
同	六六	一、二、二九	五、三、二	一九〇・〇
同	六七	一、二、二四	五、四、四	一九〇・七
同	六九	三、一、二二	五、五、二八	一二・九
同	七〇	三、三、〇	五、六、六	九六・二
同	七一	五、二、二	五、〇、一九	四・八
同	七二	五、三、〇	五、八、二一	一六・九
同	七三	五、七、七	五、一〇、三	六四・〇
同	七六	五、九、二七	五、一二、一〇	五三・八

右成功井中最大產出井タル「ロ」式第六十六號井ハ深度九二・六米ニテ「セメント」水止施行、九九〇米ニ瓦斯及油氣ヲ認め、〇三七・五米以下約六〇糎ノ軟層ニ逢著、一、一〇〇米ニテ掘止試油ノ結果外壓三〇糎ニテ自噴ヲ開始シ最大二五〇竈(平均一九〇竈)ノ日產額ヲ得タルモノナリ

(大面第三「ナシヨナルボンピングパワー」及「モーターウヰンチ」ノ竣工)當鑛山北方ノ發展ニ伴ヒ採油井増加セルヲ以テ採油經費ノ節減ヲ計ラシガ爲昨年十二月起工シタル第三「ナシヨナルボンピングパワー」(徑七・三一五米、主動力二二・四「キロワット」瓦斯發動機、豫備動力二二・四「キロワット」電動機各一臺)及「モーターウヰンチ」(二七・三「キロワット」)ハ六月十三日竣工セリ

(瓦斯配給線工事)イ、本成寺「ロ」式第一號井ノ噴出瓦斯配給ノ爲昨夏本成寺、大面間二・一〇・二種瓦斯導管ヲ敷設シタ

ルモ其ノ後新潟方面ノ配給量増加ノ結果此ノ導管ニテハ十分ナラザルヲ以テ一五・二種瓦斯導管敷設ノ計畫ヲ樹テ七月六日起工、十月七日竣工セリ、其ノ總延長三、二八八・七八米ナリ、而シテ既設一〇・二種瓦斯導管ハ其ノ儘存置シ本成寺鑛山產油ニ對スル送油線トシテ使用スル豫定ナリ

ロ、三條瓦斯會社ニ對スル配給瓦斯量ハ僅少ナルノミナラズ新潟配給線ノ完成ヲ告ゲタルヲ以テ新潟線西大崎地内ヨリ分岐シ三條瓦斯會社ニ至ル方既設本成寺、三條間七・六種配給線ヨリ遙カニ短距離ニテ經費ノ節減ヲモ期シ得ラル、ガ故ニ之ガ敷設ヲ行フコト、シ四月西大崎、三條瓦斯會社間延長一、八三八・七米ニ五・一種「シームレス」管ヲ瓦期熔接ニテ接續敷設シ七月既設本成寺、三條間延長六、二二九米ノ七・六種瓦斯配給線ヲ取外シタリ

ハ、既設大面、新潟間一五・二種瓦斯配給線中人家稠密セル部ヲ通過スル部分ニ對シ將來瓦斯漏洩ニ依ル不詳事ノ突發等ヲ防止スル爲接手續接部ニ補強用「バンド」ヲ熔著スベク四月二十七日其ノ工事ニ著手シ五月三十一日終了セリ
 ニ、新潟線中(ハト)同一理由ニ依リ五月最モ人家稠密且ツ道路幅員狹隘ナル加茂町及西大崎地内ヲ通過スル導管ヲ比較的危險率ノ尠ナキ田、畑方面ニ敷設替セリ、變更部分ハ舊延長二、三五六米、新延長二、六二七米ニシテ舊導管ハ六月之ヲ撤廢セリ

(「カーボンブラツク」採收裝置ノ新設)臺灣鑛水鑛場ニ於テ豐富ナル天然瓦斯噴出シ揮發油採收ノ爲吸收裝置ニ依リ一日約一、三七五、〇〇〇立方米ノ瓦斯ヲ處理シツ、アルモ處理後ノ廢瓦斯ノ使途ニ窮スル結果之ガ對策トシテ「カーボンブラツク」ノ製造ヲ計畫シ其ノ試驗設備ヲ當所ニ建設中ナリ、即チ採收裝置ハ理化學興業會社特許ノモノニシテ一日ノ使用瓦斯量二、八三一・五立方米、「カーボンブラツク」採收量六八疋容量ヲ有スル單位裝置一式ヲ施設スルコト、シ十二月十日起工シ年内ニ七・二八米×一・二七三米亞鉛張平屋建一棟ヲ完成シ日下機械取付準備中ナリ

從來石炭及鑛業用諸材料ノ坑外運搬ニハ馬匹ヲ使用シタルモ一月ヨリ「ガソリン」機關車（「K、S、T」式）自動制動機四輪車、自重四噸、索引力三〇噸）ニ變更セリ、而シテ財界不況ノ爲經營困難ニ陥リ八月鑛夫ヲ約半減シ事業ノ縮少ヲ斷行セリ

●●●●● 重内炭礦 茨城縣多賀郡磯原町外一 磐城炭礦株式會社

第三斜坑新一坑道ノ下部ニ面積約三三〇「アール」、埋藏炭量約四〇、〇〇〇噸ガ略々直角ニ交叉スル落差各々約三〇米ノ二條ノ落込斷層ニ圍繞セラレ未採炭ノ儘放任セラレ居タルモノヲ採炭スベク八月傾斜二三度、著炭距離約二〇〇米ノ豫定ヲ以テ斜坑ノ開鑿ニ著手シ三七・三「キロワット」ノ電氣捲揚機ヲ据付ケ年末七〇米掘進シ明年八月迄ニ著炭ノ豫定ナリ

第三斜坑ノ最深部ハ海面下約四〇〇米ノ深サニ達シ管壓加ハリ炭層ハ粉碎セラレテ塊炭率ノ低下著シキノミナラズ保坑費累進シ到底經濟的採掘ノ見込ナキヲ以テ八月退却ヲ開始セリ

而シテ石炭ノ賣行不振ニシテ經營困難ナル爲五月従業員九二七名ノ内四五四名ヲ減員シ從來ノ晝夜二交代制ヲ常一番制ニ改メ需給ノ調節ヲ計リタル結果出炭量ハ前年ニ比シ約三割ヲ減少セリ

●●●●● 大倉無煙炭礦 茨城縣多賀郡南中郷村 大倉鑛業株式會社

二月大北坑ノ開鑿ニ著手シ九月四四・七六「キロワット」單胴電氣捲揚機ヲ据付ケ年末迄ニ斜坑ノ延長七二七米ニ達シ一ケ月四、〇〇〇噸ノ出炭ヲ見ルニ至レリ

一方二坑、四坑ハ深部ニ及ビ收支不償トナリタルヲ以テ七月四坑ヲ、九月二坑ノ退却ヲ開始セル結果出炭量ハ前年ニ比シ三割強ヲ減少セリ

●●●●● 羽黒鑛山 金銀銅 栃木縣河内郡羽黒村 岡崎彰男

前年末大切坑下底部ノ稼行ヲ休止シ爾來地並東二井上管探鑛坑道ノ開鑿及金華山各鑛ノ舊坑取明ケ並ニ二號鑛ノ探鑛ニ專ラ全力ヲ注ギタルモ有勢ナル鑛脈ヲ捕捉スルニ至ラズ自然事業縮少ノ已ムナキニ至リ鑛產額ノ如キ一ケ年ヲ通ジ僅ニ六七噸餘ヲ產出シタルニ過ギズ

●●●●● 日光鑛山 金銀銅亞鉛 栃木縣鹽谷郡玉生村外二 小島楨次

空前ノ銅價不況ニ遭遇シ甚大ノ欠損ヲ招クニ至リタルヲ以テ七月職員數名ヲ解職シ更ニ十月鑛夫一九名ヲ解雇シ事業ヲ縮少セリ、從テ本年度鑛產額ハ前年度ヨリ約一割ノ減少ヲ見タリ

●●●●● 東山鑛山 石油 新潟縣古志郡南郷村外三 日本石油株式會社

探登第八四五號鑛區内ニ於テ從來開發セザリシ方面ノ新油層ヲ探究スル爲開鑿中ナリシ加坪綱式第四百四號井ハ深度二五三・五米ニ油氣、二八七米ニ瓦斯アリタルモ三七五・七米ニ達シ尙出油ヲ見ザリシヲ以テ九月八日停掘シ前記ノ瓦斯及油層ヲ試験セシモ孰レモ微量ニシテ遂ニ成功セズ廢坑セリ

尙本年中採油井ニシテ油量減退ノ爲收支償ハザルニ至リ廢坑シタルモノ二三坑ニ達シ鑛產額ニ於テ前年度ニ比シ五、六〇三噸餘ヲ減少セリ

●●●●● 新津鑛山 石油 新潟縣中蒲原郡新津町外五 日本石油株式會社

制度ノ改廢ニ伴ヒ十一月小口、朝日ノ現業事務ヲ新津鑛場ニ合併シ同時ニ事務所、鑛夫手配所ヲ新關村大字小口小字新堤入ニ轉設セリ

本年中ノ成功井ハ僅ニ二坑ナリシニ廢坑井ハ二四坑ニ達シ出油量モ昨年度ヨリ一三、八二五噸ヲ減ジ四〇六、七二〇・七

蛸トナレリ

柄目木鑛山 石油 新潟縣中蒲原郡新津町 明治石油株式會社

柄目木方面深層油探ノ目的ヲ以テ昨年開坑セル柄目木「ロ」式第二號井（日本石油株式會社共同井）ハ深度一、五四八米ニテ相當「シヨールイソグ」ヲ認メ試油セルモ密度八九三ノ黒色油一晝夜ニ約〇・三疋ノ出油ニシテ採收スル價値ナキニ依リ引續キ探掘シ一、七八〇米ニ達シタルニ油砂ニ逢著シ相當「シヨールイソグ」アルヲ以テ深度一、七九四・七米ニテ掘止メ一〇・二種管ヲ降入シ「セメント」壓入進水作業中「セメント」壓入用七・三種掘管抑留サレ試油ノ目的ヲ達シ得ザリシヲ以テ側掘シテ一、七八〇米層ヲ探掘スルコトニ決シ十二月十七日側掘ニ著手シ順掘ニ掘進中ナリ
柄目木「ロ」式第三號井、同第四號井及瀧谷「ロ」式第二號井ノ三坑ハ柄目木「ロ」式第一號井ノ一、三二六・四米ニ相當スル位層ニハ油氣僅少ニシテ採收スルニ足ラザルト柄目木「ロ」式第二號井ノ一、五四八米ノ箇所モ前述ノ如ク望ミナキヲ以テ孰レモ廢坑ニ決シ既ニ柄目木「ロ」式第四號井ハ十二月二十五日拔管ヲ了シ廢坑セリ
刈羽鑛山 石油 新潟縣刈羽郡刈羽村外二 日本石油株式會社

昨年十一月二十六日開坑ニ著手セル「ロ」式第四號井ハ二月十五日深度一、七一〇米ニ達シ試油セルモ出油ナク三月六日廢坑作業ヲ終了セリ

小千谷鑛山 石油 新潟縣北魚沼郡城川村外一 日本石油株式會社

一月二十日試掘ノ目的ヲ以テ開坑ニ著手セル山谷「ロ」式第二號井（商工省試掘補助井）ハ十一月一日豫定深度一、八〇〇米ニ達セルガ此ノ間十數層ノ瓦斯並ニ少量ノ油氣ヲ認メシモ豫期ノ出油ヲ見ズ加フルニ挿入管屈曲ノ爲廢坑作業中ナルガ八五七米乃至一、〇一六米ニ於ケル瓦斯及油氣ハ有望ト認ムルヲ以テ更ニ調査ヲナス豫定ナリ

西中通鑛山 石油 新潟縣刈羽郡刈羽村外二 日本石油株式會社

「ロ」式第二號井ハ一月十一日一、六〇五米ニ達シタルモ出油ナキヲ以テ六月二日廢坑作業ヲ終了セリ、又九月八日「ロ」式第二號井ノ東方約三〇〇米ノ地點ニ「ロ」式第三號井ノ開坑ニ著手シ十一月二十一日深度一、八一八米ニ達セシモ出油ナキヲ以テ廢坑ニ決定セリ、然レ其本區域ハ高町油田ノ南方ニ連亘スル有望ナル個所ナルニヨリ更ニ第四號井ヲ開掘ノ豫定ナリ

安田鑛山（試登第一〇二〇號） 石油 新潟縣刈羽郡田尻村外二 日本石油株式會社

「ロ」式第六號井ハ深度九三六米ニ至リ停掘シ一月九日ヨリ試油中ノ處最初日産油二・七疋アリシモ逐次減退シ收支償ハザルニ至レルヲ以テ十一月十四日ヨリ廢坑作業中ナリ

安田鑛山（試登九九九五號） 石油 新潟縣刈羽郡田尻村外一 日本石油株式會社

昨年十二月十日豫定深度一、一〇〇米ニテ開坑セル第一號井（商工省試掘補助井）ハ網式ニテ掘進シ五月二十七日深度八〇一米ニ達シ其ノ後「ロータリー」式ニ變更、六月二十三日豫定深度ニ到達セルモ豫期ノ油層ヲ發見スルニ至ラザリシヲ以テ更ニ豫定深度ヲ一、五〇〇米トシ再ビ「ロータリー」式ニテ掘進、七月二十六日深度一、五一二米ニ達シタルモ出油ナキニ依リ九月十日ヨリ廢坑作業ニ著手シ十月二十三日終了セリ

出雲鑛山 石油 新潟縣三島郡出雲崎町外一 代表者日本石油株式會社

一昨年十二月二十日開坑ニ著手セル網式第一號井（商工省試掘補助井）ハ引續キ掘進中ノ處四月二十二日豫定深度八〇〇米ニ達シタルモ試油スルニ足ル油層ニ逢著セザリシヲ以テ五月二日廢坑ニ著手シ同月二十一日終了セリ
大峯鑛山 銅硫化鐵 愛媛縣西宇和郡宮内村外一 大峰鑛山株式會社

近來鑛況益々不振トナリ事業縮少ノ止ムナキニ至リタルヲ以テ五月途ニ鑛夫ノ大多數ヲ解雇シ八番坑道以下ノ操業ヲ休止セリ

吉岡鑛山 金銀銅硫化鐵亞鉛砒 岡山縣川上郡吹屋町外一 三菱鑛業株式會社

鑛況益々不振ノ結果本年五月坑内六番坑以下ノ操業ヲ中止シ七及八番坑ニ設置セシ唧筒三基ヲ引揚ゲ尙從來處理セシ坑外捨鑛ノ處理ヲ廢シタリ

江與味鑛山 銅 岡山縣御津郡江與味村 住友別子鑛山株式會社

前年度銳意探鑛ニ努メタル坑内下底ノ鑛況ハ甚ダ不振ニシテ到底探鑛ノ望ナク且坑内上部ハ既ニ殆ド探鑛ヲ終了シタルヲ以テ來年一月事業ヲ中止スベキ豫定ナリ

竹野鑛山 金銀 兵庫縣城崎郡中竹野村 日本鑛業株式會社

前年度ニ於テ開發セシ十坑道ハ鑛況不良ニシテ含金低ク含銀高キモ銀ノ下落ニ依リ下部鑛石ハ到底採算困難トナレルヲ以テ遂ニ事業ノ縮少ヲ企テ八月中旬七坑道以下ノ探鑛ヲ中止シテ水没セシムルト共ニ動力ヲ全廢シテ専ラ手掘ヲ以テ操業スルコト、シ壓氣機及鑿岩機ノ使用ヲ中止シ捲揚及排水設備ヲ撤廢シタリ、之ニ伴ヒ出鑛量ハ從來毎月七五〇吨ナリシヲ二〇〇吨ニ減少セリ、須井方面ノ探鑛ハ前年度ヨリ繼續作業中ノ處鑛況振ハザルヲ以テ四月以降ハ一時休止セルモ將來ハ同方面ノ開發及長瀧ニ於ケル露頭ニ對スル探鑛ヲ施サントス

大隈炭礦 石炭 福岡縣遠賀郡香月村外二 大隈鑛業株式會社

大部分ノ採炭區域終了其ノ殘存部分ヲ探掘セリ、爲ニ出炭量減少セリ

大辻炭礦 石炭 福岡縣遠賀郡香月村外二 大辻岩屋炭礦株式會社

送炭調節擴大ニ因リ第二坑ノ採炭ヲ十月限リ休止セリ

海老津炭礦 石炭 福岡縣遠賀郡岡垣村外一 海老津炭礦株式會社

昨年十二月著工セル新坑(第七坑)ハ著々進行シ本卸坑道ニ於テ約一〇米ノ掘進ヲ爲シ既ニ著炭セルヲ以テ三月ニハ曲片坑道ヲ設ケ漸次出炭ノ見込ナルモ第三坑ハ老境ニ入り殆ド經濟的稼行區域ノ探掘ヲ終了シ漸次探掘區域ヲ縮少シツ、アリ明年二月ヲ以テ廢坑トナル豫定ナリ

明治炭礦 石炭 福岡縣鞍手郡直方町外三 明治鑛業株式會社

出炭制限ノ爲メ十月十一日限リ第二坑ノ操業ヲ中止シ同坑内電氣捲揚機六臺、坑内「タービンポンプ」一〇臺、坑口主要扇風機一臺其ノ他扇風機二臺、汽罐三臺等ノ使用ヲ廢止シ坑外「エンドレスロープ」ノ撤回ヲナシタリ、但シ第一坑ニ於テハ曲片間距離ノ短縮ト鑿岩機増設ニヨリ切羽一間當ノ出炭増加セリ

泉水炭礦 石炭 福岡縣鞍手郡西川村外一 大正鑛業株式會社

炭界不況ノ爲メ十月限リ採炭事業ヲ休止セリ

古河目尾炭礦 石炭 福岡縣鞍手郡小竹町外四 古河鑛業株式會社

送炭制限ノ關係ニ依リ十月ヨリ鹽頭坑ノ探掘ヲ廢止セリ

上山田炭礦 石炭 福岡縣嘉穂郡山田町外二 三菱鑛業株式會社

炭界不況送炭制限對策トシテ五月中山田坑口ヲ閉鎖シ上山田、中山田坑共出炭ハ全部廢坑ヨリ搬出、鑛夫ノ入昇坑モ廢坑ヨリ行フコト、シ、中山田選炭機ヲ中止スルト共ニ同坑下山田驛間專用鐵道使用ヲ休止セリ、尙全體ヲ通シ漸次探掘條件ノ有利ナラザル區域ノ稼行ヲ休止シ、出炭ノ制限ヲナスト共ニ經費ノ遞減ヲ計レリ、十一月中山田坑在住稼働者ハ

全部上山田ニ移轉セシメ坑外ヲモ全部閉鎖セリ

漆生炭礦 石炭 福岡縣嘉穂郡大隈町外二 久恒鑛業株式會社

石炭界ノ不況ニ因リ出炭制限ノ止ムヲ得ザルニ至リ遂ニ六月ヨリ三尺坑ノ採炭ヲ休止シ五尺坑ノミ採炭スルコト、セリ、此ノ結果事業箇所ノ約三分ノ一ヲ減ズルニ至リ從來ノ出炭能力一ヶ年一八〇、〇〇〇噸ナリシモノガ約一二〇、〇〇〇噸ニ減退セリ、而シテ三尺坑口据付ノ六一〇耗兩汽笛蒸氣捲揚機一臺ノ運轉ヲ休止セリ

柚木原炭礦 石炭 佐賀縣小城郡北多久村外一 三菱鑛業株式會社

中央坑ハ財界不況ノ影響ヲ受ケ收支相償ハザル結果本年六月以降稼業ヲ中止中ニシテ杉元坑モ同様ノ理由ノタメ同年九月以降廢坑シタリ

相知芳谷炭礦 石炭 佐賀縣東松浦郡相知村外一 三菱鑛業株式會社

相知本坑、同二坑及岸岳坑ハ何レモ炭層惡化又ハ採掘終了ノ爲局部的ニ漸次縮少シツ、アリ、芳谷二坑ハ擴張セルモ單ニ減産緩和策ニ過ギズ

祝ヶ浦炭礦 石炭 長崎縣北松浦郡小佐々村 株式會社祝ヶ浦炭坑

本卸並ニ斜卸採鑛ノ結果火山岩ノ突入甚シク炭層惡化シ稼行ノ價值ナキヲ以テ已ムヲ得ズ中止シ上部殘炭ノ採掘ヲ終了スルト共ニ二・四「キロワット」捲揚機一臺、二・二・四「キロワット」電氣「タービンポンプ」二臺、一・一・二「キロワット」三・七「キロワット」、一・四九「キロワット」電氣「タービンポンプ」各一臺ヲ廢止セリ、尙ホ一坑水平坑道詰ヨリ約一、一〇〇米ノ掘進豫定ヲ以テ水平坑道ヲ開鑿シ矢岳炭礦新斜卸ニ貫通セシメ同坑ト合併施業ヲナシ以テ本坑ヲ運搬排水通氣坑道トナス計畫ナリ

(乙) 休業セル鑛山

根室鑛山 金銀銅 樺室國標津郡標津村 柘原角兵衛

十月現鑛業權者ノ手ニ歸シ、從來同様坑内探鑛並ニ試錐探鑛(上總掘)ヲ試ミ鑛床ノ開發ニ努メ居リシカ財界ノ不況及業界ノ不振ニヨリ遂ニ十二月ヨリ休業セリ

八田鑛山 格魯謨鐵 日高國町流郡平取村 八田勇馬

銳意探鑛ニ努メ二、三ノ鑛床ヲ發見シ一時探鑛ヲナシタルモ、鑛石ノ品位ハ特ニ良好ナラス且ツ運搬關係等ヨリ現在ノ鑛況ニテハ事業繼續ノ望ナク十二月ヨリ休業セリ

厚真鑛山 (試登第二五九八號) 石油 膽振國勇拂郡厚真村 日本石油株式會社

銳意探鑛ノ歩ヲ進メ、本年度ハ「ロータリー」式油井八坑ヲ開坑シテ全部成功セリ、油井深度ハ五二一米乃至五六五米ナリ、之等ノ油井掘鑿用トシテ汽機(一八・キロワット)一臺汽罐二臺ヲ設置シ、尙採油用トシテ一「キロワット」瓦斯發動機一臺、三段「エクセントリック」型「ポンピングパワー」一臺ヲ新設シタリシガ操業ノ都合ニヨリ鑛區中ノ油井存在區域ハ厚真鑛山(探登第一二號)ニ増區合併シ殘部鑛區ハ十一月ヨリ休業セリ

厚真鑛山 (試登第二五一六號) 石油 膽振國勇拂郡厚真村 日本石油株式會社

前年度開坑セル網式第一號井ハ深度八二五米ニ達セルカ採算的出油ヲ見ズ五月ヨリ休業セリ

湯本炭礦 石炭 福島縣石城郡湯本町 三井鑛山株式會社

七月二十六日斜坑右一卸ヨリ不慮ノ大出水アリ全坑内ヲ水没セル爲遂ニ八月十五日限り休業スルノ止ムナキニ至リタリ

東京					札幌						
計			試掘		採掘		計				
普通	重要	重要	普通	重要	普通	重要	普通	重要	重要		
二九	一五	一三	五	四	一	二	四	二	八	二	五
三	六	五	四	三	二	三	五	三	四	二	八
二	四	二	五	五	五	一	六	九	二	五	四
四	四	四	四	八	八	一	四	三	四	四	七
五	七	二	八	五	四	一	五	四	二	七	三
六	二	四					六	二	四	七	三
一	一						一	一			
一	九	一	四	一	四	一	一	五	一	四	二

仙臺			札幌			局鐵山監督 管内別												
試掘		採掘	計		試掘	採掘												
普通	重要	重要	普通	重要	普通	重要												
五	一	一	八	五	七	三	三	三	一	七	九	九	一	一	二	四	一	七
五	一	一	五	三	二	七	四	一	二	〇	〇	一	一	七	四	一	二	
二			三	六	四	九	五	三	四	五	三	三	一	四	二	四	五	
〇			三	七	一													
〇			八	九	一	八	二	九	一	二	七	七	一	四	二	二		
二			五	一	一	三	〇	四	一	五	一	一	一	九	三	一	五	
二	五	一	二	九	一	四	一	二	六	七	四	三	九	元	元	一	七	二

第七章 製鐵業

概況

昭和五年中ニ於ケル本邦製鐵業ハ一般財界不振ノ影響ヲ受ケ銑鐵鋼材共ニ需要著シク減退シ當業者ハ生産制限協定、共同販賣協定等各種ノ方法ニヨリテ市價ノ維持外國品ノ驅逐ニ努力シタルモ不況ハ更ニ深刻化スルニ至レリ銑鐵ニ在リテハ印度銑ノ輸入昭和五年二一四、三三四吨ニシテ昭和四年ノ輸入四一一、四七七吨ニ比シ約半減シタルモ本邦ニ於テモ十一月迄ニ日本製鋼所ニ於テ一基八幡製鐵所ニ於テ四基（東洋製鐵ノ一基ヲ含ム）ノ熔鑪爐ヲ吹下ロシ又釜石鑛山ニ於テモ改造セル熔鑪爐ノ吹入レヲ無期延期スル等生産ノ調節ニ努メタルモ年末ニ於ケル在庫高ハ約四十六萬吨（滿鮮ヲ含ム）ニ達シ昭和四年末ノ約三十一萬吨ニ比シ約十五萬吨ノ激増ヲ示セリ一面其市價ハ需要減退並ニ印度銑トノ競争ニヨリテ昭和五年年初一吨四〇圓五〇ナリシモノ年末ニハ三二圓〇〇ニ激落スルニ至リ近年稀ニ見ル悲況ニ陥リタリ

鋼材ニ在リテハ各種鋼材ノ輸入額昭和五年四三四、八四三吨ニシテ昭和四年ノ七八四、九六五吨ニ比シテ著シク減少セリ之ニ對シ生産額ハ昭和五年一、九一九、二九〇吨ニシテ昭和四年ノ二、〇三三、八八〇吨ニ比シ僅少ノ減少ニ止リタル結果需要額ニ對スル本邦產鋼材供給ノ割合ハ増加セリ唯其市價ニ於テハ下落ノ著シキモノアリ例ヘバ鋼材市價ノ標準タル丸鋼「ベース」物ノ賣價ハ昭和五年年初八十三圓ナリシモノ年末ニハ五十七圓トナリ年間ニ二十圓以上ノ激落ヲ示シタルガ其原因タルヤ外國品トノ競争ニ因ルヨリハ寧ロ内地當業者間ニ於ケル生産販賣ノ統制充分ナラザルニ因ルモノト認メラル

而シテ斯ノ如キ苦境ニ沈淪セル當業者ノ間ニハ自ラ生産販賣ノ統制ニ付深キ考慮ヲ拂フノ傾向ヲ生シ來リ昭和五年中ニハ各種ノ生産販賣ニ關スル統制協定ノ成立ヲ見若クハ其ノ成立ノ氣運ヲ著シク促進セララルニ至レリ今年末ニ於ケル之等

ノ統制協定ノ狀況ヲ示セハ左ノ如シ



(一) 内地銑鐵及合金鐵生産額

年次	鋼材		合金鐵	
	棒鋼	山形鋼	銑鐵	合金鐵
大正九年	4,083,953	3,192,311	4,083,953	3,192,311
大正十年	4,281,881	3,219,729	4,281,881	3,219,729
大正十一年	5,311,321	3,811,233	5,311,321	3,811,233
大正十二年	5,818,233	4,219,729	5,818,233	4,219,729
大正十三年	5,818,233	4,219,729	5,818,233	4,219,729
大正十四年	6,678,879	4,811,233	6,678,879	4,811,233
大正十五年	7,794,444	5,411,233	7,794,444	5,411,233
昭和元年	10,111	10,111	10,111	10,111
昭和二年	10,111	10,111	10,111	10,111
昭和三年	10,111	10,111	10,111	10,111
昭和四年	11,000	11,000	11,000	11,000
昭和五年	11,338,855	11,338,855	11,338,855	11,338,855

年次	鋼材		合金鐵	
	棒鋼	山形鋼	銑鐵	合金鐵
大正九年	4,083,953	3,192,311	4,083,953	3,192,311
大正十年	4,281,881	3,219,729	4,281,881	3,219,729
大正十一年	5,311,321	3,811,233	5,311,321	3,811,233
大正十二年	5,818,233	4,219,729	5,818,233	4,219,729
大正十三年	5,818,233	4,219,729	5,818,233	4,219,729
大正十四年	6,678,879	4,811,233	6,678,879	4,811,233
大正十五年	7,794,444	5,411,233	7,794,444	5,411,233
昭和元年	10,111	10,111	10,111	10,111
昭和二年	10,111	10,111	10,111	10,111
昭和三年	10,111	10,111	10,111	10,111
昭和四年	11,000	11,000	11,000	11,000
昭和五年	11,338,855	11,338,855	11,338,855	11,338,855

(二) 朝鮮、滿洲銑鐵生産額

年次	鋼材		合金鐵	
	棒鋼	山形鋼	銑鐵	合金鐵
大正九年	4,083,953	3,192,311	4,083,953	3,192,311
大正十年	4,281,881	3,219,729	4,281,881	3,219,729
大正十一年	5,311,321	3,811,233	5,311,321	3,811,233
大正十二年	5,818,233	4,219,729	5,818,233	4,219,729
大正十三年	5,818,233	4,219,729	5,818,233	4,219,729
大正十四年	6,678,879	4,811,233	6,678,879	4,811,233
大正十五年	7,794,444	5,411,233	7,794,444	5,411,233
昭和元年	10,111	10,111	10,111	10,111
昭和二年	10,111	10,111	10,111	10,111
昭和三年	10,111	10,111	10,111	10,111
昭和四年	11,000	11,000	11,000	11,000
昭和五年	11,338,855	11,338,855	11,338,855	11,338,855

(三) 内地鋼鐵及鋼材生産額

年次	鋼					鐵					
	平爐鋼	轉爐鋼	電氣爐鋼	坩堝鋼	其他	計	平爐鋼	轉爐鋼	電氣爐鋼	坩堝鋼	其他
昭和五年	2,335,451	35	62,440	1,711	2,999,636	48,556	683,841	250,753	570,603	1,913,753	
昭和四年	2,381,968	1,048	52,826	1,711	2,937,553	55,217	683,841	250,753	570,603	1,913,753	
昭和三年	1,833,395	3,303	37,746	1,553	1,875,997	55,217	683,841	250,753	570,603	1,913,753	
昭和二年	1,566,552	8,998	26,577	1,175	1,583,302	49,027	683,841	250,753	570,603	1,913,753	
大正十五年	1,400,633	8,677	18,599	2,747	1,430,656	49,027	683,841	250,753	570,603	1,913,753	
大正十四年	1,088,860	7,933	15,496	1,204	1,113,493	49,027	683,841	250,753	570,603	1,913,753	
大正十三年	1,088,860	6,822	11,985	1,204	1,108,871	49,027	683,841	250,753	570,603	1,913,753	
大正十二年	847,737	10,474	6,992	1,527	866,730	49,027	683,841	250,753	570,603	1,913,753	
大正十一年	807,399	9,033	4,992	2,033	823,457	49,027	683,841	250,753	570,603	1,913,753	
大正十年	797,799	6,487	5,992	2,033	812,311	49,027	683,841	250,753	570,603	1,913,753	
大正九年	641,133	4,847	4,992	1,751	652,723	49,027	683,841	250,753	570,603	1,913,753	

(參照)

(四) 朝鮮鋼鐵及鋼材生產額

年次	鋼			
	平爐鋼	軋鋼	鋼材	計
昭和五年	1,877,081	26,895	36,885	1,940,861
昭和四年	1,977,671	26,895	49,344	2,053,910
昭和三年	1,635,977	31,668	48,675	1,716,320
昭和二年	1,355,559	25,475	43,144	1,424,178
大正十五年	1,279,999	24,253	41,658	1,345,910
大正十四年	963,432	24,733	36,188	1,024,353
大正十三年	775,744	29,566	27,199	832,509
大正十二年	695,408	22,840	23,011	741,259
大正十一年	592,941	33,683	29,033	655,657
大正十年	482,682	27,573	23,187	533,442
大正九年	455,066	27,573	23,187	505,826

主要製鐵所別鐵鋼材生產額

製鐵所名	種別	昭和五年										
		昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	大正十五年	大正十四年	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年
製鐵所	銑鋼	674,651	646,900	650,694	540,918	533,533	456,812	455,066	482,682	505,826	533,442	592,941
	鋼材	1,102,655	1,137,499	1,091,721	1,052,471	940,504	832,509	775,744	695,408	592,941	482,682	455,066
株式會社日本製鋼所	銑鋼	177,943	177,135	109,543	92,104	94,629	73,439	68,219	65,992	65,992	73,439	94,629
	鋼材	270,811	365,544	318,553	270,990	399,505	365,544	318,553	270,990	270,990	318,553	365,544
釜石鑛山株式會社	銑鋼	96,144	98,901	75,995	68,454	65,070	48,099	48,099	48,099	48,099	48,099	48,099
	鋼材	600,005	76,577	66,093	57,180	46,730	46,730	46,730	46,730	46,730	46,730	46,730

富士製鋼株式會社	日本鋼管株式會社	同社電氣製鐵所	東洋製鐵株式會社 (但シ大正十一年ヨリ八 幡製鐵所ニ委託經營)	株式會社大島製鋼所	川崎車輛株式會社 (元川崎造船所兵庫工場)
鋼 鋼 銑 材 材 鐵	鋼 鋼 銑 材 材 鐵	鋼 鋼 銑 材 材 鐵	鋼 鋼 銑 材 材 鐵	鋼 鋼 銑 材 材 鐵	鋼 鋼 銑 材 材 鐵
三二七〇一 二七、八九七	一九五、九四五 一九七、三九〇	一四、九二六	一九一、四三三	三、〇七五 一、六〇〇	二、四四七 五、六五三
三七、八〇五 三七、九九二	二二六、五〇〇 二二二、六八八	一四、二四八	一四一、〇九九	九、三八四 二、八九六	一七、〇八三 六、〇七一
三三、六二二 三四、〇四二	二〇三、五七二 二〇五、四四五	一一、七三七	一八六、三三三	一〇、三三二 四、八九九	七、八四六 五、九九九
二七、八九五 二四、六五二	一六二、二二七 一五六、三三七	一〇、三〇七	一六一、七九一	九、九六一 三、三四〇	一一、〇八二 一〇、二〇九
一九七三〇 二二、三三四	一三六、三五三 一三三、四九〇	七、六三九	一〇七、三三一	一〇、六四八 三、八三二	二二、二九〇 二九、八七一
四六、九〇 八、八七一	二二、四一四 一三、七六六	七、八九一	九九、七三二	五、二二四 五、六〇三	一八、九四六 二九、三〇八

株式會社川崎造船所 製 飯 工 場	大阪製鐵株式會社	株式會社住友製鋼所	住友伸銅管株式會社 尼ヶ崎工場	九州製鋼株式會社 (但シ昭和三年ヨリ八 幡製鐵所ニ委託經營)	株式會社淺野小倉製鋼所
鋼 鋼 銑 材 材 鐵	鋼 鋼 銑 材 材 鐵	鋼 鋼 銑 材 材 鐵	鋼 鋼 銑 材 材 鐵	鋼 鋼 銑 材 材 鐵	鋼 鋼 銑 材 材 鐵
二九一、三三七 二〇六、三三四	四、五七七 三、八七一	二二、四四四 一七、八〇五	二〇、六三四 三、七二五	一〇二、二二八 五、一〇二	六、二五五 六、二二二
一九五、六二五 一八〇、一四六	五、九三三 五、一八	二九、三〇五 二二、五三四	一九、八三二 三、五二九	九八、六二二 三、七八〇	五七、二一五 六、一〇五
一三四、〇七〇 二五、九九二	五、〇一九 四、八〇三	三四、〇六二 三〇、八四九	一七、三二二 二、六五八	九、九二六 五、〇〇〇	四六、九三三 五、〇九七
一〇三、五六五 七七、四三五	三、八五二 三、六三二	三六、〇〇九 三二、三三四	一五、二七三 二、三三七		四四、一九七 三九、一四五
九七、九九 四〇、八二六	三七、四三二 三五、九九一	二八、二五二 二四、二五九	一六、七〇八 二、六〇六		三九、九〇二 三九、二六一
七六、五五五 三七、〇九二	二六、七四五 二六、二八三	二二、八九三 一八、二一九	一六、七五 一五、三〇〇		三六、一五七 三四、四八四

製鐵業	株式會社神戸製鋼所		東海鋼業株式會社		德山鐵板株式會社		株式會社淺野造船部		東京鋼材株式會社		三菱製鐵株式會社 兼二浦製鐵所	
	鋼材	銑鐵	鋼材	銑鐵	鋼材	銑鐵	鋼材	銑鐵	鋼材	銑鐵	鋼材	銑鐵
	九七,三二五	九七,三二五	九六,一五五	八九,四〇四	七三,四八九	六二,三七五	四一,八四三	三九,七八三	四一,二四二	三九,七八三	三九,七八三	三九,七八三
	三,四七〇	三,四七〇	三,四七〇	三,四七〇	三,四七〇	三,四七〇	三,四七〇	三,四七〇	三,四七〇	三,四七〇	三,四七〇	三,四七〇
	五〇,一八七	五〇,一八七	五〇,一八七	五〇,一八七	五〇,一八七	五〇,一八七	五〇,一八七	五〇,一八七	五〇,一八七	五〇,一八七	五〇,一八七	五〇,一八七
	三,二七九	三,二七九	三,二七九	三,二七九	三,二七九	三,二七九	三,二七九	三,二七九	三,二七九	三,二七九	三,二七九	三,二七九
	五八,〇三五	五八,〇三五	五八,〇三五	五八,〇三五	五八,〇三五	五八,〇三五	五八,〇三五	五八,〇三五	五八,〇三五	五八,〇三五	五八,〇三五	五八,〇三五
	六五,八四九	六五,八四九	六五,八四九	六五,八四九	六五,八四九	六五,八四九	六五,八四九	六五,八四九	六五,八四九	六五,八四九	六五,八四九	六五,八四九
	六四,六二〇	六四,六二〇	六四,六二〇	六四,六二〇	六四,六二〇	六四,六二〇	六四,六二〇	六四,六二〇	六四,六二〇	六四,六二〇	六四,六二〇	六四,六二〇
	二,一五五	二,一五五	二,一五五	二,一五五	二,一五五	二,一五五	二,一五五	二,一五五	二,一五五	二,一五五	二,一五五	二,一五五
	一三,七四	一三,七四	一三,七四	一三,七四	一三,七四	一三,七四	一三,七四	一三,七四	一三,七四	一三,七四	一三,七四	一三,七四
	一五〇,五五	一五〇,五五	一五〇,五五	一五〇,五五	一五〇,五五	一五〇,五五	一五〇,五五	一五〇,五五	一五〇,五五	一五〇,五五	一五〇,五五	一五〇,五五
	一五,六二七	一五,六二七	一五,六二七	一五,六二七	一五,六二七	一五,六二七	一五,六二七	一五,六二七	一五,六二七	一五,六二七	一五,六二七	一五,六二七
	一四六,一五九	一四六,一五九	一四六,一五九	一四六,一五九	一四六,一五九	一四六,一五九	一四六,一五九	一四六,一五九	一四六,一五九	一四六,一五九	一四六,一五九	一四六,一五九
	二,九〇三	二,九〇三	二,九〇三	二,九〇三	二,九〇三	二,九〇三	二,九〇三	二,九〇三	二,九〇三	二,九〇三	二,九〇三	二,九〇三
	一五,一四一	一五,一四一	一五,一四一	一五,一四一	一五,一四一	一五,一四一	一五,一四一	一五,一四一	一五,一四一	一五,一四一	一五,一四一	一五,一四一
	七,六五八	七,六五八	七,六五八	七,六五八	七,六五八	七,六五八	七,六五八	七,六五八	七,六五八	七,六五八	七,六五八	七,六五八
	五,七〇〇	五,七〇〇	五,七〇〇	五,七〇〇	五,七〇〇	五,七〇〇	五,七〇〇	五,七〇〇	五,七〇〇	五,七〇〇	五,七〇〇	五,七〇〇
	一,一〇一	一,一〇一	一,一〇一	一,一〇一	一,一〇一	一,一〇一	一,一〇一	一,一〇一	一,一〇一	一,一〇一	一,一〇一	一,一〇一
	一五,〇三六	一五,〇三六	一五,〇三六	一五,〇三六	一五,〇三六	一五,〇三六	一五,〇三六	一五,〇三六	一五,〇三六	一五,〇三六	一五,〇三六	一五,〇三六
	九,一六〇	九,一六〇	九,一六〇	九,一六〇	九,一六〇	九,一六〇	九,一六〇	九,一六〇	九,一六〇	九,一六〇	九,一六〇	九,一六〇

内地銑鐵及鋼材需給高

(一) 内地銑鐵需給高 (合金鐵ヲ含ム)

年次	内地產出額	輸移入額	計	輸移出額	差引需要額	需要額ニ對スル 產出額ノ割合
大正八年	六二,六〇九	三,四八七	九六,一三六	一七,〇三四	九四,二八二	六五%
同 九	五九,八七五	三,九〇六	九〇,三四一	九,七八五	九一,〇五六	五九%
同 十	四八,〇〇〇	二,七二八	七五,五八四	五,七六八	七五,〇八六	六四%
同 十一	五五,九三〇	四,〇六六	九六,八九六	五,二八二	九六,三三四	五六%
同 十二	六二,〇七五	四,九四二	一〇四,一九三	五,一三一	一〇三,四九六	五九%
同 十三	五九,〇二九	五,〇二二	一一一,一五一	七,二七〇	一一一,一八二	五四%
同 十四	六九,六七〇	四,〇二二	一一〇,九二八	六,五〇三	一一〇,九二八	六四%
同 十五	八三,八三三	五,八四二	一三〇,二四四	四,六八六	一三五,五五八	六二%
昭和二年	九二,一八三	五,〇六〇	一四九,八五三	四,三三五	一四八,八五二	六二%
同 三年	一一,〇九六	七,二七三	一八二,三六一	四,九〇四	一八七,四五七	六一%
同 四年	一一,二四三	七,九八六	一九〇,二九八	三,七七二	一九〇,三二七	五六%
同 五年	一一,八七四	五,八〇二	一七五,五〇二	五,四二二	一七〇,〇九〇	七〇%

(二) 内地鋼材需給高

年次	内地產出額	輸移入額	計	輸移出額	差引需要額	需要額ニ對スル 產出額ノ割合
大正八年	五,四八五	七,四九二	一二,七三三	一〇,八四五	一,六五〇	四七%
同 九	五,三三七	一〇,三九四	一五,七二八	九,七三二	一四七,五四三	三六%
同 十	五,四九四	六,四八〇	一二,一七五	八,四七二	一,二六,九九四	五〇%

同 正 十 一 年	同 正 十 二 年	同 正 十 三 年	同 正 十 四 年	同 正 十 五 年	同 正 十 六 年	同 正 十 七 年
六六,七八一	七五,六七四	八四,三四七	一〇四,九七八	一二五,六三〇	一四一,五二二	一七〇,四八九
一,〇〇,八三八	七九九,一七七	一,一五,四〇二	五三二,八九一	九四,七三二	八四,二六四	七九〇,〇五八
一,七二,六一九	一,五五,八五一	一九五,七四九	一,五七,五八九	二,一八,〇三三	二,三九,三八五	二,八三,九三八
八三,二九八	九七,八五三	九一,〇九五	一〇七,五〇五	二,〇〇,三八九	一五,七四三	二〇三,七七二
一,六七,九三二	一,四五,九九八	一,九〇,六五四	一,四六,八三三	二,〇六,五七四	二,〇七,六四二	二,六二〇,一六七
三九%	五二%	四四%	七二%	六一%	六八%	九〇%

第八章 鑛業會社 (鑛業別會社數、資本額、其他)

(一) 會社總數

年 次	種 別	社 數	出資額又 公稱資本額	積 立 金	純 益 金	配 當 金	純 損 金
大正十二年	金屬鑛業	五三	三四七,二五九,〇〇〇	四〇,一七,三八二	五,一六五,五七〇		五,二二,一九二
	石炭鑛業	一〇七	四一六,八九四,七五〇	三九,九七五,二〇七	一八〇,五五,六四九		三,〇四三,八三二
	石油鑛業	三三	一五三,二五〇,〇〇〇	二二,二四四,六四五	一〇,四二三,四八六		二,三〇,七五三
	其他ノ鑛業	二五	三三,八六〇,五〇〇	五〇,九,二二七	二八七,二二七		四,五八,六三六
計	二〇六	九四一,二六四,二五〇	一〇,一八四,六六一	三三,九二,一九三		八,九四五,二〇二	
大正十三年	金屬鑛業	六四	四七五,四七九,〇〇〇	四二,八五六,〇四八	一三,四九二,三三〇		三,二八〇,一七五
	石炭鑛業	九七	四〇〇,六四一,七五〇	四一,〇一六,七二二	一三,九八七,六八六		四,二五五,五五九
	石油鑛業	二五	一四五,八六五,〇〇〇	二二,一〇二,六三三	一〇,七七七,一九九		四,七七,六七八
	其他ノ鑛業	二〇	一三,六五〇,五〇〇	四三七,〇五四	六〇六,三六三		八,五六,六一〇
計	二〇六	一,〇三五,六三六,二五〇	一〇,六四二,四四七	三八,八八三,五五八		八,〇九九,〇三二	
大正十四年	金屬鑛業	六六	四六八,〇九二,五五〇	四三,六九八,〇四二	一三,五五四,二二六	六,八四九,二二四	二,一四七,九六五
	石炭鑛業	九一	三六六,九四五,五〇〇	四二,〇三九,四九七	一一,二六七,五七五	八,六七二,三〇〇	三,八〇九,〇五四
	石油鑛業	二〇	一五,八〇〇,〇〇〇	二四,三三〇,四三八	一〇,三〇八,二二二	九,三五六,八〇〇	二,一〇,七六二
	其他ノ鑛業	一五	六,八六五,〇〇〇	三五,一七〇	三三,一六八	二〇,八〇五〇	一,五六,五六七
計	一九二	一,〇三〇,七〇七,〇五〇	一一,一四九,六九七	三五,三七一,五〇二	二五,〇八二,七四	六,三三四,三四八	

昭和十五年	昭和二年	昭和三年	昭和四年
金屬鑛業	七六	六九	七九
石炭鑛業	九七	一〇五	一〇〇
石油鑛業	三三	二八	二六
其他ノ鑛業	一九	九	二二
計	二〇五	二〇二	二二六
金屬鑛業	五八,九五二,五〇〇	四七,四〇八,四〇〇	四九,七四八,四〇〇
石炭鑛業	三四,三九五,七〇〇	三八,六四三,七〇〇	三六,八五三,二〇〇
石油鑛業	一四七,七〇〇,〇〇〇	一六九,〇六二,〇〇〇	一五三,三三二,〇〇〇
其他ノ鑛業	一〇,八八五,〇〇〇	六,三五〇,〇〇〇	一四,七〇三,五〇〇
計	一,〇七三,〇三三,九〇〇	九七九,一八九,〇〇〇	一,〇四〇,九〇〇,〇〇〇
金屬鑛業	七,三三六,九九一	六,四二〇,〇九四	四,五二一,二五八
石炭鑛業	二七,七七一,二五四	三〇,三六六,六四〇	三〇,三六六,六四〇
石油鑛業	二〇,一九二,四七九	二二,〇九四,七二二	二二,〇九四,七二二
其他ノ鑛業	四九三,七〇九	一,三三三,六六七	一,二七八,一七
計	三二,六四三,六一九	三〇,六二二,五〇四	二六,九四九,二九六
金屬鑛業	一八,八二二,〇六六	二七,三五一,〇一九	二七,三五一,〇一九
石炭鑛業	七,四九八,八五四	一三,七〇六,八七一	一三,七〇六,八七一
石油鑛業	九,二五〇,四五〇	一五,八四二,四〇〇	一五,八四二,四〇〇
其他ノ鑛業	五五二,三五六	七三,七九八	七三,七九八
計	三六,〇七三,七四六	四三,六六八,一八〇	五六,六七九,七〇八
金屬鑛業	一〇,七五二,三三七	一八,〇〇五,三三四	一八,〇〇五,三三四
石炭鑛業	五,三七六,一六五	八,五八八,七五	八,五八八,七五
石油鑛業	一,五六一,四一〇	六,六六六,〇〇〇	六,六六六,〇〇〇
其他ノ鑛業	三〇九,〇〇〇	四九一,三三〇	四九一,三三〇
計	一七,九四九,一〇二	三〇,一六三,三七八	三三,七五一,三六九
金屬鑛業	二,四三二,六一一	一四,九八三,二一八	一四,九八三,二一八
石炭鑛業	五,八八一,六五二	三,〇九二,九四二	三,〇九二,九四二
石油鑛業	一八一,七七七	二,三三三,三八八	二,三三三,三八八
其他ノ鑛業	六七,三四三	一〇,九〇七	一〇,九〇七
計	八,五六三,三八三	四,三三三,九二二	四,三三三,九二二

(二) 合名會社

昭和十五年	大正十四年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十二年	大正十三年	昭和四年
金屬鑛業	一〇	八	三	一〇	八	三	九
石炭鑛業	一	二	一	一	二	一	一
石油鑛業	一	三	一	一	三	一	一
其他ノ鑛業	一	一	一	一	一	一	一
計	一三	一四	一四	一三	一四	一四	一三
金屬鑛業	二,七九〇,〇〇〇	二,八〇四,〇〇〇	二,八〇四,〇〇〇	二,七九〇,〇〇〇	二,八〇四,〇〇〇	二,八〇四,〇〇〇	二,六六九,〇〇〇
石炭鑛業	一〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五〇,〇〇〇	五,五三五
石油鑛業	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	三,〇〇〇
其他ノ鑛業	三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	九三
計	二,七九〇,〇〇〇	三,〇〇四,〇〇〇	三,〇〇四,〇〇〇	二,七九〇,〇〇〇	三,〇〇四,〇〇〇	三,〇〇四,〇〇〇	三,〇〇〇
金屬鑛業	五八〇,二七三	五九〇,一五八	五九〇,一五八	五八〇,二七三	五九〇,一五八	五九〇,一五八	五,五三五
石炭鑛業	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三,〇〇〇
石油鑛業	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	九三
其他ノ鑛業	六,一〇一,七三三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	六,一〇一,七三三	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	九三
計	六,一〇一,七三三	六,一〇一,七三三	六,一〇一,七三三	六,一〇一,七三三	六,一〇一,七三三	六,一〇一,七三三	九三
金屬鑛業	五,一五〇,〇〇〇	七,六三二	七,六三二	五,一五〇,〇〇〇	七,六三二	七,六三二	五,五三五
石炭鑛業	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三,〇〇〇
石油鑛業	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	九三
其他ノ鑛業	三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	九三
計	五,一五〇,〇〇〇	五,一五〇,〇〇〇	五,一五〇,〇〇〇	五,一五〇,〇〇〇	五,一五〇,〇〇〇	五,一五〇,〇〇〇	九三
金屬鑛業	二,九三,七〇三	一,五〇,六一	一,五〇,六一	二,九三,七〇三	一,五〇,六一	一,五〇,六一	三,三三七
石炭鑛業	一,三〇,九六	一,三〇,九六	一,三〇,九六	一,三〇,九六	一,三〇,九六	一,三〇,九六	三,三三七
石油鑛業	一,一五,四九	一,一五,四九	一,一五,四九	一,一五,四九	一,一五,四九	一,一五,四九	三,三三七
其他ノ鑛業	一八五,〇九四	一八五,〇九四	一八五,〇九四	一八五,〇九四	一八五,〇九四	一八五,〇九四	三,三三七
計	一,三〇,九六	一,三〇,九六	一,三〇,九六	一,三〇,九六	一,三〇,九六	一,三〇,九六	三,三三七

昭和二年	昭和三年	昭和四年
計	計	計
石炭鑛業	石炭鑛業	石炭鑛業
石油鑛業	石油鑛業	石油鑛業
其他ノ鑛業	其他ノ鑛業	其他ノ鑛業
金屬鑛業	金屬鑛業	金屬鑛業
石炭鑛業	石炭鑛業	石炭鑛業
石油鑛業	石油鑛業	石油鑛業
其他ノ鑛業	其他ノ鑛業	其他ノ鑛業
計	計	計
公稱資本金	公稱資本金	公稱資本金
拂込資本金	拂込資本金	拂込資本金
社債額	社債額	社債額
積立金	積立金	積立金
純益金	純益金	純益金
配當金	配當金	配當金
純損金	純損金	純損金

三五二

(四) 株式會社

大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年	昭和二年
計	計	計	計	計
金屬鑛業	金屬鑛業	金屬鑛業	金屬鑛業	金屬鑛業
石炭鑛業	石炭鑛業	石炭鑛業	石炭鑛業	石炭鑛業
石油鑛業	石油鑛業	石油鑛業	石油鑛業	石油鑛業
其他ノ鑛業	其他ノ鑛業	其他ノ鑛業	其他ノ鑛業	其他ノ鑛業
計	計	計	計	計
公稱資本金	公稱資本金	公稱資本金	公稱資本金	公稱資本金
拂込資本金	拂込資本金	拂込資本金	拂込資本金	拂込資本金
社債額	社債額	社債額	社債額	社債額
積立金	積立金	積立金	積立金	積立金
純益金	純益金	純益金	純益金	純益金
配當金	配當金	配當金	配當金	配當金
純損金	純損金	純損金	純損金	純損金

昭和二年	大正十五年	大正十四年	大正十三年	大正十二年
計	計	計	計	計
金屬鑛業	金屬鑛業	金屬鑛業	金屬鑛業	金屬鑛業
石炭鑛業	石炭鑛業	石炭鑛業	石炭鑛業	石炭鑛業
石油鑛業	石油鑛業	石油鑛業	石油鑛業	石油鑛業
其他ノ鑛業	其他ノ鑛業	其他ノ鑛業	其他ノ鑛業	其他ノ鑛業
計	計	計	計	計
公稱資本金	公稱資本金	公稱資本金	公稱資本金	公稱資本金
拂込資本金	拂込資本金	拂込資本金	拂込資本金	拂込資本金
社債額	社債額	社債額	社債額	社債額
積立金	積立金	積立金	積立金	積立金
純益金	純益金	純益金	純益金	純益金
配當金	配當金	配當金	配當金	配當金
純損金	純損金	純損金	純損金	純損金

三五三

昭和三年	昭和四年	計		延		工	
		男	女	男	女	男	女
金屬鑛業	金屬鑛業	五〇	一六八	四一五,三九〇,五五〇	二八〇,九九二,八六八	三六,八〇二,九八〇	一七,五〇四,六三三
石炭鑛業	石炭鑛業	九二	一〇七	三八五,六七〇,〇〇〇	二四〇,〇八六,〇〇〇	二六,七四四,五六九	一五,二四一,七四六
石油鑛業	石油鑛業	一七	一七	一六九,〇五〇,〇〇〇	一三〇,六二四,六六六	二五,五二二,四〇三	七,二五五,八七四
其他ノ鑛業	其他ノ鑛業	八	八	六二,五〇〇,〇〇〇	五,二三八,七五〇	一,三三三,六六七	六七,〇五一
計	計	一六八	一六八	九七六,三五五,五五〇	六七二,九〇三,二二九	一〇〇,四三三,六〇〇	一七,八〇三,一五六
金屬鑛業	金屬鑛業	五九	五九	四九六,三六六,五五〇	三三二,六二二,四八三	六二,三六五,〇七四	一四,七七一,七五一
石炭鑛業	石炭鑛業	八七	八七	三六七,八九五,〇〇〇	二六四,一三三,〇二七	三〇,一九八,二五〇	一八,五〇四,八一
石油鑛業	石油鑛業	一四	一四	一五三,二五〇,〇〇〇	一〇六,八〇〇,〇〇〇	二二,〇九四,七二二	一六,八四四,〇〇〇
其他ノ鑛業	其他ノ鑛業	一	一	一四,六四〇,〇〇〇	一,二六七,五三五	一,一七八,一七	一六五,八七四
計	計	一七九	一七九	一,〇三二,一七一,五五〇	七四四,九三〇,五五五	一〇〇,七五七,一〇〇	一八,五五九,三五五

備考 一、前各表ハ商工大臣官房統計課鑛業會社統計表ニ依ル
 二、前各表ニ掲ケタル數字ハ十二月末日現在ノモノトス但シ出資額又ハ資本金、社債額及積立金ハ同年ノ最後ノ決算期ニ於ケル現在額トシ純益金、配當金及純損金ハ右決算期ヨリ前一年間ニ於ケル決算額トス
 三、二種以上ノ鑛業ヲ爲ス會社ニ付テハ其ノ主タル鑛業ニ依ル

第九章 鑛業從業者

第一 鑛夫

概要

昭和五年六月末日現在鑛夫總人員ハ二十五萬八千四百六十九人ニシテ内男二十一萬四千八百三十六人(總人員ノ八割三分一厘)女四萬三千六百三十三人(總人員ノ一割六分九厘)ナリ、之ヲ其就業スル鑛山ノ種類ニ依リ大別スレバ金屬山四萬五千二十五人(總人員ノ一割七分四厘)、石炭山二十萬四千五百二十六人(總人員ノ七割九分二厘)、石油山四千九百七十三人(總人員ノ一分九厘)、其他ノ非金屬山三千九百四十五人(總人員ノ一分五厘)ニシテ更ニ之ヲ坑内外ニ分テバ坑内十七萬四千三百七十七人(總人員ノ六割七分四厘)、坑外八萬四千六百六十二人(總人員ノ三割二分六厘)ナリ、年齡別ニ於テハ十六歲未満三千三百三人(總人員ノ一分二厘)、十六歲以上五十歲未満二十四萬八千八百一人(總人員ノ九割三分六厘)、五十歲以上一萬三千五百六十五人(總人員ノ一分二厘)ヲ算ス、即チ左表ノ如シ

年齡別鑛夫人員(昭和五年六月末日現在)及延工數

種別	十六歲未満		十六歲以上		五十歲以上		合		計		延		工	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
金屬山	五三	七〇	三七,四四五	四一,四二一	二,五三〇	三六	四〇,四九八	四,五七七	四五,〇二五	二,二八四	一,三九三	一三,七四二	一,九四五	一,三九三
石炭山	一六六	八〇	一五五,三三四	三六,三五〇	九,〇四二	一,八八九	一六六,〇八六	三八,四四〇	二〇四,五二六	一,五七二	七,八三一	四九,四〇四	一〇,〇〇三	一〇,〇〇三
石油山	三三	一	四,五一五	二四八	一五二	二五	四,七〇〇	二七三	四,九七三	一,四三四	三三九	七,二九一	一,五〇七	二,五七
其他ノ非金屬山	七	八	三,三四三	三七五	二〇二	一〇	三,五五二	三,六三三	三,九四五	九三五	五〇五	九,一八七	一,〇七三	一,〇七三
計	二二四	一八七	二〇〇,六八七	四一,二四一	一,二九五	一,六四〇	二四,八八六	四三,六三三	二五八,四六九	四,五五五	四,八七	九,二三五	六,六八一	一三,三三

